

福井工業高等専門学校

# 自己点検・評価報告書



平成23年3月



独立行政法人国立高等専門学校機構

福井工業高等専門学校

## まえがき

本校は、本年で創立46周年を迎える。この間、本科卒業生約6,400名、専攻科修了生約290名を社会に送り出し、わが国の産業発展に寄与するとともに地域社会に多大の貢献を果たしてきた。国立高等専門学校は、主として公費で運営されており、その運営状況を外部に公開し、内容を国民に積極的に説明するとともに、常に改善に努めることが求められている。本校は平成16年の法人化から7年経過しようとしており、昨年度からは第2期中期計画に基づいて教育研究活動を展開している。本校の教育プログラムは、日本技術者教育認定機構（JABEE）により認定され、認定校としての社会的評価を得るとともに、本校専攻科修了生は技術士一次試験が免除され、最短26歳で技術士の資格が取れることとなっている。また、本校は平成17年に全国高専のトップを切って大学評価・学位授与機構による認証評価を受審し、「本校は高等教育の基準を満たしており、改善を要する点はない」との認定を受けた。特に、平成17年度から工学基礎コースを設置し、1年全科共通科目としての「ものづくり科学」を新設したことなど、本校の取り組みの幾つかが優れたものとして併せて認定されたことは、教職員が普段から取り組んできた努力の成果だと考えている。

本校では、自己点検・評価委員会を中心として「福井高専教育点検システム」を整備し、普段から本校の教育内容のレベル維持に努めている。本自己点検・評価報告書は、平成22年2月にまとめた同報告書に続くもので、本校の教育・研究活動の全貌を記載している。

上記福井高専教育点検システムでは、計画(Plan)、実施および運用(Do)、点検・検証(Check)、見直し・改善(Action)の、いわゆるPDCAサイクルが當時運用されるが、その要が毎年刊行されている本報告書であり、外部に公開して第三者のご批判、評価、ご意見を戴くことをその目的とする。本校では、学外からの意見を仰ぐため、福井工業高等専門学校外部有識者会議を設置し、本校の教育研究目標と計画、自己評価、その他本校の運営に関する重要事項について助言と勧告を得ることとしており、本書はそのための基礎資料としても利用に供される。

本書が本校内外で活用されて、本校の教育研究の一層の改善・充実につながることを期待している。

平成23年3月

福井工業高等専門学校

校長 池田 大祐

## 目 次

### ま え が き

|      |                         |    |
|------|-------------------------|----|
| I.   | 本校の現状と特色                | 1  |
| I-1  | 現状と特色                   | 1  |
| I-2  | 学科構成                    | 2  |
| I-3  | 学習と教育の目標                | 3  |
| I-4  | 第Ⅱ期中期計画及び平成22年度アクションプラン | 7  |
| I-5  | 研究活動の状況                 | 19 |
| I-6  | 地域への支援                  | 20 |
| I-7  | 特別教育研究経費などの採択状況         | 21 |
| I-8  | 広報活動                    | 32 |
| I-9  | 将来計画                    | 34 |
| II.  | 各学科・教室の教育理念             | 36 |
| II-1 | 一般科目教室                  | 36 |
| 1.   | 教育理念・教育目標               | 36 |
| 2.   | 将来計画                    | 36 |
| 3.   | 重点課題                    | 37 |
| II-2 | 機械工学科                   | 37 |
| 1.   | 教育理念・教育目標               | 37 |
| 2.   | 将来計画                    | 38 |
| 3.   | 重点課題                    | 38 |
| 4.   | 進学・就職指導状況               | 39 |
| II-3 | 電気電子工学科                 | 40 |
| 1.   | 教育理念・教育目標               | 40 |
| 2.   | 将来計画                    | 40 |
| 3.   | 重点課題                    | 41 |
| 4.   | 進学・就職指導状況               | 41 |
| II-4 | 電子情報工学科                 | 41 |
| 1.   | 教育理念・教育目標               | 41 |
| 2.   | 将来計画                    | 42 |
| 3.   | 重点課題                    | 42 |
| 4.   | 進学・就職指導状況               | 43 |

|                                            |     |
|--------------------------------------------|-----|
| II-5 物質工学科                                 | 4 3 |
| 1. 教育理念・教育目標                               | 4 3 |
| 2. 将来計画                                    | 4 4 |
| 3. 重点課題                                    | 4 4 |
| 4. 進学・就職指導状況                               | 4 4 |
| II-6 環境都市工学科                               | 4 5 |
| 1. 教育理念・教育目標                               | 4 5 |
| 2. 将来計画                                    | 4 6 |
| 3. 重点課題                                    | 4 7 |
| 4. 進学・就職指導状況                               | 4 7 |
| III. 専攻科                                   | 4 8 |
| 1. 教育理念・教育目標                               | 4 8 |
| 2. 将来計画                                    | 4 9 |
| 3. 重点課題                                    | 4 9 |
| IV. 教務関係                                   | 5 0 |
| 1. 基本方針                                    | 5 0 |
| 2. 教育関連の課題と今年度の対応                          | 5 0 |
| 3. 原子力人材育成教育、長岡技術科学大学との戦略的<br>技術者育成協働教育の開始 | 5 1 |
| 4. 入学者確保とその状況                              | 5 1 |
| 5. 留学生受け入れ状況                               | 5 9 |
| 6. 在校生の状況                                  | 6 0 |
| 7. 平成 22 年度入学者選抜中学校別志願者数等一覧                | 6 1 |
| V. 進路指導関係                                  | 6 3 |
| 1. 基本方針                                    | 6 3 |
| 2. 本校卒業後・修了後の進路                            | 6 3 |
| 3. 進路決定の流れ                                 | 6 4 |
| 4. 進学・就職先一覧                                | 6 6 |
| VI. 学生指導関係                                 | 6 7 |
| 1. 基本方針                                    | 6 7 |
| 2. 学生の活動状況                                 | 6 9 |
| 3. 奨学金受給状況・授業料免除実施状況一覧（平成 22 年度）           | 7 1 |
| VII. 学寮関係                                  | 7 2 |
| 1. 基本方針                                    | 7 2 |
| 2. 寮生の受け入れ状況                               | 7 2 |
| 3. 活動状況                                    | 7 2 |
| VIII. 学生相談室・保健室関係                          | 7 3 |
| (1) 学生相談室                                  |     |
| 1. 基本方針                                    | 7 3 |
| 2. 学生相談室利用状況と相談分野                          | 7 3 |

|                            |     |
|----------------------------|-----|
| (2) 保健室                    |     |
| 1. 基本方針                    | 74  |
| 2. 保健室の利用状況                | 74  |
| IX. 図書館関係                  | 76  |
| 1. 基本方針                    | 76  |
| 2. 活動状況                    | 76  |
| X. 創造教育開発センター              | 78  |
| 1. 創造教育開発センター設立の経緯と業務      | 78  |
| 2. 21年度の活動                 | 78  |
| 3. 次年度への課題など               | 79  |
| X I. 総合情報処理センター            | 80  |
| 1. 基本方針                    | 80  |
| 2. 活動状況                    | 80  |
| 3. 利用状況                    | 80  |
| X II. 地域連携テクノセンター          | 84  |
| 1. 基本方針                    | 84  |
| 2. 活動状況                    | 85  |
| X III. 教育研究支援センター          | 86  |
| 1. 基本方針                    | 86  |
| 2. 活動状況                    | 86  |
| X IV. 評価体制                 | 87  |
| 1. 本校の評価体制                 | 87  |
| 2. 外部評価の受審                 | 87  |
| 3. 外部有識者会議による外部評価          | 87  |
| 4. JABEEへの取り組み             | 90  |
| X V. 資料一覧                  |     |
| ・科学研究費補助金採択一覧              | 93  |
| ・外部資金受入一覧（共同研究・受託研究・奨学寄付金） | 96  |
| ・出前授業・公開講座実施一覧             | 109 |
| ・公開授業実施一覧                  | 123 |
| ・教員の派遣一覧                   | 125 |
| X VI. 教育研究スタッフ一覧           |     |
| ・一般科目教室                    | 127 |
| ・機械工学科                     | 177 |
| ・電気電子工学科                   | 199 |
| ・電子情報工学科                   | 219 |
| ・物質工学科                     | 239 |
| ・環境都市工学科                   | 263 |

## I. 本校の現状と特色

### I-1 現状と特色

本校は、実践的開発型の技術者の養成を目的に昭和40年4月に設置され、これまでに6,418名の本科卒業生及び292名の専攻科修了生を送り出している。現在、「機械工学科」、「電気電子工学科」、「電子情報工学科」、「物質工学科」、「環境都市工学科」の5学科において、実践性と創造性を併せ持つ高度技術者を養成すべく、5年一貫教育を行っている。また、平成10年4月には専攻科を設置し、「生産システム工学専攻」、「環境システム工学専攻」において、さらに進んだ教育を行っている。

教育の特徴としては、豊かな創造力とデザインマインドを持つ技術者を育成するため、「ものづくり教育」を進め、NHKアイデア対決ロボットコンテストでも毎年のように上位に入賞し、平成5年度と平成9年度の2度にわたって最高の賞であるロボコン大賞を獲得している。

本校を目指す中学生に対しては、アドミッションポリシーを示すと共に、平成17年度には、入学時に学科を決められない中学生のために、2年次より転科可能な「工学基礎コース」を全国で初めて設置した。

また、福井高専は地元に立脚した学校及び地元に開かれた学校を目指し、産官学共同研究を進めている。福井県における産官学共同研究ネットワークの中心の一つである「地域連携テクノセンター」では、地元に密着した共同研究を進めている。福井県の伝統産業である和紙の生産者組合、福井県和紙工業協同組合と地元町の依頼により「伝統産業支援室」を設置（平成16年10月）し、和紙に関する共同研究を行っている。

さらに、福井高専の立地する鯖江市は世界最大の眼鏡枠生産地でもあることより、福井県眼鏡工業組合とも新しい産官学共同研究事業を開始し、「地場産業支援室」を設置（平成17年4月）して眼鏡枠材料に関する共同研究を行っている。また、平成17年5月には、これら地域社会との連携をさらに深めるため、本校は近隣2市1町と包括的な連携である「地域連携協定」を結び、さらなる共同研究・出前授業・リカレント教育に取り組んでいる。

国際連携としては海外学生派遣制度の他、平成17年度からオーストラリアのBallarat大学と提携し、学生の相互互換留学制度を開始することとした。平成18年5月には、本校学生17名がBallarat大学へ1週間留学し、英会話と現地の文化歴史に関する学習を行った。平成22年度も年度末2週間程度、本校学生10名を留学させることを予定しており、今後も引き続き、同大学と本校は相互互換留学制度を続けることで合意している。

学校運営の評価として、平成14年度に校外の有識者による外部評価委員会（平成16年度から「評議員会」、平成21年度から「外部有識者会議」）を設置し、開催後に結果の公表を行っている。

本校本科の全学科の4、5年と専攻科の全専攻（生産システム工学専攻、環境システム工学専攻）の1、2年の教育課程を融合複合した「環境生産システム工学」教育プログラムは、平成16年度より日本技術者教育認定機構（JABEE）から、社会の要求を満たし

ている技術者教育プログラムであることの認定を受けている。認定期間の満了に伴い平成21年10月に継続審査を受審し、平成22年5月には、平成21年度からの認定継続が認められた。ただし、専門工学の定義がわかりにくい等の指摘を受けており、これらの指摘によって平成24年に中間審査を受審することになっている。現在、改善へ向けた作業を行っている。

さらに、平成17年11月には(独)大学評価・学位授与機構による「高等専門学校機関別認証評価」を受審し、平成18年3月に「改善事項なし」との評価結果が同機構より発表された。平成24年度には再受審を予定しており、今年度は大学評価・学位授与機構主催の説明会と研修会に関係者を派遣した。

## I-2 学科構成

昭和40年度に本校は「機械工学科、電気工学科、工業化学科」の3つの学科で発足した。これは、工学の基礎となる機械・電気・化学となる学科が構成されたものであるが、工業化学については福井県が繊維及び染色関係の企業が多いことにより設置されたものである。

また、昭和45年度には「土木工学科」が増設されたが、これは、福井県が大手の土木業者を多く出している土木県であると共に、当時の土木技術者不足に対応するためである。さらに、昭和63年度には情報社会の到来を受けて、ハードとソフト両面の情報処理技術者を育成する「電子情報工学科」が増設された。

その後、平成5年度に土木工学科を時代の要請に沿うべく「環境都市工学科」として改組した。また、平成7年度に工業化学科を「物質工学科」として改組し、材料工学コースと生物工学コースの二つのコース制とした。さらに、平成17年度には、電気工学科を「電気電子工学科」とした。これは電気工学科卒業者にも、近年の進展する電子技術を基礎より教育する必要があるため、学科の改組を行ったものである。

したがって、現在の学科構成は本校の基本理念に掲げる環境を意識し、地域社会に根ざしたものづくり教育を行うため「機械工学科、電気電子工学科、電子情報工学科、物質工学科、環境都市工学科」の5学科による構成となっている。すなわち、福井県の主幹産業である、繊維工業、化学工業、眼鏡枠工業、電子電気工業、環境土木産業に基づいた学科構成である。福井県の産業には、繊維工業、眼鏡枠工業などデザイン技術が重要なものが多い。

本校の教育目標では、ものづくり・環境づくり、システムデザイン能力の育成を掲げ、5つの学科で共通にこれらのこと学ぶシステムとなっている。さらに、一般科目では専門の基礎科目、文科系科目を履修し、専門課程での学習に十分に教育効果をあげができるようになっている。

最近10年間の各学科の求人倍率は、各学科ともに10倍を超えており、これは本校の教育システムが社会から受け入れられていることを示している。

### I-3 学習と教育の目標

昭和40年4月に創立された本校は、以下の基本理念と教育方針を掲げている。

#### 基本理念

- ・創造性豊かな人材を育成する。
- ・幅広い工学的素養、基礎能力及び応用能力の育成を目指す実践教育を行う。
- ・高度に情報化した国際社会に対応する教育を行う。
- ・環境を意識し、地域社会に根ざしたものづくり教育を行う。
- ・地域と連携した産官学共同研究の推進を図る。

#### 教育方針

- ・技術者として必要かつ十分な基礎力と専門技術を習得させる。
- ・個性を伸長し、独創的能力の開発に努力する。
- ・教養の向上につとめ、良識ある国際人としての成長を期する。
- ・健康の増進につとめ、身体的精神的に強じんな耐久力を育成する。
- ・規律ある日常生活に徹し、明朗、かつ達な資性のかん養を図る。

これらの基本理念と教育方針に基づいて、本科(準学士課程)と専攻科課程における学習・教育目標を、以下のように制定している。

#### ○学習・教育目標

##### 【本科(準学士課程)】

###### RA. 多様な文化や価値観を認識できる能力の育成

- ① 人間社会の基本的な仕組みを理解し、様々な地域の特性に応じた文化と産業との関係を多面的に認識できること。
- ② 様々な地域における芸術とそれに根ざした価値観を、認識・理解する意識を持つこと。

###### RB. 自然科学と専門分野におけるものづくり、環境づくりに関する基礎能力の育成

- ① 自然科学に関する基礎知識を理解できること。
- ② 専門分野における基礎知識・技術に基づいて工学的現象を正しく理解できること。

###### RC. 計画的に新しい課題に挑戦する能力の育成

- ① 身体・健康・スポーツに関する知識と実践力を獲得するために各自の能力に応じて目標を設定し、個人あるいはグループで課題を達成できること。
- ② 新しく提示された課題に対し、グループや個人で検討し、期限までに結果を報告書または作品で具体的に示せること。

###### RD. 国際社会で活躍するためのコミュニケーション基礎能力の育成

- ① 英語等の外国語の簡単な対話や文章が理解でき、自分の意見・主張を当該外国語を用

いて表現できること。

- ② 日本語の文章や言語作品を的確に理解・鑑賞でき、自分の思いや主張を適切に日本語の談話や文章で表現できること。
- ③ わかりやすい図表等を作成し、それを用いて日本語により効果的な説明ができること。

RE. 問題を発見し、解決策を提案して実行する能力の育成

- ① 実験・調査などにより現象を経験的に学び、データを解析した結果について、理論との比較や考察などができること。
- ② 課題の背景を理解し、習得した知識を生かして適切な方法を選んで実験・調査などを遂行し、データを解析・考察することにより、結果を客観的に説明できること。

【専攻科課程】

JA. 地球的視点の技術者倫理を意識した、ものづくり・環境づくり、システムデザイン能力の育成

- ① 持続可能な地球社会を構築するという目的意識のもと、人間の活動や文明が地球環境に与える影響について理解できること。
- ② 異なる文化圏に属する人々がもつ歴史・伝統などの文化や、それらに根ざした価値観などを、認識・理解する意識を持てること。
- ③ それぞれの地域の特性に応じて自然環境と人間社会との調和を図る必要性を認識できること。
- ④ 技術者が社会に対して負うべき責任を明確に自覚したうえで、工学に関する学術団体が規定している倫理綱領を理解し、説明できること。
- ⑤ 地球環境の保全と循環型社会とを意識したものづくりに必要な知識と技術とを結びつけることで、生産から消費・廃棄に至るプロセスをひとつのシステムとして認識できること。
- ⑥ 構造物または製品をデザインする際に、つくる目的を意識し、機能性・安全性および経済性に加えて、環境負荷の低減・快適性などを考慮できること。

JB. 幅広い工学的素養、得意とする専門技術の基礎能力および応用能力の育成

- ① 工学的諸問題に対処する際に必要な、線形代数・解析・確率・統計などの数学に関する知識を理解できること。
- ② 工学的諸問題に対処する際に必要な、運動力学・電磁気学・熱力学などの物理に関する知識を理解できること。
- ③ 工学的諸問題に対処する際に必要な化学、または生物に関する基礎知識を理解できること。
- ④ 工学的諸問題に対処する際に必要な情報処理に関する基礎知識を理解できること。
- ⑤ 習得した自然科学・情報処理等の基礎知識と、機械工学・電気電子工学・電子情報工学・物質工学・環境都市工学のうちいずれかの分野における専門基礎知識・技術とに基づいて、その分野に関する工学的現象を正しく理解できること。

JC. 豊かな創造力とデザインマインドを持ち、常に自己を啓発し、新しい課題・分野に挑戦する能力の育成

- ① 現代社会において必要とされている工学的技術について、複数の具体例を挙げられること。
- ② さまざまな知識を適切な情報源から得、既知の事柄と未知の事柄とを識別したうえで、それらを蓄積・整理できること。
- ③ 新しく出会った課題について、自ら問題点を発見しようとする意識を持てること。
- ④ 既成概念にとらわれない創造性豊かな発想のもと、課題について多様な観点から検討・考察し、その結果を具体的に示せること。
- ⑤ グループでの協議および共同作業を通して、解決方法について複数の候補を見いだし、その中から最も適切なものを選択できること。
- ⑥ 自ら明確に設定した目標を達成するため、詳細な計画を立て、それに沿って継続して努力できること。

JD. 高度に情報化した国際社会で必要なコミュニケーション基礎能力とプレゼンテーション能力の育成

- ① 日常的な話題についての英語の談話を聞き、その中の情報・考えなどを理解できること。
- ② 幅広い話題についての英語の文章を読み、その中の情報・考えや書き手の意図などを理解できること。
- ③ 自らが持つ情報・考えなどを、英語の談話や文章で、場面や目的に応じた表現を用いて述べられること。
- ④ 英語で書かれた解説や論説・学術論文などを筆者の意図に沿って読解し、その内容を日本語で説明できること。
- ⑤ 自分の意見・主張などを、日本語の談話や文章で、分かりやすく規範的な表現を用いて述べられること。
- ⑥ 他者の意見・主張に真摯に耳を傾け、的確に理解したうえで、問題点を指摘できること。
- ⑦ 原稿などを作成するにあたり、読者や聴衆を意識して内容を整えられること。
- ⑧ 説明の必要に応じて、正確で分かりやすいグラフや図などを描けること。
- ⑨ 口頭発表にあたって、聴衆の反応に適切に対応し、質疑に対しても的確に応答できること。

JE. 体験に基づいて問題を発見し、解決策を企画・実行する実践的能力および論理的思考能力の総合的な育成

- ① 与えられた実験・演習課題の工学的意義を理解し、提示された方法を計画・実行することにより、定められた期限までに妥当な結果を導けること。
- ② 技術者が経験する実務上の工学的な諸問題を認識し、それらを具体的に示せること。

- ③ 工学上の考察対象に関する見解を論理的に構築し、それに基づいた問題解決のための仮説を立てられること。
- ④ 問題解決のプロセスを計画するにあたり、得られる情報を最大限に活用して、適切な実験・解析方法を選択できること。
- ⑤ 数学や情報処理の知識・技術を用いて、実験または数値シミュレーションの結果を統計的に処理できること。
- ⑥ 実験または数値シミュレーションの結果を評価し、対象としている工学的現象の成り立ち・仕組み等を理解し、説明できること。

上記の学習・教育目標の下、一般科目教室および各学科の目的は次の通りである。

- (1) 一般科目教室は、高度な技術教育の基盤となる学力を身に付け、豊かな教養と知性を持つ社会人を育成する。
- (2) 機械工学科は、機械システムの開発・設計・生産の分野において、基礎的知識と技術を身に付け、論理的思考能力を備えた実践的で創造性豊かな技術者を育成する。
- (3) 電気電子工学科は、通信・エレクトロニクス、情報・制御、光・電子デバイス、エネルギー等の分野において、基礎的知識と技術を身に付け、論理的思考能力を備えた実践的で創造性豊かな技術者を育成する。
- (4) 電子情報工学科は、情報化社会の基盤となるソフトウェア、コンピュータネットワーク及びコンピュータ制御の分野において、基礎的知識と技術を身に付け、論理的思考能力を備えた実践的で創造性豊かな技術者を育成する。
- (5) 物質工学科は、材料工学あるいは生物工学の分野において、基礎的知識と技術を身に付け、論理的思考能力を備えた実践的で創造性豊かな技術者を育成する。
- (6) 環境都市工学科は、社会資本を持続可能にする土木・建築の分野において、基礎的知識と技術を身に付け、論理的思考能力を備えた実践的で創造性豊かな技術者を育成する。

また、専攻科における生産システム工学専攻及び環境システム工学専攻の目的は次の通りである。

- (1) 生産システム工学専攻は、高等専門学校等で習得した基礎学力の基盤の上に、機械・設計関連、システム制御関連、電子・物性関連および情報・通信関連分野の知識を広く教授し、これらを有機的に統合した生産システムの設計並びに開発研究等を行うことのできる創造力を持った実践的技術者を育成する。
- (2) 環境システム工学専攻は、高等専門学校等で習得した基礎学力の基盤の上に、構造・材料関連、生物・化学関連、環境・分析関連および防災・都市システ

ム関連分野の知識を広く教授し、これらを有機的に統合した環境システムの設計並びに開発研究等を行うことのできる創造力を持った実践的技術者を育成する。

なお、本校専攻科では、これから多様化した社会で活躍できる実践的な技術者を養成するために、専門共通科目を多く配し、さらに他専攻の科目を修得できるなど、複数の技術分野にまたがる学習ができるようになっている。また、専攻科2専攻と本科5学科の4、5年次の教育課程からなる教育プログラムを「環境生産システム工学」と位置付けている。この教育プログラムは日本技術者教育認定機構（略称：JABEE）から社会の要求を満たしている融合・複合分野の技術者教育プログラムであるとして、平成16年度から認定されている。「環境生産システム工学」教育プログラムでは、環境を意識したものづくり能力だけにとどまらず、環境づくりができる能力の育成を目指している。さらに、「もの」「人」「環境」の連携を図り、それらを有機的に結び付けるシステムのデザイン能力の育成も図っている。このため専攻科においては、得意とする分野の習得を深化させる授業のみならず、融合複合型授業として出身学科が異なる学生同士が共同して新しい課題・分野に挑戦する能力を育成するための授業や、体験型学習が用意されている。

#### I-4 福井工業高等専門学校第II期中期計画及び平成22年度アクションプラン

##### 福井工業高等専門学校第II期中期計画

###### （序文）

ICT技術の革新によって、社会はいま情報技術を中心に大きく転換し始めようとしている。また、教育のグローバル化、教育機会均等化が進み、高等教育のこれまでのシステムが大きく変化しようとしている。産業界からもこれまでの画一主義教育より、創造性の高い個性を伸ばす教育が求められている。地域社会からも大きな期待を寄せられている。

福井工業高等専門学校では、これら社会の要請に応え、21世紀を担う人材を育成するため、新しい教育・研究の理念とそれに伴う整備計画を策定したい。特に、学生の夢が実現する学校、学生・社会から魅力ある学校、環境・社会・人に優しい学校を目指したい。

これらの実現のために、本校の教育理念、教育方針、教育目標、養成すべき人材像による、第II期中期計画（平成21年度～平成25年度）を次のように策定する。

###### 1. 教育充実の具体的方策

###### （1）教育内容・方法などの充実

## ① 地域の産業界との幅広い連携の促進

- ・ 地域の産業界と連携し、カリキュラム開発、教材開発、企業への教員派遣、企業からの教員派遣、共同研究を通じた企業への学生派遣を行う。
- ・ インターンシップの一層の推進を図り、学生が企業の生産・開発現場で、研究課題と課題意識を持ち、学校で学んだ知識を活かして、現場での問題解決と解決できる能力を培う。具体的には、本科4年生のインターンシップの充実と、専攻科1年生のインターンシップのさらなる充実を図る。

さらに、国立高等専門学校機構による海外学生インターンシップに積極的に参加する。

## ② 一般教育の充実

- ・ 変動する現代社会への対応が求められる技術者に必要な専門的知識の基礎をなす思考力、表現力、洞察力、創造力などを身につけるために基礎教育の充実を図る。
- ・ 国際社会で活躍できる技術者を育成するために、コミュニケーション能力の向上を目指す教育の充実を図る。その対策のひとつとして、各種検定試験などの受験の奨励や支援に務める。

以上のように、一般科目においては、本校の教育理念に相応しい効果的な教育内容・方法となるよう、知育・德育・体育のバランスを考慮しつつ、より一層の教育の充実を図る。

## ③ 専門教育の充実

### ・ 機械工学科

創成科目や実技系科目など学生の創造性を引き出す科目を重視しつつ、ものづくりのセンスと実践力を涵養させる。さらに、機械のエンジニアとしての基礎能力を養うために、これまでの教育内容を継続し、さらなる充実を図る。

### ・ 電気電子工学科

「通信・エレクトロニクス」、「情報・制御」、「光・電子デバイス」、「エネルギー」分野を学び、今後の社会要請に対応できる基礎力と応用力を持つ電気電子工学分野の人材育成を目指す。また、体験型のものづくり実験・演習への積極的な取り組みを行い、問題解決能力と創造性ある人材育成を目指す。低学年では電気電子工学関連の基礎知識習得と現象理解に重点的に取り組み、高学年では専門知識の深耕を行う。

### ・ 電子情報工学科

I C T 分野、電子技術分野に興味を持ち、世の中に I C T に関わる新しいサービスやシステムを創造できる人材の育成を目指す。I C T 分野のエンジニアとしての基礎能力を養うために、これまでの教育内容を継続しつつ、ソフトウェア系科目並びにネットワーク系科目の充実を図る。

- ・ 物質工学科

受け入れ側の情勢変化に応じ社会が求める人材を育成するために、必要な施策を講じる。具体的には、基礎学力および応用力を着実なものとし、多様な状況に対応するための意思疎通・表現能力のさらなる涵養と、国際化を視野に入れた英語能力の向上等を目指して、カリキュラムの改善に取り組む。また、情報リテラシーは欠くことの出来ない基礎的素養になりつつあるので、この点でも教育・実習の中での充実を図りたい。

- ・ 環境都市工学科

学生が自分の将来を見据えて学習できるように、土木・建築系技術者に関するキャリアパスを提示し、専門課程の学習に対して興味が湧くような工夫を図る。その1つの方法として、積極的に卒業生から意見を聞き、社会あるいは産業界からの要望を授業内容に取り入れていくことを考える。一級建築士試験受験資格を取り込んだカリキュラムとしたことから、卒業生が出るまではカリキュラム自体の変更は難しい。そのため、個々の授業内容を土木・建築に関するコアの部分が抽出・精査された内容や、社会が求めているエンジニアリングデザイン能力が身につくような内容となるように充実させる。

- ・ 専攻科

本科からの継続した研究指導体制を強化し、専門領域を深化させるのみならず、専攻の枠組みをも越えた融合複合的な工学技術教育の展開を図る。また、各種学会主催の講演会・技術交流会や長期インターンシップへの積極的参加を促すとともに、専攻科生と企業との共同研究を促進し、技術ニーズや求められる技術者像を明確に認識できる機会の増加を図る。さらに既設の海外派遣制度を充実させ、海外企業技術者や大学研究者等との交流・相互理解を通して国際化に対応できる能力を涵養する。

- ④ 自学自習による教育効果を考慮した教育の充実

平成17年の高等専門学校設置基準の改正により、60単位を上限として大学と同様に45時間の学修内容をもって1単位とすることができるようになった。今後とも、この制度を活用して、授業形態・指導方法の多様性や優れた技術者を育成する上で有効な自学自習による教育効果を活かした特色ある教育課程の編成を進め る。

- ⑤ 退職技術者を含む企業人材等の活用

技術を持った意欲ある企業人材の活用を積極的に進め、講座講師などとして活用し、ものづくり技術の伝承を進める。

- ⑥ 他高等専門学校・大学との人材交流

他の高等専門学校教員、技術科学大学教員との人事交流により、教育研究活動の

活性化と連携を深めると共に、教育の質の向上に努める。

⑦ キャリア教育の実施

高等専門学校はこれまで実験・実習など体験重視型教育を行ってきたが、産業界や社会のニーズに応えて、キャリア教育の実施や実践的な人材育成の教育課程の編成を図る。

また、平成19年度採択の現代G Pによって、3年間にわたり、アントレプレナーサポートセンターを用いた、全学的な実践的キャリア教育を進めている。この補助事業を最大限に活用して、本校のキャリア教育を具体的に進める。たとえば、定期的なセミナーの開催、アドバイザーによる学生支援、コーディネーターによるキャリア教育の取組、O J T教育の導入などを進める。

⑧ e-ラーニング教育、PBL教育、コーオプ教育の実施

- ・ インターネットなどを活用したe-ラーニングの取組を充実させる。
- ・ 本校では低学年における早期専門教育としてPBL型授業である「ものづくり科学」を導入しているが、今後も手厚い教員層によるPBL教育を展開する。
- ・ 産業界や他の高等教育機関との有機的な連携による共同教育（コーオプ教育（c o-o p教育））の実施を検討する。

⑨ 工学基礎コースの改善

工学基礎コースは設置以来数年が経過した。今後、工学基礎コースの長所や問題点を点検しながら、コースの改善を図る。

⑩ スポーツなどの全国的な競技会やロボットコンテスト、プログラミングコンテストなどの全国的なコンテストに積極的に参加する。

(2) 教育研究の実施

教職員による教育研究は、地域などへの協力のみならず、教育の質の向上にも重要である。今後とも、企業等産業界や地域社会との連携により、共同研究及び受託研究の進展を図る。また、科学研究費補助金をはじめとする外部資金の獲得に努める。教育研究を活性化するため、校長裁量経費の配分、学内競争的資金の実施、予算配分のプライオリティ付け等を行う。

(3) 質の高い入学者の確保

- ① さらなる教育の充実により社会で活躍できる高度な技術者を育成し、本校の知名度をさらに高めることにより本校の教育に適正な入学志願者数の維持を図る。特に女子学生の志願者確保に向けた取り組みを推進する。
- ② 小・中学生やその保護者への広報活動、理科教育支援を行う。高等専門学校教育の質を維持・向上していくため、今後とも、意欲を持った質の高い入学者を確保する。そのために、小中学校の段階で理科・数学やものづくりの関心を高め、サイエン

スに対する好奇心を持たせ、面白さ、楽しさの中に、科学的なものの見方を身につける楽しさがあることを体験させる。そのため、小中学生を対象とした理科実験教室などを出前授業・公開講座などで開催する。

- ③ オープンキャンパスを実施し、小中学生や、保護者を含めた広報活動に力を入れて取り組んでいく。
- ④ 高等学校卒業生の4年次への編入学をさらに進めていく。高等専門学校は5年間の一貫教育が特徴であるが、質の高い編入学生の確保と高等学校卒業生に多様な進路選択を提供するために制度の充実を図る。
- ⑤ 中学校、高等学校への広報活動を更に充実させるとともに、ホームページを充実させ、学生関係情報（学生生活状況・卒業時の進路等）について、積極的に情報を公開する。
- ⑥ 社会で活躍中の本校卒業生を紹介するパンフレットを作成し、中学生・保護者・中学校関係者に本校への一層の理解を図る。

#### （4）教育基盤の強化

##### ① 教員の確保

今後とも意欲と教育に対する情熱にあふれた優れた教員の確保を行っていく。さらに、実践的な専門教育を行っていくために企業などでの実務経験のある教員も積極的に採用する。

また、男女共同参画社会の実現と女子学生確保の立場から、女性教員の採用促進が国立高専機構の人事方針として示されている。本校においても女性教員の比率向上を図るため、働きやすい職場環境の整備などに努め、更なる採用に向けて努力する。特に女子学生が多く在学する学科での採用が望まれる。

文部科学省の制度や外部資金を活用して、教員に長期短期の国内外の大学における研修の機会を設けるとともに教員の国際学会への参加を促進する。

##### ② ファカルティディベロップメント(FD)の実施

教員の能力向上を行うため、ファカルティディベロップメント(FD)の組織的な実施を図る。

##### ③ 教員の力量を高めるため、高等専門学校間の教員人事交流制度を活用するほか、高等学校、大学、企業などとの任期を付した人事交流を図る。

#### （5）産業界や地域社会との連携

- ① 本校が有する知的資源によって、積極的に社会の発展に貢献する。このため、地域産業界などとの共同研究や、公開講座、出前授業にさらに積極的に取り組む。
- ② 地域ニーズを十分踏まえた教育研究活動を展開していくため、地域連携の強化を図る。具体的には地域連携テクノセンターの機能を充実させるとともに、同センタ

一に地域連携強化のためのスペースの確保、新たなニーズの調査とその対応などを図る。

- ③ 地域と連携して開催しているマグネットコンテスト、めがねワク waku コンテストなどのさらなる展開を図る。
- ④ 高等専門学校の設備やノウハウを利用して取り組んでいる中小企業庁「高等専門学校等を活用した中小企業人材育成事業」は平成20年度が最終年であるが、今後とも自立講座などとして支援を行う。

#### (6) 国際的な展開

産業・経済や技術が国際的な広がりを強め、これに伴い技術者も国境を越えて活躍している現状から、国際的に活躍できる能力を持った人材の養成のための教育が求められている。このため、本校では平成18年にオーストラリア、バララット大学と提携して交換留学を始めたが、今後も同大学との連携を深める。また、他の外国大学との提携を図るほか、学生の国際学会などでの発表を支援する。さらに、外国大学などとのインターンシップ、コーラス教育などの実施を検討する。

また、留学生の積極的な受け入れを図る。そのための宿舎の整備、学習・生活サポートを引き続きしていく。

#### (7) 学生支援

- ① 学生に対してきめ細やかな対応をするため担任制度を継続するとともに、学生相談室を充実して、学生のメンタルヘルス管理を十分に行う。
- ② 学寮運営に対する寮生・教職員の協力体制の充実を図り、メンタルヘルスを含めた寮生の学習・生活の支援にあたる。
- ③ 学生の適性や希望に応じた進路選択を支援するため、企業情報、就職・進学情報などの提供体制や専門家による相談体制を充実させる。
- ④ 学生のボランティア活動などの社会奉仕体験活動や自然体験活動などの支援を行い、学生の人間的成長を図る。
- ⑤ 独立行政法人日本学生支援機構などと緊密に連携し、各学校における各種奨学金制度などの学生支援に係る情報を提供する。
- ⑥ 図書館の充実や学寮の改修などの計画的な整備を図る。さらに、学生寮の室数の増加と女子学生寮の整備を図る。

#### (8) 多様な学生への支援

第4学年に編入する学生や、専攻科に入学する社会人入学生、留学生などは高専生活に不慣れである場合が多い。これらの多様な学生については、学力と生活の両面でサポートを行っていく。

#### (9) 学校の高度化再編・整備

地域ニーズに対応した教育研究活動を強化し、教育の質の一層の向上を図っていくには、今後の社会の高等専門学校に対するニーズ、地域における15歳人口の動向や地域の産業特性などを十分に考慮する必要がある。また、今後5年間には、社会経済のあらゆる場面に情報通信技術(ICT)分野を中心とした技術が広がり、理工系分野においては環境・情報・バイオなどを中心とする融合・複合分野が重要となってくると考えられる。これらのこと考慮して、学校内における学科の再編を視野に入れて検討に努める。

平成18年8月に国立高等専門学校機構より出された「国立高等専門学校の再編整備について」を踏まえて、本校では今後の本科・専攻科の学科再編について協議した。その結果、平成19年10月協議会において、今後の在るべき本校の学科構成として、現在の5つの学科は、現在の専攻科制度や現在の本校の教育理念から、「ものづくり」、「環境づくり」の二つが大きな系にまとめられ、さらに、(1)機能創成、(2)情報、(3)エネルギー、及び、(4)環境(材料、生命)、(5)安全工学の5つに細分することを今後検討することとした。今後、これらを踏まえつつ、引き続き検討を図る。

### 2. 事務部門の強化と効率化

学校の運営に当たっては、教員だけでなく、事務部門の強化も必要である。事務部門職員に対するSDなどによる事務職員の育成と技術スタッフの充実を図る。また、独立行政法人国立高等専門学校機構のスケールメリットを活かした事務の効率化をさらに進める。

### 3. 施設・設備の更新及び高度化

- (1) 実践的・創造的技術者を育成するために、施設・設備の整備を行い、基盤的設備の整備のみならず、先端的な設備の充実を図る。
- (2) 平成20年度からの校舎改修により40年以上経過した施設の改修を行っているが、その他の25年以上経過した施設の改修・整備を図る。

### 4. 外部評価の受審

有識者などによる外部評価を毎年実施する。さらに、日本技術者教育機構(JABEE)への受審を行い、工学教育に適合した高等教育機関であることを社会に示すと同時に、受審の準備を行うことにより、学校全体の教育研究体制の点検を行い、教育研究の質の維持向上を図る。また、次期における高等専門学校機関別認証評価受審に向けて準備を行う。

## 平成22年度アクションプラン

### 1. 教育充実の具体的方策

#### (1) 教育内容・方法などの充実

##### ① 地域の産業界との幅広い連携の促進

- ・「福井高専アカデミア」を中心として、地域の産業界と連携し、卒業研究の共同実施やカリキュラム開発、教材開発を行う。また、共同研究を通じた企業への学生派遣を卒業研究、特別研究として行う。
- ・原子力関連機関と連携し、原子力（量子エネルギー）関連教育の充実を図る。
- ・本科4年生と専攻科1年生におけるインターンシップの推進と充実を図る。
- ・原子力関連機関へのインターンシップの充実策を検討する。
- ・国立高等専門学校機構による海外学生インターンシップに参加を検討する。
- ・共同教育、エンジニアリングデザイン教育実践校を視察し、来年度以降の専攻科における共同教育実施を検討する。

##### ② 一般教育の充実

- ・現代社会の技術者に必要とされる専門的知識の基礎となる思考力、洞察力、創造力、表現力などを習得するために、基礎教育の更なる充実を図る。
- ・国際社会に通用する技術者を育成するために、各種検定試験などの受験の奨励や支援に努めつつ、コミュニケーション能力の向上を目指す教育の充実を図る。

##### ③ 専門教育の充実

###### ・ 機械工学科

機械工作実習（2年生）、創造工学演習、C言語応用（3年生）、知能機械演習（4年生）、アイデア設計工学（5年生）などの実技系科目や創成科目を通して、実践的なものづくりセンスと創造力を学生に身に付けさせる。また、機械のエンジニアとしての基礎能力を養うために、「機械設計技術者3級試験」の資格取得を奨励し、受験対策のための補講を行う。

###### ・ 電気電子工学科

1、2学年の導入科目を通して、学生に電気・電子関連の入門知識を与え、高学年での基礎学力の効果的獲得、および充実を目指す。また学習意欲を持続させる手段として、関連資格試験の受験を積極的に勧める。

###### ・ 電子情報工学科

ICTに関わる新しいサービスやシステムを創造できる人材の育成を目指す。これまでの教育内容を継続しつつ、ソフトウェア系科目並びにネットワーク系科目の充実を図るとともに、社会情報系科目の導入を検討する。

カリキュラム検討ワーキンググループを中心に創成教育ラボを有効活用するなど各学年の実験内容、配置を見直す。

###### ・ 物質工学科

平成22年度は、平成21年度に策定された学生実験のレポート作成能力向上計画を実行する。また、現在行っている4年生の工業英語の授業だけでなく、翻訳されて使用されている教科書の原文を授業の中で紹介することや、小テストの問題を英語で出すなど、英語に触れる機会を増やして、英語能力の向上を一般英語だけではなく、専門的な面からも促進する。

- ・環境都市工学科

学生が自分の将来を見据えて学習できるように、土木・建築系技術者に関するキャリアパスや技術者資格を提示し、専門課程の学習に対して興味が湧くような工夫を図る。また、卒業生から意見を聞き、社会あるいは産業界からの要望を授業内容に取り入れていく。多様な解を持ちうる課題に対し、種々の学問を統合して問題解決に至るエンジニアリングデザイン能力が身につくような授業内容となるよう工夫を図る。

- ・専攻科

前年度に引き続き、技術者として活躍するために必要不可欠な素養の涵養とキャリア教育の一環として、専攻科生全員を対象とした知的財産権教育の導入ならびに技術士の資格を有する技術者との交流を図る。また、各種学協会主催の講演会や技術交流会等への積極的参加を促し、研究内容の質のみならず、プレゼン能力を向上させる機会を積極的に設ける。

継続的な教育改善を実施するために、JABEE プログラム「環境生産システム工学」の更なる充実の検討を行う。

#### ④ 自学自習による教育効果を考慮した教育の充実

平成17年の高等専門学校設置基準の改正により、60単位を上限として大学と同様に45時間の学修内容をもって1単位とすることができるようになった。この制度を活用して、授業形態・指導方法の多様性や優れた技術者を育成する上で有効な自学自習による教育効果を活かした特色ある教育課程の編成を進める。

e-ラーニングシステムを用いた授業時間外の学習環境を整備する。

#### ⑤ 退職技術者を含む企業人材等の活用

平成19年度から21年度に渡って実施した（独）国立高等専門学校機構「企業技術者等活用プログラム」事業の終了を受け、その自立事業として企業技術者を講師として招聘し、CAD初心者を対象に3D-CAD講習を行い、ものづくり技術教育の進展を図る。

#### ⑥ 他高等専門学校・大学との人事交流

高専・両技科大間教員交流制度の活用により、教育研究活動の活性化と連携を深めると共に、教育の質の向上に努める。

#### ⑦ キャリア教育の実施

社会ニーズに対応した新産業の創出やものづくりイノベーションに対応可能な人材を育成するための効果的なキャリア教育を継続して行う。

⑧ e-ラーニング教育、PBL教育、コーラス教育の実施

- ・ e-ラーニング室を活用して、新しい設備による語学教育などにおける進んだe-ラーニングを開始する。また、文部科学省平成20年度採択の戦略的大学連携支援プログラムによる、福井県の他大学との連携によるe-ラーニングシステムあるいはSNS(ソーシャルネットワーキングサービス)を本格的に活用し、授業時間外の学習支援体制の構築を図る。
- ・ 本校では低学年における早期専門教育としてPBL型授業である「ものづくり科学」を導入しているが、今後も手厚い教員層によるPBL教育を展開する。
- ・ 企画室、専攻科委員会、教務委員会、進路指導委員会と連動して産学官協同のインターンシップ等の運用について検討する。

⑨ 工学基礎コースの改善

工学基礎コースは設置以来5年が経過し、アンケートや成績等の分析を行っており、今後、これを踏まえてコースの改善案をさらに検討する。

⑩ 昨年度に引き続き、各種コンテストに対し積極的に参加すると共に、そのための環境の整備に努める。

(2) 教育研究の実施

企業等産業界や地域社会との連携により、共同研究及び受託研究の進展を図る。「産官学連携推進会議」、「全国高専テクノフォーラム」、「丹南産業フェア」や「北陸技術交流テクノフェア」などに参加・出展して普段の成果を積極的に発信するとともに、このような活動を通して共同研究や受託研究の受入れ増に努める。また、科学研究費補助金をはじめとする外部資金の積極的な獲得に努める。

(3) 質の高い入学者の確保

① さらなる教育の充実により社会で活躍できる高度な技術者を育成し、本校の知名度をさらに高めることにより本校の教育に適正な入学志願者数の維持を図る。特に女子学生の志願者確保に向けた取り組みを推進する。

② 小・中学生やその保護者への広報活動、理科教育支援を行う。高等専門学校教育の質を維持・向上していくため、今後とも、意欲を持った質の高い入学者を確保する。

そのために、小中学校の段階で理科・数学やものづくりの関心を高め、サイエンスに対する好奇心を持たせ、面白さ、楽しさの中に、科学的なものの見方を身につける楽しさがあることを出前授業・公開講座等を通して体験させる。

③ 5月に新校舎の完成を記念した新校舎・施設見学会(キャンパスツア)、6月、

8月に2度のオープンキャンパスを実施する等、小中学生や、保護者を含めた広報活動に力を入れて取り組んでいく。

- ④ 高等学校卒業生の4年次への編入学をさらに進めていく。高等専門学校は5年間の一貫教育が特徴であるが、質の高い編入学生の確保と高等学校卒業生に多様な進路選択を提供するために制度の充実を図る。
- ⑤ 中学校、高等学校への広報活動を更に充実させるとともに、ホームページを見やすく工夫し、保護者を含め本校に関心を寄せる人たちへ学生関係情報（学生生活状況・卒業時の進路等）について、積極的に情報を公開する。
- ⑥ 社会で活躍中の本校卒業生を紹介する書籍の出版、また女子中学生向けには本校OGが職場で活躍する姿や応援メッセージ等の紹介内容を掲載し、将来、女性技術者として期待されて活躍できる場が具体的にわかるようなパンフレットを作成し、中学生・保護者および中学校関係者に本校への一層の理解を図る。

#### ⑦ 教員の確保

今後とも意欲と教育に対する情熱にあふれた優れた教員の確保を行っていく。さらに、実践的な専門教育を行っていくために企業などでの実務経験のある教員も積極的に採用する。

また、男女共同参画社会の実現と女子学生確保の立場から、女性教員の採用促進が国立高専機構の人事方針として示されている。本校においても女性教員の比率向上を図るため、働きやすい職場環境の整備などに努め、更なる採用に向けて努力する。文部科学省の制度や外部資金を活用して、教員に長期短期の国内外の大学における研修の機会を設けるとともに教員の国際学会への参加を促進する。

#### ⑧ ファカルティディベロップメント(FD)の実施

- ・教員の能力向上を行うため、ファカルティディベロップメント(FD)の組織的な実施を図る。
  - ・公開授業週間を年間行事予定の中に組み込み、充実を図る。
  - ・教員の教育力向上のための研修会・講演会を企画する。
  - ・学内でのFD活動と共に、福井県内の大学間連携事業でのFD活動の活用を図る。
- ⑨ 教員の力量を高めるため、高等専門学校・両技術科学大学間の教員人事交流制度を活用するほか、高等学校、大学、企業などとの任期を付した人事交流を図る。

### (5) 産業界や地域社会との連携

- ① 本校が有する知的資源によって、積極的に社会の発展に貢献する。このため、地域産業界などとの共同研究や、公開講座、出前授業にさらに積極的に取り組む。本校の教員および技術職員の有する知的資源（研究・教育・技術シーズ）を地域社会に広く紹介する。
- ② 地域産業界と本校の教員、技術職員とが共同で効率よく研究活動を展開するため

に、地域連携テクノセンターの機能の充実と向上を図る。

- ③ 地域連携テクノセンターが主催または共催するコンテストを増やして本校の知名度をより高めるとともに、地域社会への貢献を深める。
- ④ (財)ふくい産業支援センター人材育成部が経済産業省中小企業庁における事業の自立講座として実施する、福井県中小企業大学校のカリキュラムの支援を行う。

#### (6) 国際的な展開

産業・経済や技術のグローバル化に伴い、国際的に活躍できる技術者の養成が求められている。このため、前年度立ち上げた国際交流委員会を中心に、アジアなどの海外の教育機関との連携推進や学生の国際学会などでの発表支援を引き続き進めしていく。また、中部日本海高専国際交流検討部会への積極的参加により、近隣高専との連携を図っていく。

また、留学生の積極的な受け入れを図る。そのための宿舎の整備、学習・生活サポートを引き続き行っていく。

#### (7) 学生支援

- ① 学生に対しきめ細やかな対応をするため担任制度を継続するとともに、学生相談室を充実して、学生のメンタルヘルス管理を十分に行う。
- ② 女子留学生の受け入れ準備と共に、寮生会活動支援を主とした寮生活改善プログラムを計画立案していく。また、寮生のメンタルヘルスケアの一環として専門家による講演会を計画し、寮生の生活を支援していく。
- ③ 学生の適性や希望に応じた進路選択を支援するため、低学年時から企業情報、就職・進学情報などの提供体制や専門家による相談体制を充実させる。
- ④ 学生のボランティア活動などの社会奉仕体験活動や自然体験活動などの支援を行う。また、出前授業等へも同行させ、教えることを通して学生の人間的成长を図る。
- ⑤ 独立行政法人日本学生支援機構などと緊密に連携し、各学校における各種奨学金制度などの学生支援に係る情報を提供する。
- ⑥ 昨年度末の学生寮(女子寮棟を含む)の改修に伴う、学寮生活全体の満足度や施設充実度の調査を行い、更なる整備を図る。さらに、図書館等の充実について計画的に整備を図っていく。

#### (8) 多様な学生への支援

- ・高専に途中から入学する編入学生、留学生や社会人に対して速やかに順応できるよう、学生の特性にあわせて学習と生活の両面からサポートを行っていく。

- ・福井高専以外の教育機関からの専攻科入学生への学習支援の更なる改善を検討する。

#### (9) 学校の高度化再編・整備

平成18年8月に国立高等専門学校機構より出された「国立高等専門学校の再編整備について」を踏まえて、本校では今後の本科・専攻科の学科再編について協議した。その結果、平成19年10月協議会において、今後の在るべき本校の学科構成として、現在の5つの学科は、専攻科制度や本校の教育理念から、「ものづくり」、「環境づくり」の二つの大きな系にまとめられ、さらに、(1)機能創成、(2)情報、(3)エネルギー、及び、(4)環境(材料、生命)、(5)安全工学の5つに細分することを今後検討することとした。平成22年度においては、このような学科再編計画を踏まえ、将来の県内中学生人口の動向、入学者の質の維持・向上や、産業界の技術動向と地域事情を考慮しながら、本科と専攻科の再編の検討をさらに行う。

### 2. 事務部門の強化と効率化

学校の運営に当たっては、教員だけでなく、事務部門の強化も必要である。事務部門職員に対するSDなどによる事務職員の育成と技術スタッフの充実を図る。また、独立行政法人国立高等専門学校機構のスケールメリットを活かした事務の効率化をさらに進める。

### 3. 施設・設備の更新及び高度化

- (1) 実践的・創造的技術者を育成するために、昨年度に引き続いだ施設・設備の整備を行い、基盤的設備の整備のみならず、先端的な設備の充実を図る。また、教育環境アンケートを実施し、学生からの要望を教育環境の整備に活かす。
- (2) 築30年以上を経過した施設の機能改修・整備を図る。

### 4. 外部評価の受審

有識者などによる外部評価を毎年実施する。さらに、日本技術者教育認定機構(JABEE)の受審結果を受けて、JABEEプログラム「環境生産システム工学」の更なる充実の検討を行う。また、次期における高等専門学校機関別認証評価受審に向けて準備を行う。

## I-5 研究活動の状況

本校の教育理念である「創造性豊かな人材の育成」、「幅広い工学的素養、基礎能力及び応用能力の育成を目指す実践教育」、「高度に情報化した国際社会に対応する教育」、「環境を意識し、地域社会に根ざしたものづくり教育」、「地域と連携した産官学共同研究の推進を図る」を実現するために、全校的な研究体制、研究支援体制を作り、実施している。このような教育理念を実現するため、また、教育的資質を向上させるため、教員の

研究活動は欠かせないと考えられる。さらに、この教育理念の一つである地域に根ざした教育として、地域における産官学共同研究は教育的にも、地域社会にとっても重要である。

このような観点から、本校では平成3年度、校内に自助努力で「先進技術教育研究センター」を設置し、地域との産官学共同研究の窓口として、このセンターに大型設備を集中させ共同研究にあたってきた。平成17年4月には、このセンターを「地域連携テクノセンター」と改組し、さらに地域と連携を深めた共同研究施設としている。現在、下記のような教育的研究事項に取り組んでいる。

- ① 地域の産業界からの技術相談と地域産業に密着した研究テーマの設定（伝統産業支援、地場産業支援を引き続き進める。）
- ② 地域の産官学共同研究関係者を集めて行う、講演会と情報交換会である J O I N T フォーラムの開催
- ③ 産業界・教育界の将来を担う若者の「ものづくり」への興味喚起と理科離れ対策として実施している「マグネットコンテスト」、「さばえめがねワク waku コンテスト」や「ふくい防災マップコンテスト」の主催
- ④ 本校の有する専門的・総合的な教育機能を利用した出前授業の実施
- ⑤ 教員および技術職員のシーズを掲載したセンター活動広報誌（J O I N T）を年1回発行
- ⑥ 地元商工会議所等との情報交換・懇談会の開催
- ⑦ 共同研究の機会拡大と研究テーマの発掘
- ⑧ 高度な分析・観察設備を用いた卒業研究、特別研究支援
- ⑨ 伝統産業支援室を設置して、和紙工業などへの技術支援
- ⑩ 地場産業室を設置して、眼鏡枠工業などへの技術支援

#### I -6 地域への支援

本校は基本理念に「環境を意識し、地域社会に根ざしたものづくり教育を行う」を掲げ、次のような地域・国民に対する幅広い活動を行っている。

- [1] 出前授業は毎年、30件程度行っており、その実施件数は教員・学生数からすると福井県内の高等教育機関としては多数である。

さらに、平成17年度より、本校が出前授業に派遣する教員・学生を「サイエンスの達人」と名づけ、地域連携協定を結んだ市町の小学校・中学校を中心に派遣している。本校の出前授業の特徴は派遣する教員のほか、ほとんどの場合、学生を陪同することにある。特に、中学校への出前授業は、出前授業を実施する中学校の出身学生を出前授業に参加させ、後輩に成長した先輩の様子を見てもらうこととしている。学生も後輩に対面し、誇らしく実験を行うようである。

- [2] 福井県生涯学習大学開放講座協議会に参加し、地域住民対象開放講座である、福井ライフ・アカデミー「人づくり・まちづくり講座」に哲学、環境関係の講師を派遣して、事後のアンケートで好評を博している。平成22年度も本校プログラムを県

民に提示している。

- [3] 福井県は強力磁石の世界的な生産拠点となっている。この本校近隣の越前市の新しい地場産業である、強力磁石を製造する企業とともに、児童・生徒、学生の理科離れを防ぐために、マグネットを用いたアイデアコンテストを平成7年度より実施し、全国の小中学生、高校生、大学生から寄せられた平成22年度のアイデア数は2,139件であった。これまでに提案されたアイデアの優秀作は実際に製作されたこともあり、製作品は（独）若狭湾少年自然の家の玄関前に設置され、同自然の家を訪れる小・中学生にアイデアを紹介し、科学に対する興味を喚起している。また、平成16年度より、福井県の代表な地場産業である眼鏡工業組合と共同で、全国の児童・生徒・学生対象に眼鏡に関するアイデアコンテストを開始した。平成22年度には2,088件の応募があった。これらは単に理科離れを防ぐのみならず、地元企業の全国への情報発信、本校の知名度向上などの効果を上げている。
- [4] 平成17年5月に提携した、地域連携協定に則り、地域の青年・壮年・高齢者・女性などの団体と連携し、地域の人々に対する学習ニーズに応えるため、公開講座、高度技術者研修などを実施し、リカレント教育を実施している。この地域では高齢化が進み、生涯学習、健康を目指す生涯スポーツなどのニーズが高まっている。本校はこのようなニーズに応えると同時に、本校の体育関係の施設の地域への開放を行っていきたい。

#### I-7 特別教育研究経費などの採択状況

##### (1) 平成21年度高専機構特別教育研究経費事業「女子中学生の高専進学への理解増進と高ブランド戦略」

我が国では未だ女性の技術分野への進出や、女性科学者の数は外国の先進諸国に比べて低いのが現状である。また、女性は女性特有の豊かな感性で、技術開発の分野で大きな力を発揮することが望まれている。

本校には現在1,068人の学生が在籍しており、この内、約16%が女子学生である。女子学生は主に化学系、環境系、情報系に在籍しており、勤勉な学生や成績上位者が多い。また、女子学生が在籍しているクラスは雰囲気が明るく、クラス全体の成績も良い傾向がある。さらに、化学系や情報系の分野では女性特有の感性も求められており、卒業後も男子技術者と同等の活躍をしている者が多い。したがって、これらの学科や現在、女子学生の在籍者が少ない電気、機械系の学科にも今後、数多くの女子学生を入学させたい。

さらに、高等専門学校は設立以来50年近くが経過しているが、小学校一中学校一高校一大学の教育制度の中で、社会の認識は依然低いと思われる。そこで、入学者の質の確保や卒業生の進路を広げるために高専の情報を社会に向けて積極的に発信し、中学生、保護者、中学校関係者、大学・企業との間でコミュニケーション活動することが学校ブランド戦略の基本と考えられる。

このような背景のもと、標記の事業を高専機構に申請したところ採択され、平成21～22年度に渡って、主に下記の取組み(1.～9.)を実施した。

1. 女子中学生対象に公開講座を開催し、本校各学科の紹介や現役学生との懇談会を実施することにより、女子中学生の本校や理科系に対する親近感を育てた。公開講座や懇談会には女子中学生の保護者の参加も受入れており、平成21年度の参加者は中学生45名(1年生6名、2年生8名、3年生31名)、保護者21名の66名、平成22年度のそれは中学生47名(1年生5名、2年生2名、3年生40名)、保護者24名の71名であった。このうち、両年度とも参加した中学生は4名であり、また昨年度参加した女子中学生が今年度の女子入学者数に占める割合は63%と、比較的高い割合であった。

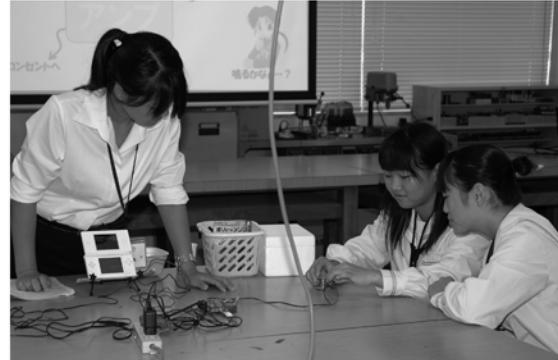
公開講座終了後には、参加女子生徒に理系に対する意識や実施内容に対する満足度などを調査した。昨年度と今年度の公開講座に参加者した女子中学生の半数以上が理系への進路を希望していた。また、参加女子中学生のほとんどが公開講座の実施内容や懇談会に満足すると同時に、本校への理解が図られたと回答していた。

女子中学生側から見ると、このような公開講座は理系への進路選択を考える格好の機会でもあり、今後も継続して開催したいと考えている。



平成21年12月5日（土）開催

女子中学生対象公開講座の様子



平成22年10月2日（土）開催

女子中学生対象公開講座の様子

2. 女性有識者・女性技術士を招聘し、主に女子学生、保護者、対象にして講演会やディスカッションを行った。これらにおいては、現在、産業界や社会が女性技術者に対して期待している事項やその内容の紹介と共に、将来、自分たちが理系に進み、技術者として就労する姿が想起できるように、企業現場などの女性先輩達の活躍状況や取巻く環境などが具体的に紹介され、理系に進む際の不安を払拭するものであった。



板東局長講演会（平成 21 年 12 月 13 日）



女性技術者セミナー（平成 21 年 12 月 10 日）

3. 高専は理科系のみの堅い学校であるというイメージを払拭することと、地域社会に対する文化的な貢献を目的に、主に女子中学生、保護者、中学校関係者対象にして、県内出身のソリストによる本格的なクラシックコンサートを昨年度に引き続いて今年度も開催した。参加した多くの一般聴衆者からは、満足した演奏内容であったとの評価と共に、“高専は堅いイメージであると思っていたが、イメージが変わった”、“より身近に感じられるようになった”などの意見が数多く寄せられた。



平成 21 年 11 月 13 日(金)開催



平成 22 年 10 月 2 日(土)開催

クラシックコンサートでの演奏の様子

4. 昨年度は4本、今年度は2本のテレビCMを制作し、本校学生の学習状況を平成23年1月4日～31日にわたって放送して、学校情報を発信した。



テレビで放映したCMの一場面

5. 中学生対象の学生募集ポスター やパンフレットには、本校で学ぶ女子学生の姿、キャリア教育、女子寮などについての紹介や企業で技術者として活躍している本校OGからのメッセージを記載し、女子中学生が興味を抱く内容とした。

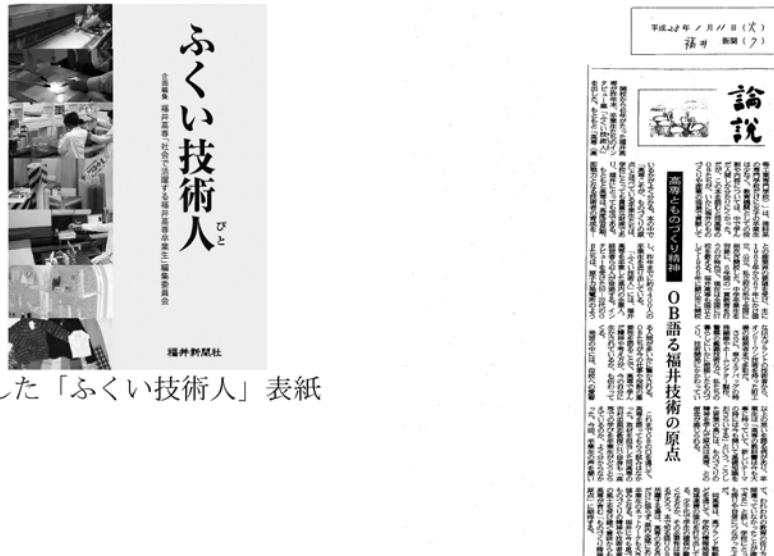
パンフレット表紙面

パンフレット中面

作成した女子中学生向けパンフレット

6. 高専教育制度、本校の技術者育成に関する教育内容の特徴などをアピールとともに、卒業生の社会での活躍状況を紹介することを目的に、福井県内の優良企業や機関などの第一線で技術者として産業界に貢献している卒業生(42名、40企業)を取り材インタビューし、その内容を「ふくい技術人」として編集・刊行した(発行:福井新聞社)。同本の章末には、インタビューに応じた卒業生が高専入学への進路選択を決定した時期や動機及び技術者としての楽しみなどのデータも掲載しており、将来の進路を考えようとする中学生の参考となるような資料も付した。

同本の刊行やその内容は、平成23年1月11日付けの福井新聞の論説や、丹南ケーブルテレビにおける番組「目指せふるさと探検王」(制作:福井テレビ開発)の



刊行した「ふくい技術人」表紙

福井新聞の論説(平成23年1月11日付)

中でのクイズ問題にも取り上げられ、地元から高い評価と反響があった。さらに、県外在住の他高専卒業生からも、“我々もこれまでの企業等での体験や実績をまとめて出版したい”との声が寄せられた。

同本は全国の高等専門学校を始め、県内外の中学校、公立図書館や企業などにも寄贈した。今後は、本校学生のキャリア教育にも活用する予定である。

7. ブランド戦略の一環として、在籍学生を対象に高専生に相応しい制服に関するアンケートを実施すると共に、近隣高校の現状や他高専における実情などを調査



女子学生用の新しい制服

し、40年以上前の本校開校時から変更していない学生制服の見直しの検討を行った。本校学生としての誇りと品位、そして機能性などを考慮し、平成23年度から入学する女子学生については写真に示すような制服とした。

8. 本校のロゴマークを次図のように制定し、本校の教育目的などを社会に示すと同時に、校内の学生、教職員に団結心と目的を与えるようにした。制定したロゴマークはFukuiのFを若葉の形にデザイン化し、カレッジカラーと萌黄色で若さと成長、伸びやかな姿を表現したものであり、学校名も柔らかな字体とし、若さと暖かさを表している。



制定したロゴマーク

9. 平成22年9月3日には、東京国際フォーラムにおいて「高専のこれから的情報発信戦略を考える」と題した「国立高専情報発信戦略フォーラム2010（主催：国立高等専門学校機構・幹事校：福井工業高等専門学校）」を開催した。

同フォーラムは、平成21年度特別教育研究経費（高等専門学校改革推進経費）の「高専の情報発信戦略に関する改革推進経費事業」の高専ブランド関係事業に採択された、本校を含め全国8高専がその取組み事業について発表を行い、その成果を共有するとともに、今後の各高専における志願者確保や教育活動の改善に結びつけることを目的として開催されたものであり、当日は大学も含め全国28高専から約70名の参加者があった。今回紹介のあった取組み事業は、地域ニーズ、国際的な視野、広報活動などの観点から高専ブランドを構築し、社会における高専の認識度を向上させようとするものであった。さらにこれらの事例紹介後には、高専機構のスケールメリットを活かした効果的な広報戦略の在り方等について活発な議論や意見交換が行われた。



フォーラム開催案内パンフ

## (2) 平成22年度企業技術者等活用プログラム「ICTと地域とを融合させる共同教育の展開」

近年、インターネットを基盤とする情報ネットワーク技術の重要性は著しく高まっており、ものづくり技術にICTは欠かすことのできないものとなっている。そこで、ICTやインターネットの新しい活用、携帯電話・モバイル端末向けのソフトウェアなどのニ

ズ発掘から企画・立案、開発およびそのビジネス化までの一連を教育し、情報関連技術を利用した実践的な技術を理解・習得させることが重要である。さらに、地場産業である眼鏡枠工業、ものづくりを主とした伝統産業や景観を考慮した都市を提案・施工する建設業では商品の企画、開発、設計に際して3次元CADが不可欠となっており、3次元CADやバーチャルリアリティについての理解や、ものづくり技術のIT化の必要性を認識させることが重要であると考えられる。

以上のような背景のもとで、標記の事業を高専機構に申請したところ採択され、平成22年度は上記の目的に対して①ICT技術者の育成 ②3次元CAD技術者の育成、に主眼を置き、主に下記の取組みを企業技術者との共同教育を展開して実施した。

### 1. ICT技術者の育成

地域ニーズをどのように発掘するか、それをどうやってアプリ開発に結びつけるか、企画書や提案書、仕様書の書き方及びその記述技法、企画や提案のプレゼン手法などを紹介するために、「地域ニーズを基にしたWebアプリ及びモバイル端末用アプリの開発」と題する講習会を開催し、アプリの作成に興味と関心を持つ学生15人が受講した。受講学生は講習を通して、地元鯖江や福井のPR、地域に密着するWebアプリやモバイル端末用アプリの制作を手掛け、各受講生は企画・提案のプレゼンを行うとともに最終の講習会では制作作品をプレゼン発表した。作品制作に当っては、特命准教授と電子情報工学科教員2名が適宜、技術的なアドバイスや助言を行った。受講生からは、アプリの開発技術の指導を先端の企業技術者から受けられた、アプリの作品制作では直接的な技術指導やアドバイスが得られて良かった、などの意見が多くあった。



ICT技術者育成のための講習会での様子

### 2. 3次元CAD技術者の育成

①VRソフトウェア (UC-win/Road) の基本操作、②3Dモデリングソフト (SketchUp)による3Dモデルの作製、③画像処理ソフト (Gimp) による建物の壁面テクスチャの作製に関する講義・演習に加えて、個人あるいはグループが設定した対象域において仮想

空間内に実際の町並みを再現した。この町並みは、例えば、アーケードを無くして植樹した場合に景観がどのように変化するかを視覚的に確認することもできるものであった。さらに、受講生は福井高専構内、越前市府中一丁目付近などの町並みも構築した。



3次元CAD技術者育成のための講習会での様子

### (3) 平成22年度原子力人材育成プログラム事業「高専の一貫教育体制に即した原子力関連教育の実践」

これまででも本校学生の卒業・修了後の就職先の分野として、電力会社を含む原子力関係があつたが、最近ではほとんどの学科から就職先として志望する学生が増加する傾向にあり、原子力関係分野への就職は学生の進路の選択肢としても大変重要になってきている。このような背景のもと、本校は文部科学省と経済産業省が連携して実施している「原子力人材育成プログラム」のうち「原子力地域人材プログラム」に応募し、平成22年度採択された。本事業は、

- ① 原子力立地地域での雇用創出や原子力に対する理解の促進をも含めた地域に根ざした原子力人材の育成
- ② 専攻科を含む全学生を対象にした原子力教育プログラムを充実し、近隣の原子力関連機関と連携した共同教育プログラムを企画・推進することによる原子力関係の実践的な技術者の育成
- ③ 幅広い出身学科からの原子力分野への人材育成
- ④ フォーラムの開催による、原子力人材育成の重要性と本校の原子力教育への取組みの、地域への情報発信

を目的に、本校での授業、特別講義・講演会やフォーラムの実施のみならず、近隣の原子力関連機関でのインターンシップや校外研修を行った。

本事業の実施により、本校全学生の原子力に対する関心を高めることができた。また、低学年から原子力教育を開始することの重要性が、本校としても再確認できた。特に、15もの原子力関連機関と連携した共同教育を行うことで、現地での体験型研修や最新の話題を含み工夫された教材による教育の実施によって、学生のこの分野への興味・関心の向

上や、理解の深化が図れることが確認できた。今後とも、原子力立地地域の高専として、原子力関連機関と連携しながら地域に根ざした原子力教育を推進していきたいと考えている。



若狭湾エネルギー研究センターでの研修風景



原子力地域人材育成フォーラム」での基調講演

(講師：長岡技術科学大学長 新原啓一先生)

#### (4) 平成22年度機関横断的な人材育成事業「機関連携による実践的原子力基礎技術者育成のフィージビリティスタディの実施」

低炭素社会への転換に向けて、太陽光、風力、水力、地熱やバイオマスなどの自然エネルギーに加え、原子力エネルギーの活用促進が強く求められるようになってきた。このような中で、原子力発電所が集中する福井県に位置する本校としても、原子力産業界に必要な実践的で開発能力も持った国際的な原子力分野の専門技術者の育成は重要であると考えられる。そこで、国立高等専門学校を中心とした、本校を含め全国22高専が安全工学と原子力工学の両教育に豊富な実績を持つ長岡技術科学大学と、原子力・放射線に関する知識の普及や教育に人的資源と多くの経験を持つ（財）放射線利用振興協会と連携して、原子力・放射線関連の講義や実験・実習を行うとともに、インターンシップ、見学会による実際の体験を含む研修の実施を通して、幅広い工学知識を持ち、原子力関係分野で活躍することができる実践的な人材の育成を目的に本事業を展開している。本校からは、平成23年3月に実施予定の（独）日本原子力研究開発機構（東海村）におけるインターンシップとトライアル授業、そして（独）日本原子力研究開発機構FBRセンター（敦賀市）などの施設見学会に学生を派遣するとともに、放射線や原子力工学を担当している教員を対象にした放射線授業講習会と、国立高専原子力人材育成フォーラムにそれぞれ教員を派遣する予定である。

#### (5) 平成22年度高専機構特別教育研究経費事業「高専連携による、アントレプレナーシップ醸成・キャリア教育の進展」

本校では、平成17年度から校内にアントレプレナーサポートセンターを立ち上げ、起業家育成のキャリア教育を行ってきている。一方、舞鶴高専、明石高専そして呉高専においても学生によるビジネス活動の支援などを通じてキャリア教育を推進している。そこで、

本校を含めた前述の4高専がこれまでに培ってきたアントレプレナーシップ教育の成果を交換し合い、新しい教育的展開を図ることを目的に、標記の事業を高専機構に申請したところ採択された。

本年度、本校アントレプレナーサポートセンターには学生1名と卒業生2名が入所し、市場での販売を目指してモバイル・アプリケーションやアンドロイド・アプリケーション



アントレプレナーサポートセンターでの活動の様子

の開発を行っており、ビジネスシーズなどの成果を連携高専にも紹介する。本事業を通して高専生の社会での適応力や、複雑化した社会を生き抜く人間力の育成を行いたい。

#### (6) 福井工業高等専門学校と長岡技術科学大学との戦略的技術者育成アドバンストコース事業「社会の多様化とグローバル化に対応した戦略的技術者育成－高専と協働する技術者育成アドバンスドコース－」

今年度から長岡技術科学大学は、高等専門学校と協働して多様化しグローバル化する社会の目指すべき将来を展望し、現代の社会・産業を技術によって変革していくために『戦略的な技術展開ができる人材』を育成する教育プログラムを確立することを目的に、本校他5高専をモデル校として設定し、協働教育プログラムを推進することとなった。そこで、本校では教務委員会の下に、新たに長岡技科大との戦略的技術者育成アドバンスドコース協働教育推進専門部会を設け、(1)戦略的技術者育成アドバンスドコースのカリキュラム及び実施体制に関する事項 (2)戦略的技術者育成アドバンスドコースの協働教育に関する事項、を協議している。本校では今後、同協働教育プログラムの推進に当って、遠隔地を結んだ講義(教育用)と会議のためのテレビ会議システム導入し、長岡技科大と本校との1対1接続による遠隔地からの教育、長岡技科大や複数の高専を結んだ1対多接続による学生間の討論を含んだ教育や説明会、学生と教員との意見交換と交流、関係教育機関間の会議・打ち合わせ等を予定している。

## I-8 広報活動

一般社会人や中学生・保護者などに本校の現状を知らせるために、広報委員会を設置し、さまざまな広報活動を行っている。その広報活動の一環として、平成19年度から、8月に(財)福井県産業会館が企画するイベント「おもしろフェスタ in サンドーム福井」に参加している。また、同じく平成19年度より本校の紹介を地元のコミュニティFM放送である「たんなん夢レディオ」で、平成22年度からは地元のコミュニティ誌である季刊誌「夢レディオ編集室」で広報記事の掲載を開始した。これらの詳細は次のとおりである。

### (1) 「おもしろフェスタ in サンドーム福井2010」

「おもしろフェスタ in サンドーム福井2010」は、「ふくいのものづくり 人づくり 地域づくり」をテーマに福井県内の科学系学校や企業等が参加し、福井のものづくり技術の紹介するとともに、子どもたちの科学やものづくりに対する関心を深めてもらうことを目的として、平成22年8月7日(土)・8日(日)に開催された。

本校は4年前の計画時から中心的に参加し、当日は会場のサンドーム福井の展示総面積約8,000m<sup>2</sup>の中心部で、高専ロボコン地区大会出場ロボットの実演、パスタタワー・コンテスト、コンピューターによる様々な展示・実演、ソーラーカー試乗、化学実験やおもちゃづくりなどを行った。夏休みの休日を様々な実演・体験・展示イベントで楽しむため、家族連れなど連日8,000人近くの人出で大賑わいであり、テレビ・新聞でも大きく報道された。今後もこのようなイベントには積極的に参加し、本校の紹介を行うと共に、地域の活性化に貢献したい。



おもしろフェスタ in サンドーム福井 2010

### (2) 「たんなん夢レディオ」による本校紹介番組

平成19年4月より、地元コミュニティFMラジオ「たんなん夢レディオ」で毎週日曜日に福井高専紹介番組「高専ラジオ」を放送している。4月は入学式、5月は体育祭、6月はオープンキャンパスの紹介、など毎月の行事紹介をしながら本校の様子や特徴ある授業、名物先生などを紹介している。10月からは現代GPに採択されたアントレプレナーサポートセンターのコーナーも開設された。FM放送で、高専が定期

的な番組を持つことは全国的に初めてと思えるが、中学生などの反響が大きいことから、今後も入試情報などを伝えて行きたい。



放送中の様子

### (3) 季刊のフリーぺーパー「夢レディオ編集室」による本校紹介

平成22年10月からは、前述した「たんなん夢レディオ」が発行する季刊のフリーぺーパー「夢レディオ編集室」に、一般社会人や中学生・保護者を対象として高専制度の概略、本科5学科の紹介や学費、卒業後の進路などを、発行時期を考慮しながら掲載し、情報を発信している。同フリーぺーパーは丹南地区を中心に県内に1万部程度発行されており、今後もこれらを通して本校の存在感を地域社会に対してアピールしながら、認識度も向上させていきたい。

季刊誌「夢レディオ編集室」での本校紹介の掲載例(2010年vol. 19)

## I-9 将来計画

21世紀を迎える、すべての分野でグローバル化が進展している。長い経済の調整期が終焉し、格差社会の解消などが新しい問題となり、社会・産業界では新産業の創出及び高付加価値型企業への転換が迫られている。このため、教育界でもグローバルな視野と高度な情報技術と高い倫理性を持った、創造的、開発型の技術者の育成が求められるようになった。また、高等教育機関として、地域への支援も重要となっている。

高等専門学校は発足49年を迎え、高等教育機関として一般社会・産業界から一定して高い評価を得ている。一方、総務省の発表によれば、平成17年度の15歳未満人口は平成12年と比べると、107万人(5.8%)減となっている。また、わが国の財政事情などにより、高等専門学校の再編統合、あるいは一高専内の学科再編は避けられない状況となっている。

平成18年11月30日には機構理事長名により、「魅力ある高専の構築に向けて」と題して、学校自体の再編成及び学科減を含む各高専の検討状況を問う文書が機構より提出された。また、これらの再編統合に関する各校の相談の受け付けも示されている。事態は極めて緊急的な課題となってきた。

本校でも平成18年9月の高専機構による「国立高専の整備について～新しい飛躍をめざして」が発表されてから、今後るべき学校制度の議論を企画室、企画室ワーキンググループにおいて行ってきた。

### 学科の再編成

平成21年度4月に機構第2次中期計画が発表され、その中で、「教育課程の編成」として、産業界における人材需要や学生のニーズの変化等に対応した学科の大括り化やコース制の導入などについて検討を行うとなっている。この方針に則り、本校としては、今後、社会の要請を考慮して学科再編を長期的な課題として検討して行きたい。

平成18年9月から12月にかけて、企画室、企画室ワーキンググループなどにおいて、学科の再編成につき議論を行った結果、平成18年12月、平成19年1月の協議会（現在の学校運営委員会）に次の報告を行った。

- (1) 今後とも、さらに魅力的で個性ある高専を維持するため、学科再編は有効と考えられる。
- (2) 中学生、社会にとって魅力的な内容であり、社会のニーズに適合した学科構成・編成を考える。
- (3) 3年次は工学発展課程と位置付けられ、専門に特化した必修科目（基幹科目）を中心に学習する。
- (4) 4年・5年次は創造工学課程と位置付けられる。3年次までの基礎に立脚し、融合・複合領域の先進的工学に関する問題点を指摘し、解答の無い問題に解決法を

提示することが出来る技術者としての素養を身に付けることを目指す。さらに、深い学習を希望する学生は先進工学研究課程と位置付けられる専攻科に進学する。

(5) その他

- ・低学年においては専門への橋渡しになる極め細かい工学基礎教育を行う。
- ・3年次以降も学科横断的科目（発展科目、融合・複合領域科目）を設け、幅広く知識を修得させる。
- ・融合・複合教育の理念に基づいて学科内容、学習内容を考慮する。
- ・適正な学生定員を考える。

## II. 各学科・教室の教育理念

### II-1 一般科目教室

#### 1. 教育理念・教育目標

現在、教育方針として公表しているものおよび中期計画に関する目標は以下の通りである。

##### (1) 要覧その他の紹介

本校の教育は一般科目教育と専門科目教育とから成り立っているが、技術者が一市民としてよりよく生きるためにには、専門的な知識や技能だけでなく広く豊かな教養も必要であり、一般科目教室では、教養を身につけさせることを通じて、立派な技術者の育成を目指している。一般科目教育においては、高等学校の教育課程をふまえ、大学の教養課程に匹敵するレベルの教育内容となるようなカリキュラムが組まれている。国語・歴史・地理・倫理社会・物理・化学・生物・数学・保健体育・英語などの基礎的な科目や情操を育むための美術・音楽、さらに哲学・政治経済学・法学などの多彩な科目を開講している。また、国際化時代に即応するため、外国語教育に特に重点を置き、英語のほか、ドイツ語・中国語といった科目も開講しており、設備の整った語学教室で、外国人講師を含めたスタッフが指導している。なお、専門科目の応用数学・工学基礎物理も一般科目教室で担当している。

##### (2) 中期計画目標

人文・社会系科目（国語・社会・外国語）では、実践的な技術者に必要な言語感覚や総合的な表現力を身につけさせるとともに、社会的な知識の習得を始めとする自立した洞察力・判断力の養成を目指している。また、国際文化の理解を深めながら、外国語によるコミュニケーション能力を高め、各種検定試験の受験を視野に入れた教育を目指す。

理数系科目（理科・数学）では、各教科の特性を踏まえ、自然現象の基本的法則や概念を理解させ、思考力・表現力・創造力の育成を図るとともに、問題解決能力の向上を目指し、専門教育への展開を考慮した自然科学系の基礎学力の習得を志向する。体育では、調和のとれた全人的発達を遂げた社会人として豊かで活力あふれる生活が営めるよう、身体・健康に関する知識の修得や身体運動実践能力の獲得を目指した教育をする。

### 2. 将来計画

一般科目教室としては、新入生の受け入れから専門学科への移行がスムーズに行われるよう、低学年教育における学習面や学校生活上の問題点などを明らかにしつつ、学生とともに解決策を探っていくことを目指しており、現在に至るまで、各教科担当者、担任、クラブ活動顧問など様々な立場から、教員研究室・セミナー室等を利用して、学習や学校生活の支援及び相談を行ってきており（これらの活動はオフィスアワーでの活動として報告）。こうした点を視野に入れて、3年前、「オフィスアワーを中心とした学生支援体制の構築（仮称）」として、

- 1) 現状の把握（実態調査：支援時間・支援環境・内容）
  - 2) 現状の改善策の検討（学生の問題→関係教員[担任・教科担当・部活顧問等]への連絡体制などの組織作り＝学内組織での位置づけ）、支援環境整備
- などを将来計画として設定したが、現在の状況は以下の通りである。

### 1) 現状の把握

成績不振者に対しては各教科で必要な対策（小テスト・追試・補習・課題学習等）を実施し、学習意欲の高い学生へは学外コンテスト（英語スピーチコンテスト、数学選手権）への参加を呼びかけている。また、一人一人の動向に常に配慮している。

### 2) 現状改善策の検討

学生の問題点についての情報交換会「スタッフミーティング（仮称）」の開催を検討中である。その目的としては、学習到達度の低い学生の把握と教科指導の方向付けや、授業への取り組み状況（生活面も含む）の把握と改善策の検討により、学習意欲の低下・留年・進路変更等の問題に対処するとともに、担任や担当教員が指導上の問題を一人で抱え込むことを防止することにある。

## 3. 重点課題

中期計画との関連で当面の課題としてあげているものは以下の諸点である。

- (1) 新入生に対して数学・英語の一斉学力試験を実施し、その動向を把握するとともに、この結果を以後の教育指導や教育課程の改善に役立てる。また、英語のコミュニケーション能力を図る方策として、本科の4年・5年次においてTOEIC模擬試験を実施するとともに、TOEIC試験を校内で行う。
- (2) 中学・高校よりの教育支援要請（SPP、SSH講師依頼等）や各教育機関、教育委員会からの教員研修事業での協力要請に応じる。

## II-2 機械工学科

### 1. 教育理念・教育目標

機械工学は、「ものづくり」のための工学であり、産業の基盤として不可欠な学問分野である。従って、今後も豊かな社会を作り出すための中心的役割を担うと考えられる。本校機械工学科では、「ものづくり」のための基礎的知識技術を習得させると同時に、機械技術の高度化、多様化にも十分対応できる広い視野と実践的で総合的な設計・開発能力を持った技術者の養成を教育理念とし、次の3つの教育目標を掲げている。

- ・ 機械技術者として必要な基礎学力の育成
- ・ 技術革新、高度情報化社会に対応できる能力の育成
- ・ 創造性・実践的能力および人間形成の育成

また、学科カリキュラムの特徴として、次の3つが挙げられる。

- (1) 一つのものを作り上げる創成科目や、実験実習等の体験型科目が充実したカリキュラム  
アイデアを出して一つのものを作り上げその性能をコンテスト形式により評価する創成型授業や、実際に手を動かして頭で考える実験実習などの体験型授業が充実している。その科目例として、1年生の「ものづくり科学」、2年生の「機械工作実習」、3年生の「C言語応用」「創造工学演習」、4年生の「知能機械演習」、5年生の「アイデア設計工学」がある。

### (2) 機械工学の基礎学力を身に付けるカリキュラム

機械工学の根幹となる材料力学、熱力学、流れ学、振動工学などの科目においては、課題や演習を多く取り入れ、機械工作法、材料学、機械設計法、機構学などの科目にお

いては、機械製図や機械工作実習などで学んだ例を用いるなどして、分かりやすい説明を心がけ、学生の理解を深めている。また、機械工学科の教員全員で日本機械設計工業会機械設計技術者3級資格取得のための補習なども実施している。

(3)コンピュータや情報制御技術を用いて創造力・総合力を養うカリキュラム

先端ロボットに代表されるように、最近の機械は知能化・自動化の技術が目覚しく進歩しており、コンピュータやIT技術を多く取り入れた授業カリキュラムとなっている。

## 2. 将来計画

(1)創成型授業の充実と、製図や工作実習をリンクさせた融合的ものづくり教育の実践

前述したように、3年生の「C言語応用」「創造工学演習」4年生の「知能機械演習」に代表されるように、体験創成型授業を多く導入している。しかしながら、これらの創成型授業では、いずれもロボットの製作を行っており、また教員の負担が多いのも現状である。そこで、学科内の体験・創成型授業科目を見直して内容を精査しより充実させるとともに、創成型授業と製図や工作実習をリンクさせた融合的ものづくり教育の実践を検討したい。

(2)システムとしてデザインできる技術者の養成

機械工学には、材料力学・材料学・工作法などのメカの機能を生み出す「機能材料」と、熱力学・流体力学など力学やエネルギーに基づいた「機械物理」を生かした技術すなわちハード面のメカと、近年のコンピュータ、センサ・計測工学、制御工学およびエレクトロニクスの発達によって、自動化・知能化など機械を高度に使う技術すなわちソフト面のメカである「ロボティクス」が求められるようになってきている。一方、機械工学に対するニーズも複合・融合化ってきており、ものづくりにおいて一つの領域のみで解決できる問題は少なく、材料、環境（エネルギー）、電子工学など複数の領域にまたがった問題が多くなってきている。したがって、個々の技術を「デザイン」して一つのテクノロジーを作り上げ「機能創成」できる技術者、さらにものづくりに関わる企画・設計・生産をトータルで考え、「システム」として実践できる技術者の育成を目指す。また将来は、環境問題や高齢化社会に対応した環境や人と調和したものづくり技術が強く要請されてきており、ハード面のメカ・ソフト面のメカに加えて「ヒューマン面のメカ」を視野に入れることが必要である。今後カリキュラム等の検討を考えたい。

(3)設備更新や先端設備の導入と卒業・特別研究の充実

老朽化の激しかった実習工場の工作機械（旋盤、フライス盤、ボール盤、鋳造溶解炉）については、平成22年3月に設備更新が実現した。また、硬さ試験機や切削動力計など機械工学の基盤となる実験装置も更新され、実験実習の充実を図ることができた。また、今年度は、「水力学実験装置」を更新中で、さらに創成型授業で共同利用する「創造工学実験室」のパソコン等の設備を充実させる予定である。今後も、このような設備の更新要求を継続して実験実習を充実していくとともに、ナノテクに代表されるように先端的な設備の導入を検討し卒業・特別研究の充実を図りたい。

## 3. 重点課題

(1)入学志願者の確保

平成22年度入試における機械工学科の志願者倍率は1.28倍と、前年度の1.5倍に比べ大幅に減少しただけではなく、5学科中でも最低であった。15歳人口は減少傾向にあり、入学志願者の確保は最重要課題である。その対策として、今年度は特に以下のことに重点を置いて活動している。

- ・学科パンフレットの大幅な刷新
- ・エコ（環境）を意識したオープンキャンパスでの学科PR
- ・学科ホームページの充実（卒研・特研の研究内容を紹介）
- ・入試説明会での発表スライドの充実
- ・女子中学生にも興味を持ってもらえそうな公開講座の開催（電子顕微鏡など）
- ・オープンキャンパス、出前授業、公開講座、サイエンスフェア、おもしろフェスタ等への積極的活動

## (2) 基礎学力の養成

高専卒業生の魅力は、大卒と比べて基礎学力の定着が良いことが一つの理由である。したがって、基礎学力の養成はいつの時代も本学科の重要課題の一つである。本学科ではこのことが大きな問題点であると意識しており、学生に基礎学力を養成させることに授業の重心を置いている。

その対策として、数学と関連の深い科目を担当している機械工学科の教員と数学の教科担当者とが打ち合わせを行い、授業内容の確認、教材の提供、各クラスについての情報交換などを行っている。3年生のクラスに関しては、3年担任を中心に放課後に1時間ほどの数学課題指導を週1回程度の割合で行っている。また、機械工学の専門基礎学力の向上を目指して、機械設計技術者3級資格試験対策の補講を10月から11月にかけて土曜日（3h×10回）に実施した。しかしながら、今年度は参加者が7名と少なく、次年度以降は早い時期からの学生の奨励や開催時期の検討などを行って受講者増加を図りたい。

以上のように、本学科では全教員が基礎学力を向上させるために鋭意努力中である。今後もこの方針を継続させていきたい。

## 4. 進学・就職指導状況

平成22年度卒業予定者44名のうち、就職希望者は24名（卒業予定者の55%）、進学希望者は20名（卒業予定者の45%）である。就職希望者は、平成23年1月の時点では、県内4名（就職希望者の17%）、県外19名（就職希望者の79%）、未定者1名（就職希望者の4%）である。平成23年3月当学科卒業予定者に対する企業求人人数は418名（求人倍率17.4倍）で、前年度の464名（求人倍率27.3倍）と比べて減少した。近年の経済状況を反映していると思われるが、本校他学科や国立大学工学部と比較すれば、高い求人人数水準を維持している。機械工学科の就職先の特徴は、機械関連分野はもちろん、電気電子・情報・化学・材料・医療など極めて幅広い産業分野に及んでいることである。しかしながら、中には第一志望の就職先に不本意ながら不合格となる者も見受けられ、キャリア教育や就職試験対策も含めた進路指導の充実が今後必要と思われる。一方、進学希望者20名の内訳は、大学13

名、福井高専専攻科7名で、大学の具体的進学先は、北海道大学1名、秋田大学1名、長岡技術科学大学2名、富山大学2名、金沢大学1名、福井大学2名、豊橋技術科学大学2名、岐阜大学1名、九州工業大学1名となっており全て国立大学である。なお、これらの進学先とは別に、長岡技術科学大学1名、金沢大学1名、福井大学1名、電気通信大学1名、福井高専専攻科1名の合格実績があり、中には3つの国立大学に合格した者もいる。

## II-3 電気電子工学科

### 1. 教育理念・教育目標

電気・電子、情報・通信は、社会の基盤技術であり、今後も拡大、発展が予想される。電気電子工学科は、情報・通信から制御、エレクトロニクス、光・電子デバイス、材料、エネルギーまで幅広い知識を学び、独創力を身につけ、社会に対する責任を自覚し、「地球にやさしく、人にやさしい21世紀」をつくる技術者の育成を目指す。

#### (1) 電気電子技術者に必要な専門的かつ総合的な基礎力の育成

電気電子技術者のベースとなる電磁気学、電気回路、電子回路、コンピュータ技術の基礎を学んだ後、光・電子デバイス、エレクトロニクス、コンピュータ、コミュニケーション、新エネルギーといった電気電子、情報通信に関連する幅広い分野の専門科目を修得し、新たな夢の実現に向けた新しい技術を開発する際に必要とされる基礎力を育成する。

#### (2) 幅広い専門分野に適応できる応用力の育成

情報家電や光通信用電子機器を作り出すエレクトロニクス技術、電気自動車やロボット、システムをコントロールする電子制御およびプログラミング技術、インターネットやモバイル通信を実現して情報技術革命を先導する情報通信・情報処理技術、環境に優しいクリーンエネルギー技術などを幅広く学ぶことで、新しい技術開発に適応でき、国際的に通用する電気電子技術者を育成する。

#### (3) 独創力およびコミュニケーション能力の育成

情報技術革命・ナノテクノロジー、新エネルギー技術に象徴される地球規模での科学技術の急速な発展に対応するため、論理的思考能力、表現力、グローバルな視野、さらに諸現象に対する洞察力や知的探求心を培うものづくり教育、実験・実習を中心とした自己獲得型技術教育を通して独創力の育成を図る。さらに、様々な社会体験教育を推進することでコミュニケーション能力を育成する。

#### (4) 下記に示すアドミッションポリシーを提示し、これに対応する電気電子技術者に必要な基礎力を育成する。

- ・ロボット、システム、コンピュータなどを動かすための電子制御やプログラミング技術を学びたい人
- ・情報家電や光通信などに使用する電子回路や情報通信技術を学びたい人
- ・電気自動車や太陽光発電などに使われる環境にやさしいクリーンエネルギーや新素材技術を学びたい人

### 2. 将来計画

電気電子工学科は、社会の中長期的な要請に基づき、教育内容の充実を行っていく。具

体的には、

- ・授業科目の見直しと充実
- ・電気電子工学実験の見直しと充実
- ・卒業研究、特別研究の充実
- ・ものづくり・創造性育成教育のさらなる充実
- ・工業英語力の向上

### 3. 重点課題

#### (1) 入学志願者の確保

小中学校での出前授業・公開講座・地域連携事業参画・地域企業との共同研究などの活動を通じて地道に小中学生と父兄への電気電子工学科への認識を深め、入学志願者の確保へつなげる。また、現在の電気電子工学科において女子学生が少ないことを考え、女子学生を増やす施策を進める。

#### (2) 専門科目の充実

電気電子工学を学習するには、じっくりと時間をかけて電気電子に関する抽象的な概念を理解する必要がある。また、専門科目の特質から数学的素養が強く求められる。従来、それらの習得のために1学年に電気基礎工学や電気数学などの専門導入科目を4単位分、割り当ててきたが、数年前のカリキュラム改定で、それができなくなった。この状況に対応するため専門科目の内容、カリキュラムの見直しを進める。

#### (3) 地域連携、地域貢献の充実

電気電子工学科では、従前より地域イベントへの参画、出前授業、公開講座などを実施してきている。それらの実績を踏まえ、これまでの実施内容について精査し改善を図るとともに、電気電子工学分野における学科としての地域連携、地域貢献のあり方についても継続的に検討し、より効果的な施策を推進していく。

### 4. 進学・就職指導状況

平成22年度卒業予定者39名のうち、就職希望者は25名、進学希望者は14名となった。就職希望者は全員就職先が内定しており、県内10名、県外15名となった。当学科卒業予定者に対する企業求人数は422にのぼった。電気電子工学科の就職先の特徴は高い求人数に加えて、電気・情報・化学・材料、機械、エネルギーなど幅広い産業分野に及んでいることである。進学希望者14名の進学先の内訳は、大学8名（東京工業大学、大阪大学、名古屋大学、筑波大学、岐阜大学、福井大学、豊橋技術科学大学、長岡技術科学大学）、福井高専専攻科6名となった。

## II-4 電子情報工学科

### 1. 教育理念・教育目標

「情報」とは人間の知的活動を支える根源でありあらゆる問題解決に必須のものである。電子情報工学科では、インターネットやIT機器の基盤技術であるコンピュータ技術、情報通信技術、及びロボットに代表される制御技術の各分野で、コンピュータを自由に駆使して種々の問題を解決するエンジニアの養成を教育目標にしている。

電子情報工学科のアドミッションポリシーは、以下のとおりである。

- ・コンピュータの仕組みやプログラミングに興味がある人
- ・ネットワークを活用したり、知能ロボットを動かすプログラムを作りたい人
- ・未来のIT機器の開発をやってみたい人

## 2. 将来計画

平成16年度に策定した電子情報工学科中期5ヶ年計画に従い、電子系科目を統合し、ソフトウェア系科目の新設や充実を行なってきた。平成20年度当初には、情報システム関連のものづくり、制御技術及びメディア情報処理の実験演習を充実させること及びPBL型授業に供するために創成教育ラボ、メディア情報演習室、情報システム実験室を設けた。平成21年度から5年生の必修科目と選択科目の1科目ずつを入れ替え、情報系科目の充実を図っている。平成22年度には、更なる情報系科目の充足のためにカリキュラム等検討ワーキンググループを立ち上げ、現状の問題点と将来の方向性を議論した。

平成19年10月にものづくり教育の経験を持つ教員を採用でき、他の若手教員とともにPBL型授業やメディア関連の実験演習で活躍している。1年生のものづくり科学においては、平成20年度の校長裁量経費で購入した自走型ロボット LEGO Mindstorm NXT を用いて、独創的なアイデアを喚起し、問題解決を体験する演習を実施している。この取組みは、ものづくりに必要不可欠なPDCAサイクルの理解と意識付けを主眼にしており、その教育的効果をまとめた論文は、平成22年度の論文誌「高専教育」への採録が決定している。同じく、校長裁量経費で購入したメディア情報実験設備を使い2年生の後期にデジタル画像を扱う実験演習を行っている。このように、新しい観点からPBL型授業やメディア情報処理についての実験などが展開できている。社会系情報科目は平成21年度より専攻科に「経営工学」として取り入れられた。平成22年度には、プレゼンテーション能力向上をめざして、高学年(4EI, 5EI)教室、電子工学実験室及び情報処理演習室にプロジェクタ、スクリーンを設置した。

学科創設時より学科定員の20%~35%の技術者を目指す女子中学生を受入れ、社会に送り出してきた。しかし、平成17年度以降においては、女子学生数の比率が半減してきている。高専を目指す女子中学生に対して魅力ある学科カリキュラムを用意し、優秀な女性技術者として育っていく人材を育てていく必要がある。情報系科目の充実と増加を図るべく、平成22年度新たに組織されたカリキュラム等検討ワーキンググループの作業においては、ネットワーク系科目・ソフトウェア系科目・社会情報系科目のそれぞれについて検討した。その結果、カリキュラムの大幅な変更は必要なく、現カリキュラムの一部名称変更などの微調整作業を次年度以降継続することになった。社会情報系科目に関しては、現段階での導入は必要としないが、将来的な発展を念頭に更なる検討を行っていくことを確認した。また、来年度採用予定の教員に対して、教育・研究業績等の評価において同等と認められた場合には、女性を積極的に採用する旨公募し、女子学生の立場に立って率先して教育・研究・学生指導が期待できる女性教員採用の道を開いた。

## 3. 重点課題

例年同様、4年生のPBL型授業である「創造工学演習」の実践を通して、全国高専ブ

プログラミングコンテストの課題部門と競技部門にそれぞれ 1 チーム、計 2 チームが参加できた。組込み型ソフトウェアデザイン能力を競う、ET ロボコンの北陸地区大会に 5 年生 1 チームが参加した。このように PBL 型授業の成果を踏まえて、学生が各種コンテストへ参加でき、学校外から評価を得ている。

若手教員が顧問である「IT 研究会(同好会)」は、パソコン甲子園・情報オリンピック・全国高専プログラミングコンテストに参加するなど、プログラミング及びメディアコンテンツ制作の鍛錬の場として活性化している。特に、総務省と独立行政法人情報通信研究機構が主催する「頑張る ICT ビジネスプランコンテスト」において、同研究会から 4 チームが本選出場を果たした。また、平成 19 年度からは毎週日曜日 11 時から 1 時間、地域 FM 局「丹南ゆめレイディオ」で福井高専の PR 番組を放送し、本高専の広報と地域との連携に貢献できている。

大型ロボット Aibo を使った出前授業及び「越前市中学生ロボコン」の準備のための出前授業を行なって地域に貢献している。また、プログラミングに興味をもつ小中学生を対象に公開講座「はじめての簡単プログラミング」を、さらに「歯みがきロボコンのためのロボット作り」講座を開催した。

入試倍率の回復と女子中学生の受検者数の回復を目指す学科独自の行動プランが求められている。平成 21 年度のオープンキャンパスにおいて、学科パンフレットに加えて 4, 5 年生の先輩からの学科 PR などのメッセージパンフレットを作成した。平成 22 年度には、卒業生の現在を伝える Web ページを福井高専のホームページで公開している。

#### 4. 進学・就職指導状況

例年のように、リクルートのために来校した本学科卒業生諸氏と学生との意見交換会を頻繁に開催できた。平成 22 年度の卒業予定者 41 名のうち就職希望者は 16 名、進学希望者は 22 名、その他が 3 名であった。進学希望者のうち本校専攻科に 2 名、国立大学に 20 名が内定している。電子情報工学科の平成 22 年度の求人数は、前年比 88 % であった。県内に就職内定した学生は 6 名で、県外に就職内定した学生は、大阪府 4 名、東京都 2 名、京都府 2 名、兵庫県 1 名、富山県 1 名の計 10 名であった。学校推薦を受けた学生全員が内定を受けた。

本年度は、IT 関連企業・製造業からの内定と共に、社会情勢を反映して、電力・ガス等のインフラ関連企業からの内定や公務員としての内定を受けた学生が見られることが特徴である。

### II-5 物質工学科

#### 1. 教育理念・教育目標

教育理念は以下の 3 項目である。

- 1) 産業基盤である素材を化学の視点で学ぶ技術者を養成する。
- 2) 科学技術の発展(社会のニーズ)に適応したバイオ・材料技術に関する基礎能力(工学的素養)と、問題点を提起し解決できる能力(創造的デザイン力・総合力)を有する技術者を養成する。
- 3) 持続可能な永続型社会を築くために、材料および生物資源を有効にかつ環境と調和

をはかりながら活用することができる技術者を育成する。

また、具体的な教育目標としては、以下の3項目である

1) 物質工学に必要な基礎科学及び幅広い専門基礎能力の育成

応用数学・工学基礎物理・情報処理・基礎工学概論などの基礎科学を学び、さらに、物質工学の基礎となる無機化学・有機化学・分析化学・生物化学・物理化学・化学工学などを体系的に修得することで、物質の本質を理解し、応用化学及び生物化学的手法により新物質を開発する際に必要とされる幅広い基礎能力を育成します。

2) 材料工学あるいは生物工学を得意とする専門能力の育成

材料工学コースでは、無機・有機材料の合成法や物性を修得することで、生物工学コースでは化学を基礎とした微生物学や遺伝子工学を修得することで、化学品・医薬品・食品等の得意とする専門分野で活躍できる技術者を育成します。

3) 実践的能力及びプレゼンテーション能力の育成

校外研修、工場見学旅行、夏季校外実習などの体験型学習により、実社会における実践力や問題解決能力、プレゼンテーション能力の必要性を認識させながら、学んだ知識を真に身につけさせるために5年間を通じた工学実験により実践力、理論的思考能力を育成し、卒業研究により問題解決能力、プレゼンテーション能力を育成します。

さらに、情報化社会に対応できるように、情報処理に関するカリキュラムを整備している。

## 2. 将来計画

上記のような教育理念・教育目標を中期計画の中で立て、実現すべく実行している。

本学科の特徴である、2つのコース(材料工学、生物工学)はこれからも堅持し、両分野での基礎となる教科の充実を図る。

化学技術者といえどもコンピュータに精通していることが求められており、各学年においてコンピュータ関連科目を配置し、情報教育を実施する。これまで、本学科では公害防止管理者や危険物取扱等の化学系の国家資格を取得するように推進してきたが、これに加えて、情報処理技術関連の国家資格の取得指導も行う。

## 3. 重点課題

公開講座(今年度は3講座)や出前授業(今年度は11件)の回数を増やすだけでなく内容を充実させる。これらを通して、地域社会に対して貢献するとともに、中学生が本学科に対して入学希望を抱かせるために、本学科の良さを伝える。学科独自の広報委員を定め、学科パンフレットの刷新、ホームページの充実を行う。

本学科の全教職員が、1年生の段階から直接に教育(「ものづくり科学」)を行い、その少人数教育の中で、物質工学の面白さを伝えるだけでなく、学生の人間形成に関与し、休学・退学する学生をできるだけ少なくする努力を行う。

進学(大学編入学および専攻科進学)する学生に対して、勉学の手助けを行う。

就職先の拡充を図るため、インターンシップ先や共同研究先を利用する。

## 4. 進学・就職指導状況

平成22年度卒業予定者36名のうち、就職内定者は19名、進学予定者は15名（本校専攻科：6名、大学編入学：9名）、その他2名であった。景気悪化にもかかわらず、昨年度とは逆に卒業予定者にしめる就職希望者の割合が約53%と半数を超え、進学・その他が約47%となった。このことは、社会での卒業生の活躍や企業の本校学生に対する高い評価によるものと考えられ、就職希望者全員が就職先を決めることができた。進学は大学へは推薦で5名、学力で4名、専攻科へは推薦で4名、学力で2名となっており、推薦での進学者が多い結果となっている。

## II-6 環境都市工学科

### 1. 教育理念・教育目標

独立行政法人国立高等専門学校機構は、全国土木工学系21学科の呼称である環境都市工学科を、次のように定義づけた。

『世界的な都市化に対応して、人に優しく自然と調和した街を創造するとともに、生活がより安全、快適、便利に営まれるような社会基盤の整備などの環境保全型の技術者の育成を目標としている。そのため、豊かな教養を身につけ、確かな基礎学力に裏づけされた感性を持ち、国際化・高度情報化社会に対応できる技術者の養成を目指している。』

これを受け、本校の環境都市工学科は、次のことを教育理念として掲げている。

持続可能な地域や環境都市、人間像を追求し、そのことを社会資本として具現化する構想へと導いて、適格な地域、環境都市、多様な社会基盤施設の計画・設計・整備・維持・更新の在り方・方法論・手続きなどを学び、研究し、実践する研究実践型技術者の創発に寄与し、地域との連携に努める。

この前提となるアドミッションポリシー（入学者受入方針）は次の通りである。

- (1) 自然と共生したくらしを営む環境づくりに興味がある人
- (2) 快適なくらしを共有するための建物とまちづくりに興味がある人
- (3) 災害から人々のくらしを守るシステムづくりに興味がある人

また、本学科の教育の目的と使命は、社会資本を持続可能にする土木技術者と建築技術者を育成することであり、達成目標として次の3つを掲げている。

- (1) 建設技術者に必要な基礎的な学力と能力の育成

社会資本を持続可能にする土木・建築の分野において、基礎的知識と技術を身に付け、論理的思考力を備えた実践的で創造性豊かな建設技術者を育成する。そのため、環境都市工学科では構造力学・水理学・地盤工学などの力学系基礎科目を体系的に教育することに加え、建築計画・環境衛生工学・施工管理学などの基礎科目を重視して、理論に関する学習と演習をとおして理解を深め、応用力を養うことに努めている。さらに、情報化社会に積極的に対応するための情報処理能力の修得にも力を入れている。

- (2) 幅広い専門分野の理論に関する応用力の育成

専門基礎科目を応用し、さらに一步深く踏み込んで、土木・建築の分野に必要な幅広い専門分野についても学習し、社会資本の新設・更新・維持管理・災害復旧に関するいかなる分野に進んでも、十分に活躍できる技術者の養成を目指している。さらに選択科目（専門科目）を幅広く開講し、学生が将来の進路に応じて選択・修得でき、学習意欲が高まるように配慮している。

### (3) 実験実習や卒業研究を通した実践力と創造力の育成

各専門科目の学習速度にあわせ実験実習と設計製図を実施して、身をもって体験しながら理論を理解させ、あわせて実践能力・洞察力の育成にも努めている。さらに、第5学年の卒業研究では学生自身にテーマを選択させ、自発的な調査・研究を促し援助することにより、研究に対する工学的なアプローチ手法を修得させると共に、成果発表の機会を設けることにより、構成・編集・発表（プレゼンテーション）などの能力の養成に努めている。

## 2. 将来計画

平成21年度入学生から改正建築士法に対応したカリキュラムとした。それによって平成21年度入学生から、指定された選択科目の単位を修得して卒業すると、卒業後4年の実務で一級建築士試験の受験資格が与えられることになる。

本学科は、昭和45年に土木工学科として福井高専に開設された。平成5年に環境問題にも対応できる学科を目指して環境都市工学科に改組した。開設以来、福井県内をはじめとした日本全国の建設系の企業や、国土交通省・福井県・福井市・越前市・鯖江市などの官公庁に多くの卒業生を輩出している。従来は土木系技術者の育成に重点をおいてきた。しかし、近年、入学生の要望や建設業界の動向を踏まえて建築系科目も充実した科目構成とした。なお、現在の3、4年生（平成19年度、20年度入学生）は改正前の建築士法に対応している。

卒業後の一級建築士試験受験資格取得を目指したカリキュラム改正の成果が問われるるのは、平成21年度入学生が卒業し一級建築士試験を受験する平成30年である。改正前の一級建築士試験受験資格のある現4年生を対象とすれば平成28年である。しかし、対象学生が卒業するのは1年後、3年後である。したがって今後1～3年で次のことをする必要がある。

### (1) キャリア教育の充実

本学科は前述のようにこれまで土木系技術者を世の中に輩出してきた。しかしながら、現4年生からは建築系技術者として社会に出て行く卒業生が出てくる。また、平成21年度入学生からは5学年の選択科目の履修内容によって卒業後の建築士試験受験資格が異なってくる。したがって、在学中に卒業後のキャリアパスを示す必要がある。さらにはキャリアパスを提示することによって、学生の学習意欲の向上を図らなければならない。

### (2) キャリアパスに見合った教育内容の精査

卒業後のキャリアパスを示すと同時に、そのキャリアパスに見合った教育内容を提示し、実践していくなければならない。土木系技術者教育にはこれまでに培ってきた教育内容や教授方法があるが、建築系技術者教育にはそれがない。建築系カリキュラムをすでに実践している大学、高専との連携を密にしていく必要がある。土木系技術者教育、建築系技術者教育あるいは場合によっては土木建築複合型技術者教育のどれをとってもその分野のエンジニアリングデザイン能力の育成に関する教育が重要となる。

### (3) 卒業生のキャリアを把握するシステムの構築

環境都市工学科卒業後に卒業生がどのような進路をたどりどのような職に就いているかを知り、卒業生が求めているものを、学科の教育内容および教授方法に反映させること

が、キャリアパスに見合った教育の一番の近道である。社会のニーズをカリキュラムに反映させるには、現に産業界等で豊富な経験を有している卒業生から得た情報を検討していくことが第一である。本学科には同窓会組織として「翔土会」がある。翔土会との連携を深めて、卒業生の意見の集約に努めていく。

### 3. 重点課題

#### (1) 環境都市工学科からの情報発信

環境都市工学科で行っていることを広く社会に発信していく。具体的には、①HPの充実、②出前授業の充実、③オープンキャンパス、サイエンスフェアの充実などがあげられる。社会への情報発信をすることによって環境都市工学科への入学志願者の増加も見込まれる。また、学科に在籍する学生への情報発信も重要である。具体的には、①キャリアパス、②科目の流れおよび科目内容、③取得資格の案内などである。学生への情報発信を充実させることにより、学生の学習への目的意識が高まり、学習意欲の向上に結びつけられる。基礎学力、専門学力の必要性を説明し、それら学力の向上を目指す。

#### (2) 同窓会組織「翔土会」との連携強化

卒業後3年から10年の卒業生の意見を聞くことが重要である。本学科で学習した知識と能力が卒業生の進むキャリアにとっての outcomes となっているかを把握しながら、授業内容を変更していくなければならない。そのためにも卒業生との定期的かつ密な連携をさらに強化する必要がある。この基礎資料として、及び卒業生に対するサービスとして、正確な卒業生名簿を整備するとともに、名簿発行と会員への配布を検討する。

### 4. 進学・就職指導状況

進路指導は、3年次より個人面談や進路に関するアンケートを実施し、進路に対する意識を早い段階から持たせるようにした。また、4年次（10月）の三者面談において進路の方向性を決定し、進学・就職に対する準備を始めるように指導した。さらに、進路指導委員会が主催した進路指導セミナー、SPI模擬試験などを通じて就業への意識啓発をはかり、学科として先輩講座、インターンシップ（報告会を含む）などを実施して公務員、ゼネコン、コンサルタントなどの職種について説明を行った。

これらの進路指導の結果、本年度卒業予定の環境都市工学科14期生36名の進路の内訳は、進学が15名（本校専攻科4名、長岡技術科学大学1名、豊橋技術科学大学1名、福井大学3名、金沢大学1名、北海道大学1名、千葉大学1名、三重大学1名、和歌山大学1名、本校研究生1名）であった。就職が20名で、就職先は、公務員では福井県、敦賀市に各1名、独立行政法人国立印刷局へ1名、民間企業では吹上コンサルタント、関西電力、日本車輌製造、東邦ガス、大鉄工業、東海旅客鉄道、日本貨物鉄道、中部電力、東京水道サービス、エム・テックなどの県外企業へ10名、日本電産シバウラ、plus、高野組、高崎建設、西村組、オフロム、ジビル調査設計などの県内企業へ7名であった。他1名は夢に向かって自己研鑽を重ねる決断である。本年度の進路の特徴として、進学では千葉大学や和歌山大学が加わり、就職では東邦ガスや東京水道サービス、日本電産シバウラなどに就職開拓ができたことがあげられる。

### III. 専攻科

#### 1. 教育理念・教育目標

##### (1) 概要

専攻科は、高等専門学校5年間の教育課程の上に、より高度な専門的知識と技術を教授し、創造的な研究開発や先端技術に対応でき、かつ国際的にも通用する人材を育成するために設けられた2年制の教育課程の組織である。本校の専攻科は、生産システム工学専攻（1学年定員：12人）および環境システム工学専攻（1学年定員：8人）の2専攻で構成されている。修了生は大学評価・学位授与機構に申請し、審査の後に学士の学位を授与される。本科4、5年次の全学科と専攻科2専攻のすべての教育課程で構成した「環境生産システム工学」教育プログラムは日本技術者教育認定機構（略称：JABEE）から社会の要求を満たしている融合・複合分野の技術者教育プログラムであるとして、平成16年度から認定されている。

##### (2) 目指すエンジニア像と教育目標

専攻科では、地球的視点の倫理観を持ち、「ものづくり・環境づくり」に関する能力と、多様な「システム」を理解し創造的に「デザイン」する能力を身に付けた、国際社会で活躍する実践的技術者の育成を目指しており、教育目標としては、下記の5つの大項目とそれらを細分化した32の小項目を掲げている。

- A 地球的視点の技術者倫理を意識した、ものづくり・環境づくり、システムデザイン能力の育成
- B 幅広い工学的素養、得意とする専門技術の基礎能力および応用能力の育成
- C 豊かな創造力とデザインマインドを持ち、常に自己を啓発し、新しい課題・分野に挑戦する能力の育成
- D 高度に情報化した国際社会で必要なコミュニケーション基礎能力とプレゼンテーション能力の育成
- E 体験に基づいて問題を発見し、解決策を企画・実行する実践的能力および論理的思考能力の総合的な育成

ものをつくり出すことあるいはつくり出す過程が自然や社会などの地球環境に与える影響を常に考えられる能力（環境を意識したものづくり）だけにとどまらず、「人間が住みよい環境とは何か」、「人間だけが住みよくてよいのか」をも考慮できる能力（環境づくりができる）の育成を目指して、学習・教育目標に「ものづくり」に加え、「環境づくり」も掲げている。さらに、「もの」「人」「環境」の連携を図り、それらを有機的に結びつけるシステムのデザイン能力を育成している。

##### (3) カリキュラムの特色

本科5学科々の専門知識の基礎を習得した後、専攻科では得意とする専門知識を深化させる専門展開科目と、今日の多様化した社会に対応できるように、幅広く他の技術分野の知識と能力を身に付けるための専門共通科目を開講している。この専門共通科目の内7科目（技術者倫理、創造デザイン演習、先端材料工学、ものづくり情報工学、環境工学、地球環境、経営工学）を必修とし、融合・複合分野の教育プログラムであることを特徴づけている。また、夏季休業期間を利用しコーオプ教育の一環として約一ヶ月間のインターンシップや、北陸技術交流テクノフェアにおいて特別研究の内容を学外の技術者や研究者に説明させるなど、学内にとどまらない技術者教育に力を傾注している。

## 2. 将来計画

### (1) エンジニアリング・デザイン教育の向上と共同教育の実施

21世紀となり10年が経過し、多様化した社会から技術者に寄せられるニーズも変化してきている。このことを踏まえて、エンジニアリング・デザイン能力を向上させる技術者教育の必要性が叫ばれており、JABEE認定の重要な審査項目にもなっている。エンジニアリング・デザイン能力とは、必ずしも正解のない問題、トレードオフな問題に対して、実現可能な具体策を見つける能力であるとされている。本校専攻科では、「創造デザイン演習」や「デザイン工学」を通して、この能力の向上を図っている。さらに充実させるために、企業との連携による共同教育を行うことを検討し、専攻科生が社会の要望に応えられる知識と能力を身に付けて修了できるようにしなければならない。

### (2) 専攻科の拡充と本科との連携

現在専攻科では、融合・複合領域でJABEEに認定された環境生産システム工学プログラムを実施している。社会からさらに学際領域における知識を身に付けた人材が要求されることを想定して、専攻科の2専攻（生産システム工学専攻、環境システム工学専攻）のあり方や、エネルギー供給県である福井県に関連するコースなどを含んだコース制の導入も視野に入れた、専攻科学生定員増を図ることを検討する。

また、専攻科を充実させるには、専攻科に入学してくる本科卒業生のレベルアップが大前提となることから、現在本科生にも開放している数学総合試験やTOEIC-IP試験に加えて、さらに本科との連携を強化していくことを検討する。

## 3. 重点課題

### (1) 学習・教育目標の修正および周知

現在の学習・教育目標は前述の5つの大項目とそれらを細分化した32の小項目からなっている。しかし、大項目にはAとBやCとEなどで重複して表現されている箇所があることや、小項目の数が多いという意見があった。また、このようなことがJABEEの継続審査の結果でも指摘された。そこで、来年度からは学習・教育目標の内容は変更せずに、その表現をわかりやすく、小項目の数も少なくすることとした。教職員および学生へ、この修正した学習・教育目標の周知を徹底し、専攻科修了生の質の保証をより確実となるようにする。

### (2) 英語能力の向上・国際活動

専攻科修了要件の一つにTOEICで400点以上の取得を義務づけている。英語能力の向上を図るために授業では現代英語（100分×30回）および専門英語を工学演習（100分×2回）で教授している。また、TOEIC-IP試験を本校で年5回実施し、高得点者は修了時に表彰することを通して、英語に対するモチベーションを高めるようにしている。専攻科生の海外での学術活動およびボランティア活動を支援するため、海外活動支援制度を設けて経済的支援を行っている。来年度からはさらに、現代英語の授業で英語によるポスター発表を前提とした内容を実施して、国際化する社会に対応させる。

### (3) エンジニアリング・デザイン教育の充実

今年度、既に共同教育を実施している高等専門学校に教員を派遣し、その実情を探った。来年度は、この知見を創造デザイン演習の授業に活かしていくとともに、地元企業の技術者を講師に迎えた共同教育実現を検討していく。

## IV. 教務関係

### 1. 基本方針

教務活動は、本校の教育理念や方針に沿った教育を行うための業務運営が主たる活動である。このため、学習・教育目標を達成するための、最も効果的なカリキュラム編成、授業方法、評価方法の研究と実施が重要な職務と考えられる。また、これらの目標を達成するための入学生の質の向上と適正な志願倍率の確保手段としての入試に対する取り組みも重要な業務に上げられる。ここでは現在の本校の教務活動に関し、教務関連の課題と今年度の対応を概説し、今年度より開始された原子力人材育成教育、長岡技術科学大学との戦略的技術者育成協働教育を含め、特に問題となっている入学者確保に関する対策を詳細に記載する。

### 2. 教務関連の課題と今年度の対応

本校の教育理念である、「創造性豊かな人材の育成、幅広い工学的素養、基礎能力及び応用能力の育成を目指す実践教育、高度に情報化した国際社会に対応する教育、環境を意識し、地域社会に根ざしたものづくり教育」を行うため、学習・教育目標を掲げ、そのためのカリキュラムを編成している。以前の機関別認証評価において最も重要視された事項が「教育理念があり、それに沿ったカリキュラムが編成されているか」であり、今後とも、このことに留意したカリキュラム編成研究が重要であると思われる。

平成18年度に高等専門学校設置基準が改訂され、高等専門学校にこれまでの履修単位ばかりでなく、学修単位が60単位まで導入することが認められた。本校では各学科の高学年に講義演習タイプの約20単位の学修単位を導入したが、実質的に講義の時間数は変化していない。一方、4、5年に専攻科と同様な単位換算の講義タイプの学修単位を導入する高専が出始めている。本校では、他高専の導入状況と問題点を検討しながら、慎重に導入時期を決定したい。

本校では平成17年度より、中学生・保護者の要望と低学年の創造教育進展のために、低学年のクラス編成と入試制度、カリキュラムを改訂した。具体的には、学力入試で各科8名の工学基礎コースを設け、2年進級時に本人の志望と成績により転科が可能になる制度である。これは高専への入学の意思はあるものの、希望学科が絞り込めないという生徒・保護者や中学校教諭からの意見により本校が独自に始めた制度であり、現在学力受検者の約7割が希望している。実際の転科の状況は、平成17年度には14名、18年度には5名、19年度には11名、20年度には6名、21年度には5名が転科し、転科者の人数は減少傾向を示している。また、この制度を設けるに当たり、1年の1クラスを工学基礎コース、他のクラスを混合学級とした。さらに、ものづくり科学という創成型の授業を開始するなどのカリキュラムの改訂を行った。この制度の入学者が昨年度初めて卒業し、工学基礎コースに関する学生アンケート等を実施し制度の総括を行った。京都の堀川高校など創成型授業が普通高校でも注目を集めている。本校では工学基礎コースの精神を生かしながら、早期キャリア教育など時代の要請に対応した高専教育を実現するために、制度の改正を行いたい。

4年前より導入した1コマ100分の授業の問題点を改善するため、できるだけ3.5コマ（50分授業では7限）で終了できるように時間割を改訂している。現状では4コマ（8限）終了の日が週1回火曜日に特定の学年で生じるが、将来は全ての曜日が3.5コマ（7限）で午後4時頃に終了できるようにカリキュラムの改訂を継続して検討したい。

校舎改修工事の関係もあり平成20年度より8、9月を夏休みとする学事日程を採用した。そのため9月中の学生指導の一環として、9月末に学力強化週間を設け、成績不振の学生を対象に基礎学力の強化を図る行事を昨年度より開始した。今年度は、低学年の実施例が増加し、夏休み課題の確認・指導、授業の復習・補講、仮進級解除、再試験、一斉試験、校外研修、資格試験の指導など多岐にわたる内容で実施することができた。学力強化週間は、夏休み終盤の9月末に主として成績不振の学生を指導することで、該当学生が後期のスタートをしやすくなるなどの効果も期待できる。基礎学力向上は本校で最も取り組むべき課題の一つであり、今後も今年度の実施結果を参考に内容の改善を検討していきたい。

発達障害・学習障害の学生に対する支援については、一部の高専で特別支援室を開設するなど具体的な活動を開始している。本校でも人數的には少ないが対象となる学生が出てきており、該当学生の教務に関する支援を行うため、昨年度特別支援ワーキンググループ(WG)を設置した。教務主事(WG長)、学生相談室長(副WG長、議長)、看護師、カウンセラーが構成メンバーであり、支援が必要な学生毎に支援チームを設けて対応を開始した。今年度も対象学生に対する支援を継続し、新学生相談室長が福井県特別支援教育コーディネーター研修に参加した。なお、来年度に向けて特別支援室を設置し、活動を強化することを目指している。

本校は平成24年度に機関別認証評価を受審することになっており、その対応として今までJABEEの学習・教育目標を本科の目標としていたが、本科に開設されているカリキュラムで達成される学習・教育目標に改正した。また、それに対応して達成度評価シート等を整備し、受審への体制を強化した。

### 3. 原子力人材育成教育、長岡技術科学大学との戦略的技術者育成協働教育の開始

平成22年度に、本校は経済産業省原子力人材育成プログラムの中の原子力地域人材プログラムに採択された。本校では以前より原子力教育を行ってきているが、特定の学科や学年に偏っていた。本事業では、本科から専攻科までの全学生に対応した7年間の原子力教育プログラムを充実し、近隣の原子力関連機関と連携した共同教育プログラム(エネルギー校外研修・インターンシップ)を企画・推進することにより、地域の原子力産業界で求められている幅広いエンジニアリング素養を身につけた、原子力関係の実践的な技術者の育成を目指すことにした。また、原子力関連の特別講座・講演会を全学年で効果的に企画・開催し、低学年から全学科の学生がこの分野への関心を高めることで、幅広い出身学科からの原子力分野への人材育成につながることが期待される。さらにフォーラムを開催し、原子力人材育成の重要性と本校の原子力教育への取り組みを地域に発信した。

次に、平成22年度より6年間の事業として、長岡技術科学大学が高専機構と協働し、戦略的技術者育成アドバンスドコース事業を開始することになり、6高専がこの事業に参加することになった。本校は同事業を推進するための協力校に選出され、同事業を本校の学生に対し推進することになった。今年度は、来年度から開始する協働教育に関する内容等を検討することになり、本校で開講する協働科目等を決定した。

### 4. 入学者確保とその状況

本校の教育理念に沿った教育を行うため、また、本校の教育レベルの維持とさらに教育内容を向上するために、入学生の質の向上と適正な志願倍率の確保は重要な問題である。過去3年間の入試倍率の推移を以下の表に示すが、過去6年間で見ると17年度の1.8倍から1.7倍、

1. 5倍へと少しづつ低下し、低下傾向に歯止めがかからない状況かと心配された。ただし、20年度に今までの結果を検証し、①入試に関する1年生へのアンケート調査、②推薦基準の改正、③入試会場の増設、④全中学生配布用入試リーフレットの作成、⑤入試関連行事の見直しと改善などを行い、1.7倍に倍率が回復した。しかし、21年度は20年度の方針を継続し、さらに福井市に入試会場を増設するなどの対策を行ったが、倍率としては1.5倍に戻っている。22年度は推薦募集枠の1名増加、入試会場の整備、広報活動の強化を行い1.6倍に回復した。23年度はさらに倍率が向上するよう、キャンパスツアーコースの新企画を5月と早い段階に導入するなど広報活動の強化を行っており、以下にその内容を記す。

＜過去3年間の入試倍率の推移＞ ( ) 内は女子で内数。

| 年度  | 学 科<br>[募集人員] | 機 械<br>[40] | 電気電子<br>[40] | 電子情報<br>[40] | 物 質<br>[40] | 環境都市<br>[40] | 計<br>[200] |
|-----|---------------|-------------|--------------|--------------|-------------|--------------|------------|
| H22 | 志願者数          | 51(1)       | 55(3)        | 80(10)       | 82(20)      | 55(10)       | 323(44)    |
|     | 合格者数          | 41(1)       | 40(3)        | 40(5)        | 40(12)      | 40(9)        | 201(30)    |
|     | 倍 率           | 1.3         | 1.4          | 2.0          | 2.1         | 1.4          | 1.6        |
| H21 | 志願者数          | 60(1)       | 75(3)        | 47(8)        | 57(17)      | 57(13)       | 306(42)    |
|     | 合格者数          | 40          | 40(3)        | 40(4)        | 40(14)      | 40(10)       | 200(31)    |
|     | 倍 率           | 1.5         | 1.9          | 1.2          | 1.4         | 1.4          | 1.5        |
| H20 | 志願者数          | 67(3)       | 59(3)        | 86(11)       | 80(25)      | 50(8)        | 342(50)    |
|     | 合格者数          | 40(1)       | 41(2)        | 41(6)        | 40(14)      | 41(10)       | 203(33)    |
|     | 倍 率           | 1.7         | 1.5          | 2.2          | 2.0         | 1.3          | 1.7        |

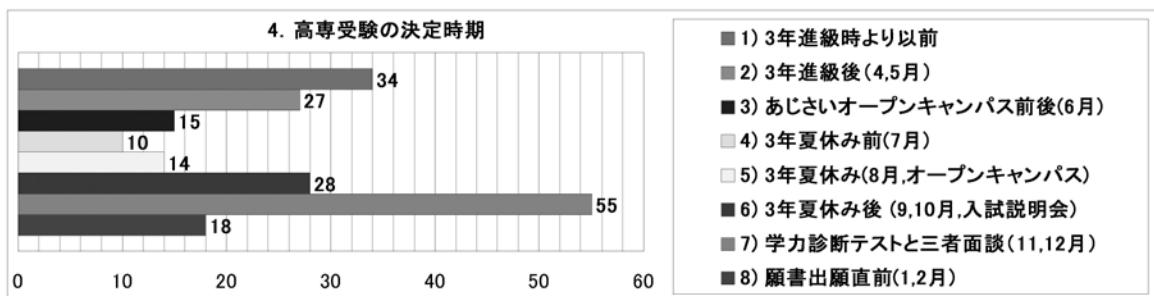
(注) 平成22年度の入学者選抜試験中学校別合格者数をこの項目最後に添付する。

#### (1) 入試に関する1年生へのアンケート調査

4月に新1年生に対し、入試に関するアンケート調査を実施し、今年度の入試に関する方針を決定するための基礎資料とした。以下に例として、高専受験の決定時期、本校を志望した理由とアドミッションポリシーに関するデータを示す。

##### ① 高専受験の決定時期

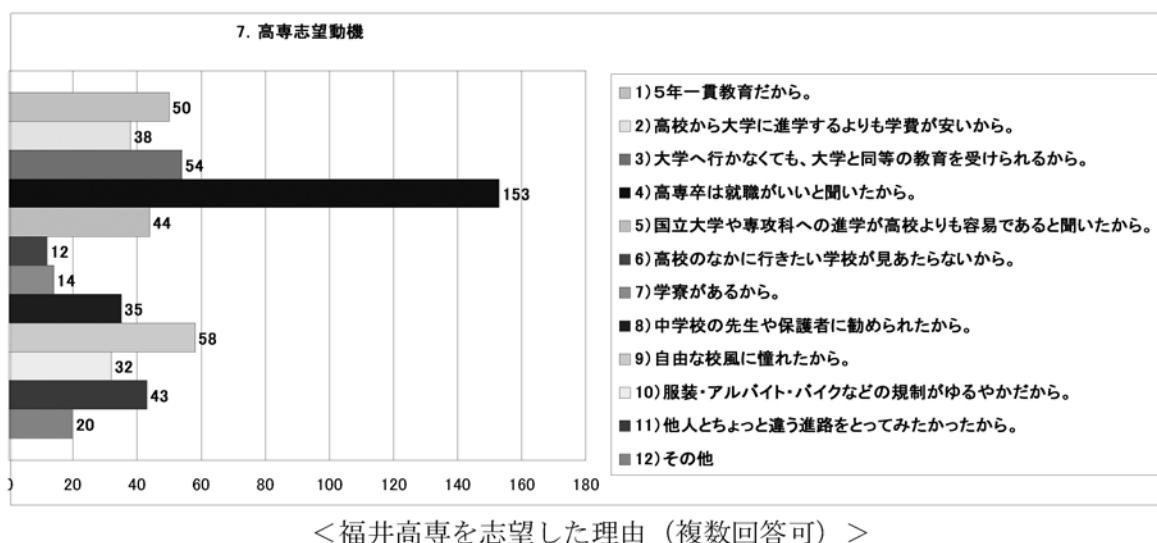
高専受験の決定時期としては、昨年は3年の夏休み後の9～10月頃が最も多かったが、今年度は11～12月の3者面談の頃が最も多くなった。3年進級後の4～5月頃も昨年に引き続きかなり多く、この時期に今年度はキャンパスツアーコースの新企画を実施することにした。



＜高専受験の決定時期（複数回答可）＞

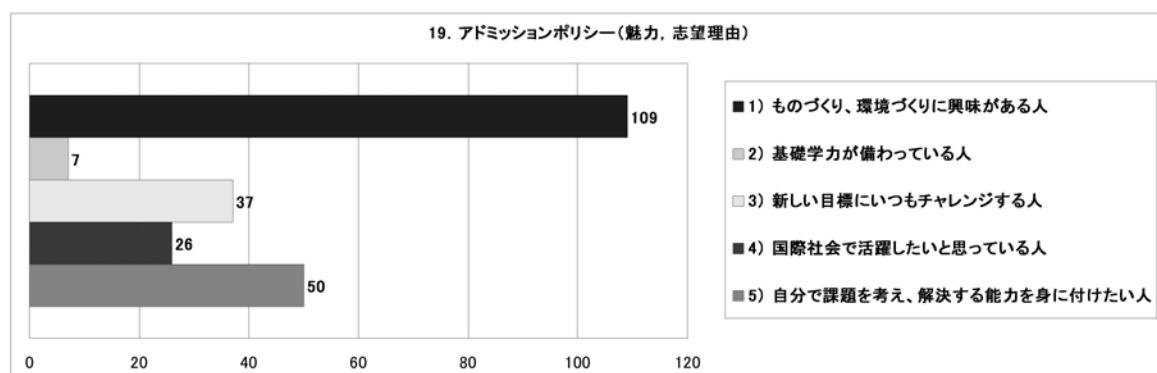
## ② 本校を志望した理由

本校を志望した理由を複数回答可で集計したところ、以下のグラフのように、「高専卒は就職がいいと聞いたから」が一番多くなり、2番目が「自由な校風に憧れたから」で、3番目が「大学へ行かなくても、大学と同等の教育を受けられるから」であり、「5年一貫教育だから」もほぼ同数であった。この傾向は昨年度と大体同じであるが、就職が良いという割合が昨年より増加していた。最近の経済状況を表していると考えられ、就職という観点が昨年度以上に中学校の生徒へは非常に重要であることが分かった。また、「国立大学や専攻科への進学が高校よりも容易であると聞いたから」という将来の進学を挙げた学生は、昨年度よりは少し増加したがそれほど多くはない。ただし、ある程度の割合はあり、保護者や中学教員へのアピールとしては重要な項目と考えられる。



## ② アドミッションポリシー

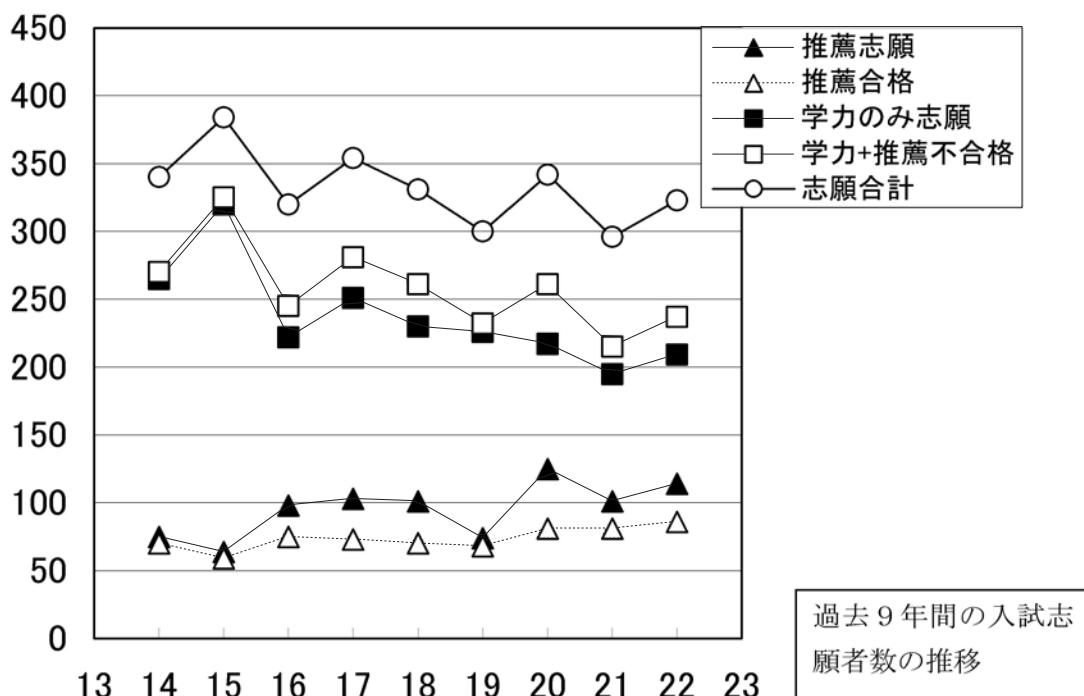
福井高専のアドミッションポリシーの中で、魅力を感じ、福井高専志望の理由となったものは何かを複数回答可で質問したところ、以下のように「ものづくり、環境づくりに興味がある人」が昨年度と同様に一番多くなり、割合も増加した。本校で一番重視している項目であり、現状のアドミッションポリシーに沿った学生が入学しており、適切な状況と考えられる。なお、それ以外の傾向は昨年度とほぼ同様であり、3と5の項目が多くなっている。



<アドミッションポリシーの中で福井高専志望の理由となったもの（複数回答可）>

## (2) 推薦基準の検討

本校の教育レベルの維持とさらに教育内容を向上するために、入学生の質の向上と適正な志願倍率の確保は重要な問題である。中学生の生徒数の減少と共に、本校の入試倍率は平成17年度1.8倍、18年度1.7倍、19年度1.5倍と低下傾向が続いていたが、20年度に推薦基準の改訂（緩和）を行い、1.7倍にまで回復した。21年度は入学者の質はまづまずであったが、倍率は1.5倍に減少した。22年度は推薦募集枠を1名増加し、入試会場の改善、広報活動の強化を行い1.6倍に回復した。下図に過去9年間の入試の志願者数の推移を示す。



20年度に改訂した内容は以下の通りである。

- (a) 推荐要件の緩和（対象学年を2、3年とし、基準点数を68点以上に低減）
- (b) 募集人員を30%程度から35%程度に5%（各科2名）増加

次に、22年度に改訂した内容は以下の通りである。

- (a) 募集人員を35%程度から15名程度に増加（2.5%（各科1名）増加）
- (b) イ要件の「科学の分野」を「科学や技術の分野」に改正

この改定案は、過去の入試データおよび入学後の成績との相関を詳細に検討して割り出しておらず、入学後の1年生の成績を調べてみると、この基準で推薦入学した学生の成績は問題がなく適性であることを確認している。今年度の推薦要件についてもいくつか改正案を提案し検討したが、最終的に基準は変更せずに、広報活動を充実することで対応することにした。

## (3) 入試会場の5会場体制の継続と整備

福井高専会場と滋賀県彦根市会場以外に、19年度に嶺北北部のあわら市、20年度に嶺南の敦賀市、そして21年度は人口の多い福井市に学力検査会場を新設し、学力検査は5会場体制になった。21年度の福井市会場は、JR福井駅に隣接し、交通の便が良いアオッサ7階の放送大学福井学習センターで実施した。22年度から福井市会場の収容人員を増加し、受験生

の地域制限を撤廃してより利用しやすくするため、同じアオッサの6階フロアを全て貸切で入試を行えるようにした。本校会場も改修により新しい教室で実施できるようになった。

#### (4) 入試配付資料の改善、カレッジガイドのデジタルパンフ化、キャンパスグッズの製作

入試関連の中学生に対する本校紹介用資料としては、冊子体のカレッジガイドを用いており、中学校訪問時や郵送で県内全中学校および滋賀県・石川県の中学校に指定部数を配布し、オープンキャンパスや入試説明会等の参加者に渡している。なお、本校ホームページにカレッジガイドのデジタルパンフレットを掲載し、いつでもカレッジガイドがパソコン画面で本をめくるように見られるよう改善した。

また、各県立高校の紹介資料が中学生全員に配布されているのに対応するため、3年前から「福井高専Q&A」というリーフレットを作成し福井県内の中学生全員に配布している。今年度は6～7月の福井県および滋賀県の中学訪問時に持参し3年生全員への配布をお願いした。また、2年時の進路指導の授業での使用を目的に、県内の中学校2年生全員に配布して頂くようお願いし、滋賀、石川県内中学校には指定部数を9月に郵送した。また、昨年度改訂した本校紹介用のCD(ビデオ映像)を、オープンキャンパス等で配布し、中学校訪問時に持参した。

なお、今年度は特に昨年度制定した本校のロゴマークの入ったキャンバスグッズ(ファイル、消しゴム、ノート、エコバッグ等)を製作し、オープンキャンパス等で配布した。

#### (5) 入試関連行事の見直しと改善

##### ① 校長・副校長による県内の中学訪問と挨拶（4、5月）

年度の当初に校長・副校長が丹南および福井地区の主要中学校を訪問し、各中学校校長に対して前年度の志願者派遣に対する謝礼を述べている。また、副校長が残りの県内のほぼ全中学校を訪問し、前年度の御礼と今年度の入試関連行事の予定、特に今年度改修を記念して開催する新企画のキャンバスツアーと恒例のオープンキャンパスへの参加をお願いした。1年のアンケート結果で就職が良いことが志望動機で最も高いことから、就職(不況時の高い求人倍率)と進学状況、および校舎改修を分かりやすく説明した印刷物を作成し、訪問時に配布した。

##### ② キャンバスツアー（5月）

40数年ぶりに2年かけて行ってきた校舎改修工事が3月に終了し、新校舎が完成したこと記念して、高専キャンバスツアー2010(福井高専新校舎・施設見学会)を連休後半の5月8日(土)に開催した。中学校生徒、教員及び保護者対象に、3月に完成した新校舎や女子寮等の施設見学をスタンプラリー形式で行い、併せて相談コーナーで本校の教育・学生生活・入試等の質問に答えることで、本校を身近に感じてもらうことを目的としている。本校としては初めての3つ目のオープンキャンパスに匹敵する大きな企画であるが、準備期間が短かったため、参加予定人数を200名として計画を練った。中学校への案内が遅かったにもかかわらず、〆切日には予定人数を大幅に超え、生徒数が340名、全体で514名と大人数になった。急遽開催内容を再検討し、問題が生じないよう参加者を分散させる工夫を行った。

参加者へのアンケート調査では、満足度に関しては「大変良かった」という回答の割合が生徒で75%、全体で71%と非常に多く、また自由記述欄への記述が236件もあつ

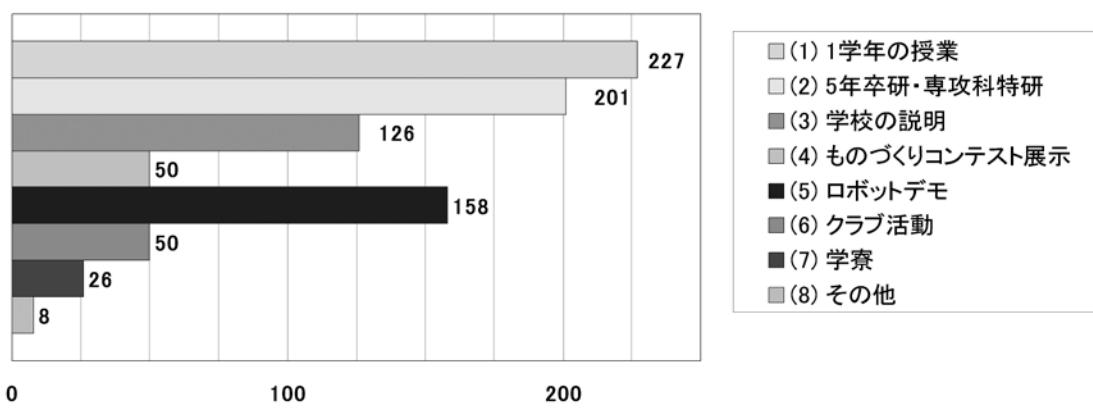
た。自由記述欄の内容は、良い感触の感想が202件と86%もあり、予想以上に好評であったことが判明した。女子生徒の参加者が126名で全体の4割弱あり、他のオープンキャンパスの2割強と比べて多かったのも特長である。

## ② あじさいオープンキャンパス（6月）

福井県内の高校が5、6月にオープンスクールを実施するようになったことに対処するため、本校でも平成18年度より6月にアーリーサマーオープンカレッジを開催することとした。昨年度から季節感が出て中学生が覚えやすくなるように、あじさいオープンキャンパスという名称に変更した。夏の従来のオープンキャンパスと区別するため、このオープンキャンパスでは文字通りに実際の授業を中学生・保護者・中学関係者に参観してもらうこととしている。また、3年前より保護者が参加しやすいように開催日を土曜日としている。公開授業としては、「ものづくり教育」関連授業として1年のものづくり科学や5年の卒業研究・実験・演習等を行った。また、学校説明会やロボコンの実演も行った。なお、パンフレットをカラー化し分かりやすい内容にした。

新校舎完成後の6月20日（土）に開催し、生徒が307名、保護者が166名、教諭が18名で合計491名もの参加者でぎわった。昨年度よりは全体で90名、生徒では34名減少したが、2年前との比較では全体で68名、生徒で44名増加しており、キャンパスツアーニーに近い日程であることを考えると十分な宣伝効果があったと考えられる。

オープンキャンパスで興味を持ったのは何かという質問をしたところ、次の図のよう一番多かったのは、1年のものづくり科学でその次は5年の卒研・専攻科の特別研究であり、昨年まで一番多かったロボットのデモ（ロボコン参加ロボット等の実演）がその次になった。この3つが上位にあるのは昨年度までの結果と同じであり、ロボットのデモやものづくり関連の体験型授業が好評であり、今後もこの方針は継続すべきと判断される。



<あじさいオープンキャンパスで興味を持った内容（複数回答可）>

## ③ 中学校訪問（6月中旬～7月上旬）

6月中旬から7月上旬にかけて、県内のほぼ全中学校と滋賀県の中学校を副校长、学科長・一般科目主任、教務主事補が分担して訪問した。昨年度から、教員ができるだけ2人体制で訪問することとし、詳細な訪問マニュアルも作成した。さらに今年の入試や進路情報などの分かりやすい印刷物を作成し配布した。応募者が減少傾向の滋賀県は教務主事団が2人体制で訪問

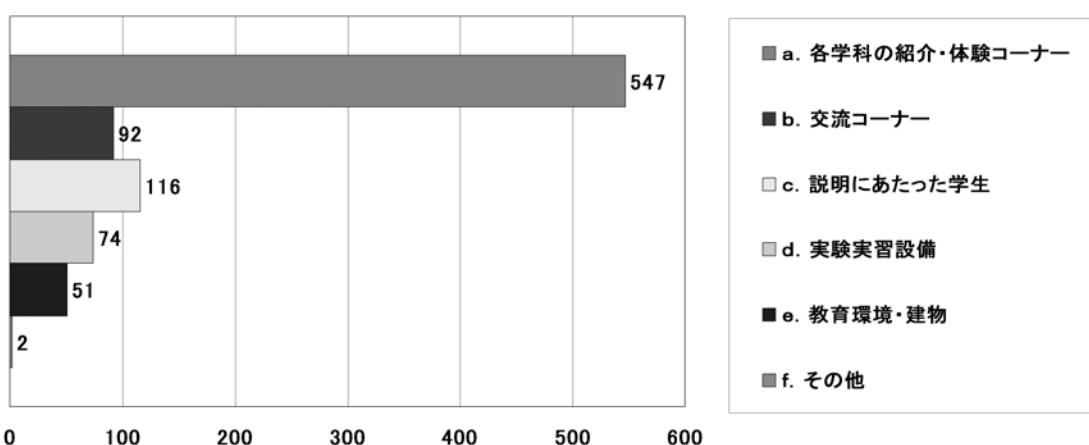
した。また、2年前入試会場として敦賀会場を新設したため、若狭地区の中学校もほぼ全校を訪問した。さらに石川県の中学校の中で、昨年応募者のあった福井県側の加賀市、小松市の中学校を訪問した。

#### ④ オープンキャンパス（8月初旬）

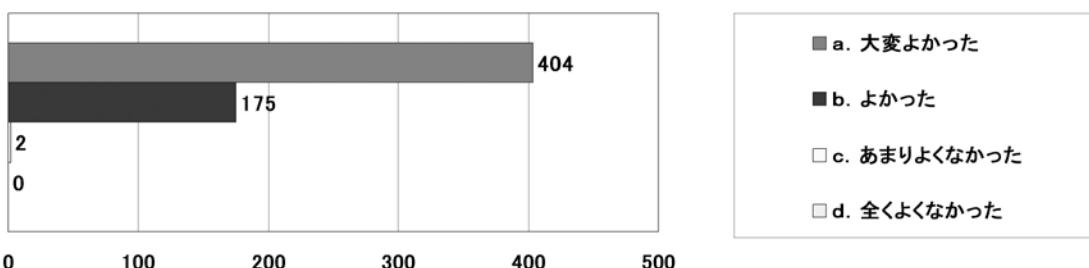
毎年夏に、本校の各学科の内容を中学3年生・保護者・中学校関係者に紹介するために開催している。以前は体験入学と呼ばれていたが、各学科の5年生が準備して実際にデモ実験等を体験できるために中学生に人気がある。以前は多くの参加者があったが、18年度にアーリーサマーオープンカレッジを6月に開催したため、参加者が約200名弱減少した。19年度以降は6月との違いを説明して中学校を訪問したため、次第に増加するようになった。2年前には名称をオープンキャンパスと改め、昨年度からは保護者が参加しやすくなるよう、土曜日に開催することにした。今年度の最終的な参加者は、生徒440名、保護者213名、教員31名（総数684名）となり、近年では最も多くなっている。なお、昨年度からパンフレットをカラー化し、会場では暑さ対策としてうちわを配布した。

実施後のアンケート結果は次のようである。昨年度と同様であるが、各学科が工夫を凝らし体験コーナーが充実していたため、学科のコーナーの評価が高かった。また、全体の満足度も非常に高くなかった。開催日に関してもアンケートを採ったが、現在の日程（8月初めの土曜日）が最も賛同者が多く、来年度も今年のような日程で良いと判断される。なお、オープンキャンパスの見学方式として、固定した学科でなく現在のような5学科全部を見学する方式の方が良いと回答した生徒が多く、今後もこの方式で良いと考えられる。

##### (a) 一番印象に残ったこと（一つ回答）



##### (b) 満足度



最後にオープンキャンパスの参加者を過去7年間で比較した（下表）。この表からも分かるように、今年度の参加者は5月、6月、8月の合計で1,689名あり、昨年より487名増加し、過去最高の参加者であった。生徒数も1,087名となり過去最高で、参加中学校も延べ207校で過去最高の数字である。なお、今年度実施された3回のオープンキャンパスで重複して参加した生徒を1回参加として求めた実参加生徒数は734名にもなる。昨年度の実参加生徒数547名と比較すると187名も多く、近年では最も多い参加生徒数であった。

＜過去7年間のオープンキャンパス参加者・参加校数の推移＞

| 区分   | 参加校 | 参加者 |      |     |     |      |
|------|-----|-----|------|-----|-----|------|
|      |     | 生徒  | 保護者  | 教諭  | 計   |      |
| 22年度 | 5月  | 53  | 340  | 168 | 6   | 514  |
|      | 6月  | 65  | 307  | 166 | 18  | 491  |
|      | 8月  | 89  | 440  | 213 | 31  | 684  |
|      | 計   | 207 | 1087 | 547 | 55  | 1689 |
| 21年度 | 6月  | 59  | 341  | 216 | 24  | 558  |
|      | 8月  | 82  | 413  | 183 | 25  | 621  |
|      | 計   | 141 | 754  | 399 | 49  | 1202 |
| 20年度 | 6月  | 56  | 263  | 153 | 30  | 446  |
|      | 8月  | 80  | 395  | 139 | 35  | 569  |
|      | 計   | 136 | 658  | 292 | 65  | 1015 |
| 19年度 | 6月  | 49  | 301  | 170 | 26  | 497  |
|      | 8月  | 78  | 435  | 116 | 30  | 581  |
|      | 計   | 127 | 736  | 286 | 56  | 1078 |
| 18年度 | 6月  | 38  | 235  | 84  | 15  | 334  |
|      | 8月  | 76  | 317  | 117 | 29  | 463  |
|      | 計   | 114 | 552  | 201 | 44  | 797  |
| 17年度 | 82  | 474 | 148  | 37  | 659 |      |
| 16年度 | 83  | 489 | 138  | 39  | 666 |      |

＜過去4年間のオープンキャンパスへの実参加生徒数＞

| 年度     | 22年度 | 21年度 | 20年度 | 19年度 |
|--------|------|------|------|------|
| 実参加生徒数 | 734  | 547  | 497  | 551  |

##### ⑤ 入試相談コーナー（8月、10月）

8月7日（土）、8日（日）に開催された「おもしろフェスタ in サンドーム福井2010」の高専コーナーおよび10月16日（土）、17日（日）開催の高専祭のサイエンスフェア（学科催し）において、入試相談コーナーを設け本校の紹介と入試の案内を行った。その結果、おもしろフェスタはオープンキャンパスと重なったが、中学3年生が12名、2年生が6名、小学生が2名参加し、保護者も相談に訪れ、昨年より増加した。高専祭の方は、中学3年生

よりも中学1、2年や小学生が保護者と訪れることが多く、長い目で見た入試対策として今後も継続すべきと考えている。

#### ⑥ 中学校訪問等（9月）

丹南地区および福井・嶺北北部地区の中学校を9月末に訪問し、募集要項等を持参した。今年度の入試情報や入試説明会の参加依頼、中学校主催の高校説明会への積極的参加などを説明した。

また、地元の有力塾を訪問し、募集要項等により高専の説明を行い、中学生への更なる啓蒙を図った。

#### ⑦ 入試説明会（10～11月）

福井県、滋賀県内を幾つかのブロックに分けて、校長・副校長・学科長・一般科目主任・教務主事補によって本校の紹介と入試の実際についての説明会を行っている（福井県10会場（11回）、滋賀県6会場）。昨年とほぼ同じ形式で実施しており、会場の一部を変更し、福井県内の説明会は、福井会場（2回）と高専会場（2回）以外は副校長と教務主事補がチームを組んで説明会を行った。なお、募集要項の内容や入試問題等の内容を昨年より多く分かりやすくしたスライドを作成し、入試説明会のマニュアルを改訂した。学科紹介用のスライドは、統一したデザインで各学科に作成を依頼した。過去5年間の入試説明会の参加者数の推移を下表に示すが、昨年度より生徒数で66名、合計で128名増加していた。福井新聞に9月に掲載された県教育委員会発表の高専志望者数も昨年度と比較して29名増加している。今年は福井県の中学3年生の人数が約300名減少したが、参加生徒数は幸いにも増加し、過去8年間では最多の人数となり、オープンキャンパスの参加者増に対応していた。

また、各中学校が主催する高校説明会にも積極的に参加するようにしている。今年度は昨年から6校増えて17校から参加依頼があり、副校長が10回、教務主事補が7回出席し入試に関する話を行った。なお、昨年までは丹南地区の中学校からの依頼が主であったが、今年度は滋賀県からの依頼が4校と増加し、大野や若狭地区からの依頼もあった。

なお、2月には、中学校2年生に対する本校紹介の依頼が1件あり、教務主事補が参加した。

＜過去5年間の入試説明会参加者数、県教委発表の高専希望者数（9月集計）の推移＞

|      | 生徒  | 保護者 | 教諭 | 計   | 県教委 |
|------|-----|-----|----|-----|-----|
| 22年度 | 351 | 337 | 61 | 749 | 312 |
| 21年度 | 285 | 256 | 80 | 621 | 283 |
| 20年度 | 268 | 223 | 65 | 556 | 254 |
| 19年度 | 329 | 297 | 78 | 704 | 278 |
| 18年度 | 257 | 237 | 69 | 563 | 226 |

#### 5. 留学生受け入れ状況

本校では、諸外国との相互理解と友好の増進に寄与するため、外国人留学生を受け入れている。今後も国際協力のため積極的に受け入れを続けたい。また、他の学生にとっても学校・クラス内に留学生と日常的に接することができるには、国際社会の一員であることを理解するためにも有益と考えられる。平成22年度の留学生の在籍状況は下表のとおりである。

| 国名<br>学年・学科 |         | マレーシア | ラオス | モンゴル | カンボジア | バングラデッシュ | インドネシア | 合計 |
|-------------|---------|-------|-----|------|-------|----------|--------|----|
| 3年          | 機械工学科   | 1     |     |      |       |          |        | 1  |
|             | 電気電子工学科 |       |     |      |       | 1        |        | 1  |
|             | 物質工学科   |       |     | 1    |       |          |        | 1  |
|             | 小計      | 1     |     | 1    |       | 1        |        | 3  |
| 4年          | 機械工学科   | 1     |     |      |       |          |        | 1  |
|             | 電子情報工学科 |       |     | 1    |       |          |        | 1  |
|             | 小計      | 1     |     | 1    |       |          |        | 2  |
| 5年          | 機械工学科   | 1     |     |      |       |          |        | 1  |
|             | 電気電子工学科 |       |     |      |       |          | 1      | 1  |
|             | 電子情報工学科 |       |     |      | 1     |          |        | 1  |
|             | 小計      | 1     |     |      | 1     |          | 1      | 3  |
| 合 計         |         | 3     | 0   | 2    | 1     | 1        | 1      | 8  |

## 6. 在校生の状況

平成22年度の在籍状況は以下のとおりである。(平成22年10月1日現在)

### <本科>

| 学 科     | 定 員 |      | 現 員     |         |         |         |         |           |
|---------|-----|------|---------|---------|---------|---------|---------|-----------|
|         | 学級  | 学科   | 1年      | 2年      | 3年      | 4年      | 5年      | 合 計       |
| 機械工学科   | 40  | 200  | 42 (1)  | 40 (0)  | 43 (1)  | 42 (0)  | 44 (0)  | 211 (2)   |
| 電気電子工学科 | 40  | 200  | 40 (3)  | 39 (3)  | 45 (2)  | 42 (3)  | 39 (3)  | 205 (14)  |
| 電子情報工学科 | 40  | 200  | 40 (5)  | 41 (4)  | 43 (4)  | 36 (4)  | 41 (6)  | 203 (24)  |
| 物質工学科   | 40  | 200  | 41 (12) | 36 (12) | 41 (14) | 42 (17) | 36 (19) | 196 (74)  |
| 環境都市工学科 | 40  | 200  | 40 (9)  | 42 (11) | 40 (10) | 32 (6)  | 36 (9)  | 190 (45)  |
| 合 計     | 200 | 1000 | 203(30) | 198(30) | 214(32) | 194(30) | 169(37) | 1005(159) |

( ) 内は女子で内数

### <専攻科>

| 専 攻        | 1 年    | 2 年    | 総 計     |
|------------|--------|--------|---------|
| 生産システム工学専攻 | 14 (1) | 14 (1) | 28 (2)  |
| 環境システム工学専攻 | 13 (8) | 16 (3) | 29 (11) |
| 計          | 27 (9) | 30 (4) | 57 (13) |

( ) 内は女子で内数

## 7. 平成22年度入学者選抜中学校別志願者数等一覧

| 中学校名    | 推薦選抜合格者 |   |    |   |   |   | 学力選抜合格者 |   |    |   |   |   | 合格者計 |   |    |   |    |   |
|---------|---------|---|----|---|---|---|---------|---|----|---|---|---|------|---|----|---|----|---|
|         | M       | E | EI | C | B | 計 | M       | E | EI | C | B | 計 | M    | E | EI | C | B  | 計 |
| 橋立中学校   |         | 1 |    |   |   | 1 |         |   |    |   |   |   | 1    |   |    |   |    | 1 |
| 東和中学校   |         |   |    |   |   |   |         |   |    |   |   |   | 2    | 1 |    |   |    | 3 |
| 明倫中学校   |         | 1 |    | 1 |   |   | 2       |   |    |   |   | 2 | 2    |   |    |   | 2  |   |
| 光陽中学校   |         |   |    |   |   |   | 2       |   |    |   |   | 2 | 2    |   |    |   | 2  |   |
| 明道中学校   |         |   |    |   |   |   |         |   |    | 1 | 1 | 2 |      |   |    | 1 | 1  | 2 |
| 進明中学校   |         |   | 1  | 1 | 1 |   |         |   | 1  | 1 | 3 | 1 |      |   |    | 1 | 2  | 4 |
| 成和中学校   | 1       |   |    |   | 1 |   | 1       | 3 | 2  | 1 | 7 | 1 | 1    | 3 | 2  | 1 | 8  |   |
| 安居中学校   |         |   |    |   |   |   | 1       |   |    |   | 1 |   |      | 1 |    |   | 1  |   |
| 大安寺中学校  |         |   |    |   |   |   |         |   |    |   |   |   |      |   |    |   |    |   |
| 至民中学校   |         | 1 |    | 1 |   |   | 1       |   |    |   | 2 | 1 |      | 2 |    |   | 3  |   |
| 灯明寺中学校  |         |   |    |   |   |   |         |   |    | 1 | 1 |   |      |   |    | 1 | 1  |   |
| 足羽中学校   |         |   |    |   |   |   | 1       | 1 |    |   | 1 | 3 | 1    | 1 |    |   | 1  | 3 |
| 川西中学校   |         |   |    |   |   |   | 1       |   |    |   | 1 | 1 |      |   |    |   |    | 1 |
| 森田中学校   |         |   | 1  | 1 |   |   |         |   | 1  | 1 |   | 2 |      |   | 1  | 1 | 1  | 3 |
| 気比中学校   |         | 1 |    |   | 4 |   |         | 1 | 1  |   | 6 | 4 | 1    | 1 | 1  |   |    | 7 |
| 松陵中学校   | 1       |   |    |   | 1 |   | 1       |   |    |   | 1 | 1 | 1    |   |    |   |    | 2 |
| 角鹿中学校   |         | 1 |    |   | 1 |   |         | 1 |    |   | 1 |   | 1    | 1 |    |   |    | 2 |
| 栗野中学校   | 1       | 1 | 1  |   | 4 |   |         | 1 |    | 1 | 2 | 1 | 1    | 2 |    |   | 2  | 6 |
| 東浦中学校   |         |   |    |   |   |   |         |   |    |   |   |   |      |   |    |   |    |   |
| 武生第一中学校 |         |   | 2  | 2 |   | 1 |         |   | 1  | 2 | 4 | 1 |      |   | 3  | 2 | 6  |   |
| 武生第二中学校 |         |   |    |   |   | 2 |         |   |    | 1 | 3 | 2 |      |   |    | 1 |    | 3 |
| 武生第三中学校 |         | 1 | 1  | 1 | 3 |   |         | 1 | 2  | 2 | 5 |   |      | 2 | 3  | 3 |    | 8 |
| 武生第六中学校 | 3       | 1 | 1  |   | 5 |   | 1       |   |    |   | 1 | 3 | 1    | 1 | 1  |   |    | 6 |
| 武生第五中学校 | 2       |   |    |   | 2 |   |         |   |    |   | 2 |   |      |   |    |   |    | 2 |
| 万葉中学校   |         | 1 |    | 2 | 1 | 4 |         | 2 | 3  | 1 | 6 |   | 3    | 3 | 3  | 1 | 10 |   |
| 小浜第二中学校 |         |   |    |   |   |   |         | 1 |    |   | 1 |   | 1    |   |    |   |    | 1 |
| 尚徳中学校   |         | 1 |    |   |   | 1 |         |   |    |   |   |   | 1    |   |    |   |    | 1 |
| 勝山北部中学校 |         |   | 1  | 1 |   | 2 |         |   |    |   |   |   | 1    | 1 |    |   |    | 2 |
| 鯖江中学校   |         |   |    |   | 1 | 1 | 1       |   |    | 1 | 3 | 5 | 1    |   |    | 1 | 4  | 6 |
| 中央中学校   | 1       |   |    |   | 2 | 3 | 2       | 1 | 1  |   | 4 | 3 | 1    | 1 |    | 2 |    | 7 |
| 足羽第一中学校 |         | 1 |    |   | 1 | 2 |         |   |    | 1 | 1 | 2 |      | 1 |    | 1 | 2  | 4 |
| 美山中学校   |         |   |    |   |   | 1 | 1       |   |    |   |   |   |      |   |    | 1 |    | 1 |
| 松岡中学校   |         | 1 | 1  |   | 2 | 2 |         |   | 1  | 1 | 4 | 2 |      | 1 | 2  | 1 |    | 6 |
| 永平寺中学校  |         |   | 1  |   | 1 |   |         |   |    |   |   |   |      |   | 1  |   | 1  |   |
| 上志比中学校  |         |   |    |   |   |   |         |   |    |   |   |   |      |   |    |   |    |   |
| 三国中学校   |         |   | 1  | 1 | 2 | 1 |         | 1 |    | 4 | 2 | 1 |      | 1 | 1  | 1 |    | 5 |
| 芦原中学校   |         |   |    |   |   | 1 |         |   |    | 1 | 1 |   |      |   |    |   |    | 1 |
| 金津中学校   | 1       |   |    |   | 1 |   |         |   | 1  | 1 | 1 |   |      |   | 1  | 2 |    |   |
| 坂井中学校   |         |   |    |   |   |   |         | 1 |    | 1 |   |   |      | 1 |    |   |    | 1 |
| 丸岡中学校   |         | 1 | 1  | 1 | 3 | 1 | 1       |   | 1  | 1 | 4 | 1 | 2    |   | 2  | 2 |    | 7 |
| 春江中学校   |         | 3 |    |   | 3 |   | 1       | 1 | 1  | 1 | 4 |   | 4    | 1 | 1  | 1 |    | 7 |
| 丸岡南中学校  |         |   | 1  |   | 1 |   |         |   |    |   |   |   |      |   | 1  |   |    | 1 |
| 南越中学校   |         | 2 | 2  | 2 | 6 | 1 |         |   |    | 1 | 1 | 2 | 2    | 2 |    |   |    | 7 |
| 宮崎中学校   |         |   |    |   |   |   |         | 1 |    |   | 1 |   | 1    |   |    |   |    | 1 |
| 朝日中学校   |         | 1 | 2  | 1 | 4 |   | 1       | 1 |    |   | 2 | 2 | 3    | 1 |    |   |    | 6 |
| 越廻中学校   |         |   | 1  |   | 1 |   |         |   |    |   |   |   | 1    |   |    |   |    | 1 |
| 織田中学校   |         |   |    | 1 | 1 |   | 1       |   |    | 1 |   | 1 |      |   | 1  | 2 |    |   |
| 清水中学校   |         | 1 |    |   | 2 |   | 1       |   |    | 1 |   | 2 |      |   | 1  | 3 |    |   |
| 南条中学校   |         |   |    |   |   | 1 |         |   |    | 1 | 1 |   |      |   |    |   |    | 1 |
| 今庄中学校   |         |   | 1  |   | 1 | 1 |         | 1 | 2  | 1 | 5 | 1 |      | 2 | 2  | 1 |    | 6 |
| 三方中学校   |         |   |    |   |   |   |         |   |    |   |   |   |      |   |    |   |    |   |
| 上中中学校   |         |   |    |   | 1 | 1 |         |   |    |   |   |   |      |   | 1  | 1 |    |   |
| 勝山南部中学校 | 1       |   |    |   | 1 |   |         |   |    |   |   | 1 |      |   |    |   |    | 1 |
| 開成中学校   |         | 1 |    |   |   | 1 | 2       |   |    | 3 |   | 2 | 2    |   |    |   |    | 4 |
| 陽明中学校   |         |   |    |   |   |   |         |   |    |   |   |   |      |   |    |   |    |   |
| 越前中学校   |         |   | 1  | 1 |   |   |         |   |    |   |   |   |      |   | 1  | 1 |    |   |
| 池田中学校   |         |   |    |   |   |   |         |   |    |   |   |   |      |   |    |   |    |   |
| 美浜中学校   |         |   |    |   |   |   |         | 1 |    |   | 1 |   |      | 1 |    |   |    | 1 |
| 大東中学校   |         |   |    |   | 1 | 1 |         |   | 1  | 2 | 3 |   |      | 1 | 2  | 1 |    | 4 |

## 7. 平成22年度入学者選抜中学校別志願者数等一覧

| 中学校名         | 推薦選抜合格者 |    |    |    |    |    | 学力選抜合格者 |    |    |    |    |     | 合格者計 |    |    |    |    |     |
|--------------|---------|----|----|----|----|----|---------|----|----|----|----|-----|------|----|----|----|----|-----|
|              | M       | E  | EI | C  | B  | 計  | M       | E  | EI | C  | B  | 計   | M    | E  | EI | C  | B  | 計   |
| 東陽中学校        |         |    |    |    |    | 1  |         |    |    |    |    | 1   | 1    |    |    |    |    | 1   |
| 藤島中学校        |         |    | 2  | 1  |    | 3  |         |    |    |    |    |     |      | 2  | 1  |    |    | 3   |
| 社中学校         | 1       | 1  | 2  |    |    | 4  |         |    | 2  |    |    | 2   | 3    | 1  | 2  |    |    | 6   |
| かつやま子どもの村中学校 |         |    |    | 1  | 1  |    |         |    |    |    |    |     |      |    |    | 1  | 1  |     |
| 高浜中学校(愛知県)   |         |    |    |    |    |    |         |    |    |    |    |     |      |    |    |    |    |     |
| 桑原中学校        | 1       |    |    |    |    | 1  |         |    |    |    |    |     | 1    |    |    |    |    | 1   |
| 仰木中学校        |         |    |    |    |    |    | 1       |    |    |    |    | 1   | 1    |    |    |    |    | 1   |
| 彦根南中学校       |         |    |    |    |    |    |         |    | 1  | 1  |    |     |      |    |    | 1  | 1  |     |
| 彦根中学校        |         |    |    |    |    |    |         |    |    |    |    |     |      |    |    |    |    |     |
| 高穂中学校        | 1       |    |    |    |    | 1  |         |    |    |    |    |     | 1    |    |    |    |    | 1   |
| 志賀中学校        |         |    |    |    |    |    |         |    |    |    |    |     |      |    |    |    |    |     |
| 栗東西中学校       |         |    |    |    |    |    | 1       |    |    |    |    | 1   | 1    |    |    |    |    | 1   |
| 野洲北中学校       | 1       |    |    |    |    | 1  |         |    |    |    |    |     | 1    |    |    |    |    | 1   |
| 日野中学校        |         |    | 1  |    |    | 1  |         |    |    |    |    |     |      | 1  |    |    |    | 1   |
| 湖東中学校        | 1       |    |    |    |    | 1  |         |    |    |    |    |     | 1    |    |    |    |    | 1   |
| 秦荘中学校        |         |    |    |    |    |    |         | 1  |    | 1  |    |     |      |    | 1  |    |    | 1   |
| 浅井中学校        |         |    |    |    |    |    |         |    | 1  | 1  |    |     |      |    |    | 1  | 1  |     |
| 木之本中学校       |         |    |    |    |    |    | 1       |    |    |    |    | 1   | 1    |    |    |    |    | 1   |
| マキノ中学校       |         | 1  |    |    |    | 1  |         |    |    |    |    |     |      |    | 1  |    |    | 1   |
| 今津中学校        |         |    | 1  |    |    | 1  |         |    |    |    |    |     |      |    |    | 1  |    | 1   |
| 朽木中学校        |         |    |    |    |    |    |         |    | 1  |    | 1  |     |      |    |    | 1  |    | 1   |
| 岡本中学校(神奈川県)  |         |    |    |    |    |    |         |    |    |    |    |     |      |    |    |    |    |     |
| 合計           | 15      | 17 | 18 | 18 | 18 | 86 | 26      | 23 | 22 | 22 | 22 | 115 | 41   | 40 | 40 | 40 | 40 | 201 |
| 男            | 15      | 15 | 14 | 10 | 14 | 68 | 25      | 22 | 21 | 18 | 17 | 103 | 40   | 37 | 35 | 28 | 31 | 171 |
| 女            | 0       | 2  | 4  | 8  | 4  | 18 | 1       | 1  | 1  | 4  | 5  | 12  | 1    | 3  | 5  | 12 | 9  | 30  |

## V. 進路指導関係

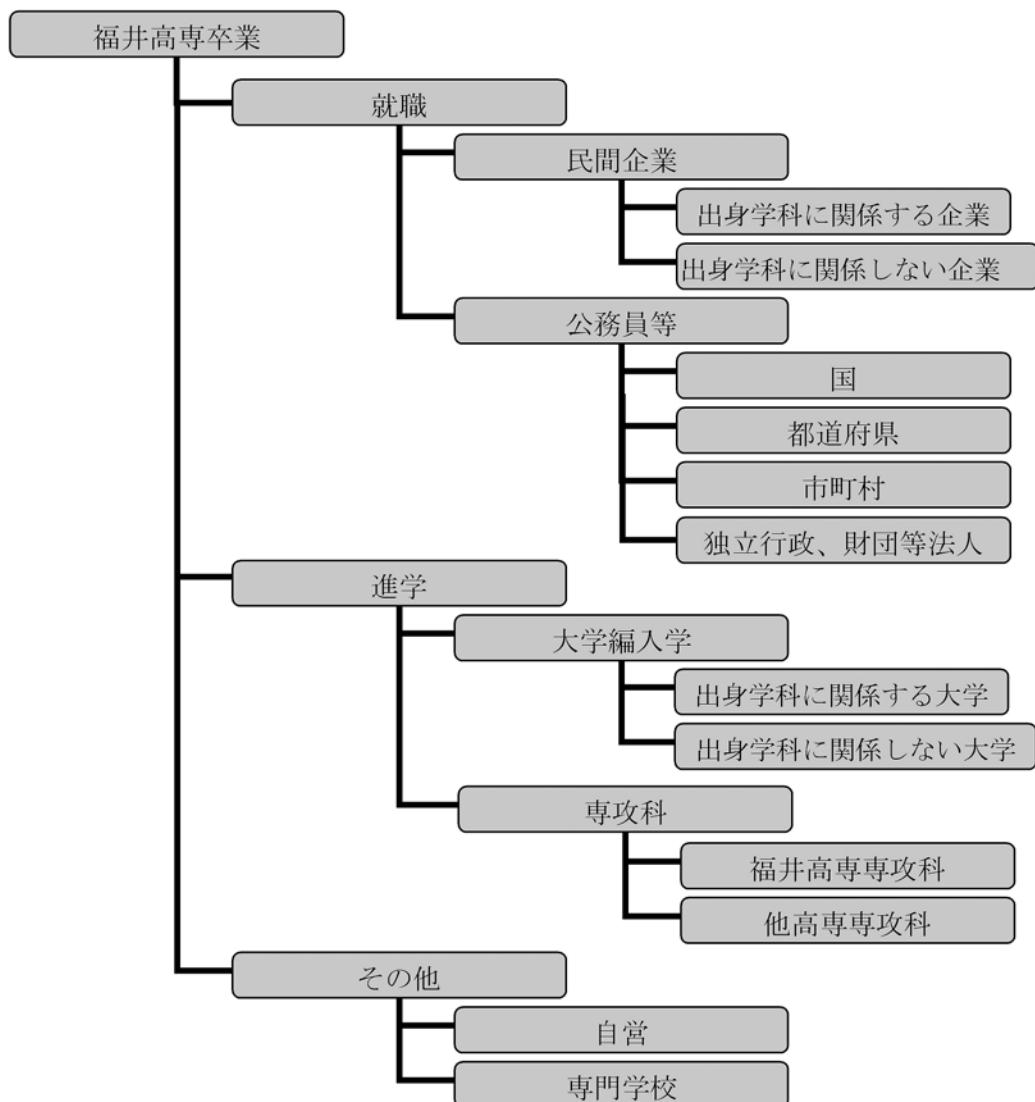
### 1. 基本方針

高等専門学校は設置以来、卒業生の産業界での活躍もあり、求人倍率が高倍率を続けてきた。また、高学歴社会を望む社会の風潮から大学編入を求める時期もあったが、近年は価値観の多様化によって学生は就職、大学編入、専門学校などへと幅広い選択をするようになって来た。本校では、将来技術者として活躍を期待される学生の重要な決定事項である進路について、進路指導委員会と各学科が綿密な連絡をとりながら学生の指導に当たっている。

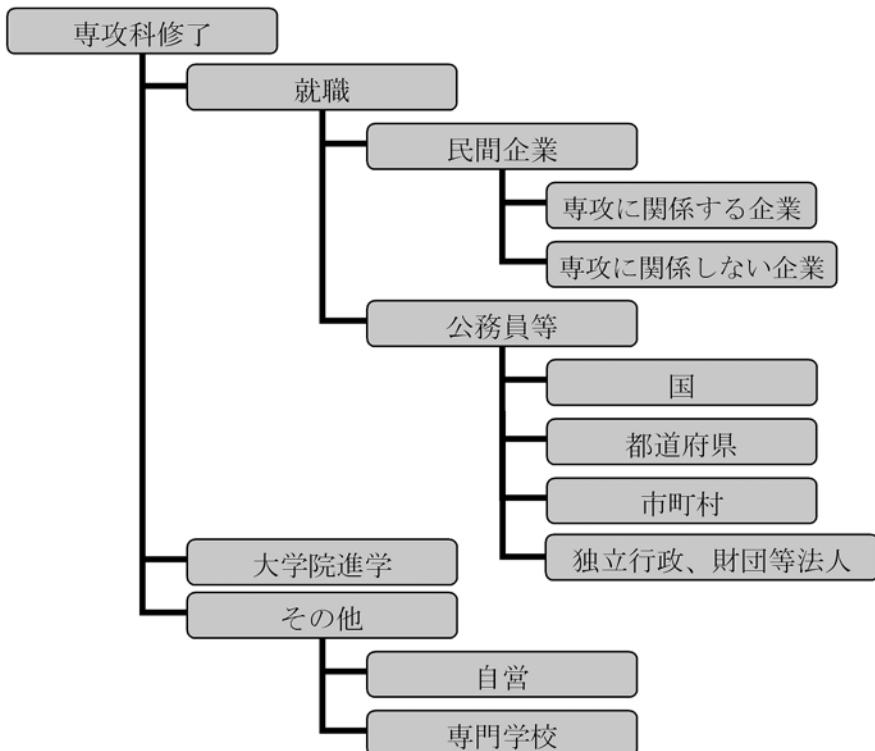
### 2. 本校卒業後・修了後の進路

本科生および専攻科生の進路を下図に示す。

(本科生の場合)



(専攻科生の場合)



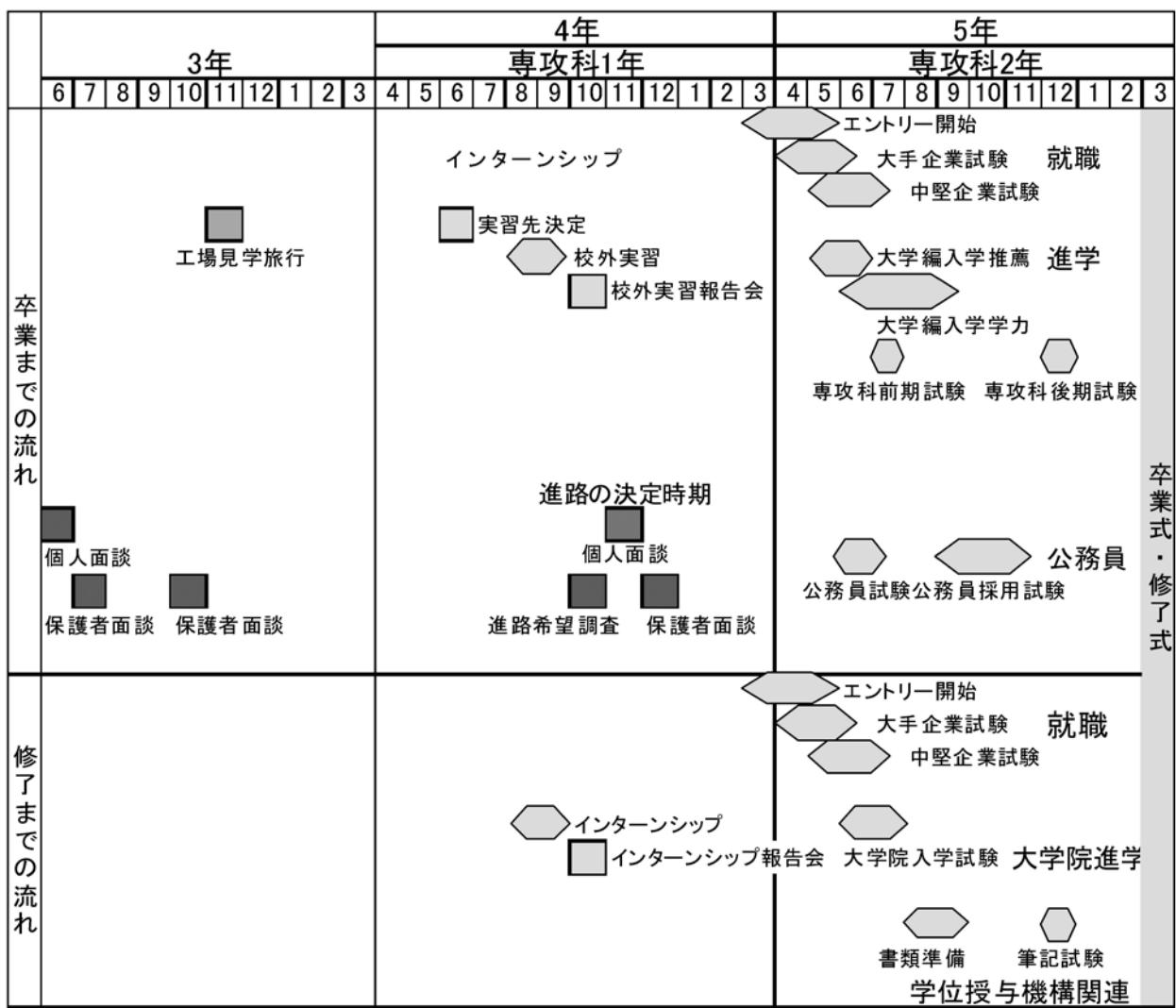
最近は専攻科の設置や大学の編入生受け入れ数の増加などによって、進学を希望する学生数が増える傾向にある。平成22年度卒業予定の本科生の場合、就職者と進学者の比率はおよそ50:50である。また、雇用情勢の悪化にも係わらず、就職を希望する学生に対する求人倍率は本科については約2.3倍、専攻科については約2.9倍を確保しており、平成23年1月末現在、進学予定者を含めた進路内定率は約98%となっている。なお価値観の多様化によって、出身学科にそれほど関係しない企業や大学へ進むことを希望する学生もいる。

### 3. 進路決定の流れ

就職に関しては、本科4年、専攻科1年の3月には全国規模の大手企業の就職活動が始まる。環境系では、公務員試験を受ける学生も多いが、専攻科2年で受検できる公務員試験は、国家I種、国家II種、福井県I種、市町村などである。本科5年で受検できるものは、国家II種、国家III種、福井県II種、市町村などである。また消防官、警察官や防衛省、気象庁、海上保安庁などの職員採用試験がある他、独立行政法人や財団法人と呼ばれる公務員に準じた進路もある。

進学に関しては、本科では5月下旬頃から推薦選抜による編入学試験が、また6月からは学力選抜による編入学試験が始まる。専攻科生に対する大学院の入試は、6月頃から始まる。

以上のような就職・進学について、学生に対してタイムテーブルで示したものが下表である。



## 4. 進学・就職先一覧

(平成21年度)

平成21年12月末日現在

| 機械工学科         | 電気電子工学科       | 電子情報工学科           | 物質工学科         | 環境都市工学科       | 専攻科           | 生産システム | 環境システム |
|---------------|---------------|-------------------|---------------|---------------|---------------|--------|--------|
| 進学(13名)       | 進学(16名)       | 進学(18名)           | 進学(20名)       | 進学(16名)       | 進学(13名)       | (8)(5) |        |
| 福井工業高等専門学校専攻科 | 福井工業高等専門学校専攻科 | 福井工業高等専門学校専攻科     | 福井工業高等専門学校専攻科 | 福井工業高等専門学校専攻科 | 金沢工業大学学院      | 3      | 2      |
| 東京大学          | 長岡技術科学大学      | 筑波大学              | 筑波大学          | 長岡技術科学大学      | 北陸先端科学技術大学院大学 | 1      | 2      |
| 筑波大学          | 富山大学          | お茶の水女子女子大学        | 長岡技術科学大学      | 信州大学          | 福井工业大学学院      | 1      |        |
| 金沢大学          | 豊橋技術科学大学      | 茨城大学              | 福井大学          | 金沢大学          | 豊橋技術科学大学学院    | 1      | 1      |
| 福井大学          | 静岡大学          | 金沢大学              | 豊橋技術科学大学      | 福井大学          | 奈良先端科学技術大学院大学 | 2      |        |
| 豊橋技術科学大学      | 4             | 福井大学              | 広島大学          | 豊橋技術科学大学      |               |        |        |
|               |               | 豊橋技術科学大学          | 徳島文理大学        | 岐阜県立大学        |               |        |        |
|               |               | 岐阜大学              | 1             |               |               |        |        |
|               |               | 神戸大学              | 1             |               |               |        |        |
|               |               | 和歌山大学             | 2             |               |               |        |        |
|               |               | 九州大学              | 1             |               |               |        |        |
| 就職(17名)       | 就職(20名)       | 就職(12名)           | 就職(12名)       | 就職(18名)       | 就職(17名)       | (8)(9) |        |
| ●県内<7名>       | ●県内<7名>       | ●県内<6名>           | ●県内<6名>       | ●県内<10名>      | ●県内<7名>       | (3)(4) |        |
| ㈱アタゴ          | ㈱サカイエルコム      | ㈱サイエンスクラフト        | ウラセ㈱          | ㈱ヰミコン         | オリオン電機㈱       | 2      |        |
| ㈱コバード         | 酒井化学工業㈱       | ㈱サカイエルコム          | ㈱カズマ          | ㈱構造設計研究所      | 小林化工㈱         | 1      |        |
| ㈱二和商会         | ダイヨー電力㈱       | ㈱サンワコン            | 酒井化学工業㈱       | 坂井市役所         | セキサンビーシー㈱     | 1      |        |
| 社会福祉法人光道園     | 高崎技術研修        | 1                 | 東京セロレバール㈱     | 坂川建設㈱         | ㈱田中化学研究所      | 1      |        |
| 信越化学工業㈱       | 1             | ㈱メディカルジャパン        | 2             | ㈱鶴江市役所        | ㈱チユラスタイル      | 1      |        |
| 東芝シャッター㈱      | 福井三菱電機器販売㈱    | 1                 | 森永乳業㈱         | ㈱開銀組          | ㈱辻広組          | 1      |        |
| ㈱ミック          | 森永北陸乳業㈱       | 1                 |               | ㈱辻広組          | 1             |        |        |
|               |               |                   |               | ㈱福間           | 1             |        |        |
|               |               |                   |               | ホクコンマテリアル㈱    | 1             |        |        |
|               |               |                   |               | 西田建設㈱         | 1             |        |        |
| ●県外<10名>      | ●県外<13名>      | ●県外<6名>           | ●県外<6名>       | ●県外<8名>       | ●県外<10名>      | (5)(5) |        |
| 小島プロス工業㈱      | ㈱アトックス        | アドソル日進㈱           | 旭化成㈱          | NTTインフラネット㈱   | オムロイ㈱         | 1      |        |
| ㈱カムラサイクル      | ㈱柿本商会         | ㈱NBBメディアテクノロジー    | 川研ファインケミカル㈱   | 京都府市役所        | ㈱柿本商会         | 1      |        |
| 京セラ㈱滋賀生産工場    | 関西電力㈱         | 京セラコミュニケーションシステム㈱ | 関西電力㈱         | ㈱桑原           | ㈱極東技工コンサルタント  | 1      |        |
| 大同工業㈱         | ㈱きんでん         | 日新電機㈱             | 東洋製罐㈱         | 中部電力㈱         | ㈱原子エングニアリング   | 1      |        |
| 東日本旅客鉄道㈱      | ㈱ダイヘン         | 日本車輪製造㈱           | 日本車輪製造㈱       | 富士通㈱          | 塩野イネス㈱        | 1      |        |
| ㈱スマッシュ・ブリント   | 中部電力㈱         | ㈱プログラミングファスト      | 日本ユニカー㈱       | 独立行政法人水資源機構   | スガイ化学工業㈱      | 1      |        |
| 兵神装備㈱         | ㈱豊田自動織機       | 1                 |               | ㈱森本組          | 大鉄工業㈱         | 1      |        |
| 三菱重工業㈱長崎造船所   | 日本原子力発電㈱      | 1                 |               | 東京電力㈱         | 1             |        |        |
| ㈱森精機製作所       | 日本車輪製造㈱       | 1                 |               | 北陸通信工業㈱       | 1             |        |        |
| ㈱古野工業所        | ㈱フジクラ         | 1                 |               | ㈱リクルートスタッフィング | 1             |        |        |
|               | 北陸電力㈱         | 1                 |               |               |               |        |        |
|               | ㈱リコー          | 1                 |               |               |               |        |        |
|               | リコータノシステムズ㈱   | 1                 | その他(1名)       | 大阪府立情報専門学校    | 1             |        |        |

(平成22年度)

| 進学・就職先一覧(平成23年3月卒業・修了予定者) |               |                 |               |               |                    | 平成23年1月25日現在 |      |
|---------------------------|---------------|-----------------|---------------|---------------|--------------------|--------------|------|
| 機械工学科                     | 電気電子工学科       | 電子情報工学科         | 物質工学科         | 環境都市工学科       | 専攻科                | 生産環境         | 生産環境 |
| 進学(20名)                   | 進学(14名)       | 進学(22名)         | 進学(15名)       | 進学(14名)       | 進学(3名)             | (1)(1)       |      |
| 福井工業高等専門学校専攻科             | 福井工業高等専門学校専攻科 | 福井工業高等専門学校専攻科   | 福井工業高等専門学校専攻科 | 福井工業高等専門学校専攻科 | 岐阜大学学院             | 1            |      |
| 北海道大学                     | 長岡技術科学大学      | 筑波大学            | 長岡技術科学大学      | 北陸大学          | 奈良先端科学技術大学院大学      | 1            | 1    |
| 秋田大学                      | 筑波大学          | 東京農工大学          | 筑波大学          | 千葉大学          | 長岡技術科学大学           | 1            |      |
| 長岡技術科学大学                  | 東京工業大学        | 金沢大学            | 福井大学          | 金沢大学          | 金沢大学               | 1            |      |
| 富山大学                      | 福井大学          | 大坂大学            | 大坂大学          | 大坂大学          | 大坂大学               | 3            |      |
| 金沢大学                      | 岐阜大学          | 大坂大学            | 金沢技術科学大学      | 岡山大学          | 金沢技術科学大学           | 1            |      |
| 福井大学                      | 名古屋大学         | 豊橋技術科学大学        | 岡山大学          | 豊橋技術科学大学      | 1                  |              |      |
| 豊橋技術科学大学                  | 豊橋技術科学大学      | 和歌山大学           | 九州大学          | 三重大学          | 和歌山大学              | 1            |      |
| 岐阜大学                      | 大坂大学          | 1               | 1             | 和歌山大学         | 1                  |              |      |
| 就職(23名)                   | 就職(25名)       | 就職(16名)         | 就職(19名)       | 就職(20名)       | 就職(24名)            | (12)(12)     |      |
| ●県内<4名>                   | ●県内<8名>       | ●県内<6名>         | ●県内<6名>       | ●県内<9名>       | ●県内<12名>           | (8)(11)      |      |
| ㈱フクタカ                     | 越前ボリマーホ       | アスリ電機㈱          | オフレム㈱         | オフレム㈱         | アティック㈱             | 1            |      |
| (㈲吉中精工                    | ㈱サカイエルコム      | ㈱永和システムマネジメント   | ㈲活躍衆㈱         | ジビテク調査設計㈱     | ㈱原歯物工業㈱            | 1            |      |
| ㈱リード・福井事業所                | 信越化学工業㈱       | ㈱サカイエルコム        | 高津技術サービス㈱     | 高崎建設㈱         | ウラセ㈱               | 1            |      |
| レンゴー㈱金津事業所                | ㈱高崎商事         | 1               | 日新化学㈱         | ㈱高野屋          | 共用コンピュータ㈱          | 1            |      |
|                           | 日本電産㈱バウラ㈱     | 松文産業㈱           | 2             | 日新化学㈱         | 坂井市                | 1            |      |
|                           | 1             | 1               | 1             | 1             | 坂井市                | 1            |      |
|                           |               |                 |               | 日本電産シバウラ㈱     | 坂井建設㈱              | 1            |      |
|                           |               |                 |               | 紳西村組          | 朝日ダイエイ             | 1            |      |
|                           |               |                 |               | 福井県           | 朝ナンバーフォー           | 1            |      |
|                           |               |                 |               | plus          | ハツニコシショウコニクタクシマヨヒセ | 1            | 1    |
|                           |               |                 |               | 1             | 朝ビジュアルソフト          | 1            |      |
|                           |               |                 |               |               | 福井県                | 1            |      |
| ●県外<19名>                  | ●県外<17名>      | ●県外<10名>        | ●県外<14名>      | ●県外<11名>      | 福井県警察              | 1            |      |
| アイシン精機㈱                   | ㈱アトックス        | 大坂ガス㈱           | 大坂シリシング印刷㈱    | ㈱エム・テック       | 福井市                | 1            |      |
| 関西電力㈱                     | 出光興産㈱         | 東セコミニケーションシステム㈱ | 京セラ㈱          | 関西電力㈱         | 福井石油備蓄㈱            | 1            |      |
| ㈱シゼツ                      | オムロン㈱         | ㈱jig.jp         | 第一工業製革㈱       | 独立行政法人国際印刷局   | フクビ化学工業㈱           | 1            |      |
| 京セラ㈱滋賀生産工場                | 関西電力㈱         | ㈱ダイヘン           | ダイキン工業㈱       | 大坂工業㈱         | ㈱ミルコン              | 1            |      |
| 小島プロレス工業㈱                 | 中部電力㈱         | 1               | 中外製薬工業㈱       | 中部電力㈱         | ●県外<2名>            | (6)(1)       |      |
| ㈱ジャパンエナジー・如意製油所           | 中部電力㈱         | 1               | 中澤田中央研究所      | 東邦旅客鉄道㈱       | ㈱アトックス             | 1            |      |
| 住友化学㈱千葉工場                 | 日東電工㈱         | 日本電産㈱           | 東洋インキ製造㈱      | 東京水サービス㈱      | ㈱ニッティ・ディ・オオメイト     | 1            |      |
| 住友精工㈱                     | 日本原子力発電㈱      | 2               | 日本原子力発電㈱      | 東邦ガス㈱         | 京都電子計算㈱            | 1            |      |
| ㈱高木製作所                    | 北陸電力㈱         | 2               | 三慶電機㈱神戸製作所    | 日本貨物鉄道㈱       | 中外製薬工業㈱            | 1            |      |
| 東海交通機械㈱                   | (財)北陸電気保安協会   | 2               | 向洋電機㈱         | 日本電産㈱         | ㈱西島製作所             | 1            |      |
| 東海汽船㈱                     | 三慶電機㈱神戸製作所    | 1               | 日本電産㈱         | 日本車輌製造㈱       | 兵神装備㈱              | 1            |      |
| 東京電力㈱                     | ㈱吉野工業所        | 1               | ニチカ㈱          | ㈱吹上技研コンサルタント  | ヨシダ印刷㈱             | 1            |      |
| 日本車輌製造㈱                   | レンゴー㈱         | 2               | 理研ビタミン㈱       | 1             | ヨシダ印刷㈱             | 1            |      |
| ㈱日本船㈱                     | 1             | ㈱わわか生活          | 1             |               |                    |              |      |
| ㈱日本建築模型テニラ                | 1             |                 |               |               |                    |              |      |
| ビューテック㈱                   | 1             |                 |               |               |                    |              |      |
| 三慶電機㈱の社形制御事業本部及び研究所       | 1             |                 |               |               |                    |              |      |
| ユニチカ㈱                     | その他(2名)       | その他(2名)         | その他(2名)       | その他(2名)       | 福井工業高等専門学校研究生      | 1            |      |
| ㈱リコー・津製作所                 | 福井工業高等専門学校研究生 | 1               | その他(専門学校予定)   | その他(専門学校予定)   | その他の専門学校予定         | 1            |      |

## VI. 学生指導関係

### 1. 基本方針

学生指導に関し、高専の教育システムで最も重要なのは、学生・保護者との信頼関係を礎に、学生の個性を尊重しつつ実社会に適した知育および德育を教授することであり、その重要な柱として担任制度が設けられている。本科の5年間は高校1年から短大卒業までの幅広い年齢に相当するが、高い目標を持った、一貫した教育・指導という見地で、入学時から学生と呼び、早期から自立した責任ある行動をとるよう指導している。そのため入学当初の学齢では通常の高校と比較するとやや緩やかな学則ではあるが、同時に20才の卒業時点まで担任制度によるきめ細やかなサポートを行い、社会的責任を自覚した実社会で通用する卒業生を育てる努力をしている。この高専独自の5年一貫の担任制度による指導体制は、高専卒業生が社会から評価を受け、高い求人倍率を誇っている大きな理由の一つであり、今後も継続し充実させてゆくことが肝要であると考える。

担任の業務は多岐にわたり、例えば、学生生活全般の指導（友人関係、生活・行動の把握（欠課、欠席の点検）、各種届け出の指導等）、学業成績・悩み等についての個別相談、さらに学年に応じた学校行事の指導・企画・引率等あげられる。行事としての具体例は、遠足・体育祭・高専祭・弁論大会（1～5年）、特別活動（1～3年）、オリエンテーション（1年）、校外研修（2年）、工場見学旅行（3年）、インターンシップ（4年）、卒業研報告表会（5年）などが挙げられる。

また、全学年で保護者懇談会を実施して家庭との意思疎通を図り、特に高学年では進路（就職と進学）指導を進路指導室と連携しながら丁寧に行っている。

クラス担任は、1、2年を一般科目教室教員、3～5年を各専門学科の教員が担当し、担任補佐（3年は一般科目教室教員）が支援する形式をとっている。しかし、従前はシステム上学科単位で運営されることが多く、各学年の横の連携が弱いことが指摘されていた。そこで平成16年度に、進路指導を強化する目的で高学年に学年主任制度を導入し、キャリア教育の充実を含め学生ケアの充実を図っている。また、続く平成17年度には、第1学年に混合学級制度を取り入れ、学科間の垣根を越えた交流の素地を作ることで、ヒューマンスキルの形成に学科という縦の関係だけでなく横の膨らみを持たせる工夫を行った。

次に、多感な青年期にあたる学生の人格形成に大きな影響を与えるのが課外活動である。本校の教育方針の中に、「健康の増進につとめ、身体的・精神的に強じんな耐久力を育成する」と謳っており、技術者として健康的に活動し、また、協調性やコミュニケーション能力を習得するためにも課外活動は重要な位置を占めるものと考えられ、その活性化策を検討していく必要がある。元来、高専制度には、高校から大学への受験戦争がなく、5年間のびのびと課外活動に打ち込めるという利点があり、これを生かした体験型の学習体制づくりが肝要であるが、本校では体育系・文化系において多数のクラブが活発に活動している。本年度においては、テニスクラブが全国高専大会で2年連続の優勝を果たし、サッカー、男子バレーが地区優勝を勝ち取っている。

また、本校には学生全員によって構成される学生会があり、学生会役員が中心となり、体育祭、高専祭、弁論大会、壮行会、クラブ紹介等の学校行事やクリーン大作戦、献血等のボランティア活動などを自主的に企画・運営している。ここでは学生会役員会およびクラブ予算の決定を行う学生総会等が運営機関として設けられ、広報活動としての学生会誌の発行も行っている。学生会の活動に参加することにより、協調性、自主性、リーダーシップや企画力などが育成されることから、クラブ活動と同様に学生会活動も継続して支援していく必要がある。

さらに、本校では、実際に体を動かして経験の中から生きた知識を習得する「体験型ものづくり教育」を推進し、これらに関連するコンテストへの参加を積極的に奨励している。全高専が参加し、全国大会が催されるロボットコンテスト（ロボコン）、プログラミングコンテスト（プロコン）、デザインコンペティション（デザコン）の他に、Robo-ONE、パソコン甲子園、ふくいソフトコンペ等の大会に参加している。特に、ロボコンは過去2回ロボコン大賞を受賞、本年も地区大会で活躍し、11年連続で全国大会に出場するなど成果を上げている。これを支援するために、平成18年4月に夢づくり工房（ドリームラボ）という名称の「ものづくり多目的スペース」を実習工場内に新設し、ロボット製作に適した作業環境を整備している。

また、平成16年度から独立行政法人化されたことにより開始された中期計画において、以下の項目にも力点を置いた取り組みを開始している。

(1) 課外活動の安全管理の強化

- ・ クラブ活動の安全管理を主とした指導マニュアルの作成
- ・ 危険箇所調査と安全面を重視した施設環境の整備
- ・ クラブ活動の安全管理に関する講習会、並びに救命救急法講習会の実施

(2) メンタルヘルス関連への対応強化

- ・ 全学生対象のメンタルヘルス関連アンケートの実施
- ・ 全教職員対象のメンタルヘルス・関連FDの実施および報告書作成

(3) ボランティア活動の奨励

- ・ 学生会が主体となったクリーン大作戦の実施
- ・ 福井県ボランティア体験事業への参加（サイエンス夢ボランティア）
- ・ 福井豪雨ボランティア等、安全が確保されている場合の緊急支援
- ・ 出前講座などへの講師補助としての積極参加
- ・ 越前菊花マラソンへの身障者支援ボランティア参加

加えて、平成19年度から本校地域連携テクノセンター内に設置されたアントレプレナーサポートセンターを活用し、本校で習得した知識や技術、アイディアを経済社会の中で生かすための教育（起業家育成教育）を始めた。この取り組みは、平成19年度の文部科学省現代GPにも選ばれ注目されているところであるが、これから的学生にとって、前述の「ものづくり教育」と一体となり貴重な経験をすることが出来るように努力を行っている。

学生達の健康を護り、学習機会を保証するために、平成20年度より22年度いっぱい、麻疹の対策を徹底して実施している。その結果、現在組織としての麻疹耐性率（十分量の抗体を持つか、あるいはワクチンを接種したもの）が学生・教職員を含めた学校組織として95%を越え、疫学的に麻疹の連鎖感染リスクを払拭できたことは大きいと考えられる。加えて昨年は新型インフルエンザに苦しめられたが、校長を中心に危機管理体制を強化し、発生初期より様々な対策を講じて蔓延防止に努めた。また、教職員に対してはインフルエンザの予防接種を推奨し、感染リスクの低減の努力を行っている。

以上のように、担任制度の充実を図り、クラブ活動・学生会活動・ものづくり関連コンテスト等の課外活動を奨励し、健康管理・安全管理およびメンタルヘルス関連の強化やボランティア活動への新たな取り組みを開始することにより、5年一貫教育の利点を生かした人格形成の人間教育を実践している。

## 2. 学生の活動状況

- (1) 新入生オリエンテーション合宿  
平成22年4月14日（水）・15日（木） 奥越高原青少年自然の家で実施
- (2) 新入生歓迎会・クラブ紹介  
平成22年4月16日（金）
- (3) 学生総会  
平成22年4月21日（水）
- (4) 第46回体育祭  
平成22年4月30日（金）
- (5) 舞鶴高専交歓試合  
平成22年5月23日（日） 福井高専・舞鶴高専で開催
- (6) 平成22年度福井県高等学校春季総合体育大会  
平成22年5月29日（土）～6月7日（月）県内各地で開催  
陸上、バスケットボール、バレーボール、卓球、ハンドボール、ラグビー  
サッカー、柔道、剣道、テニス、軟式野球、ソフトボールが参加
- (7) 第45回北陸地区高等専門学校体育大会壮行会  
平成22年6月23日（水）
- (8) 第45回北陸地区高等専門学校体育大会 石川高専が担当で開催  
平成22年6月26日（土）ラグビー 平成22年7月3日（土）野球  
平成22年7月10日（土）・7月11日（日） 本大会  
成績 総合第3位  
団体 男子テニス、男子バレー、女子卓球が優勝  
男子卓球、女子バレー、水泳が準優勝  
個人 陸上（男子走高跳）、テニス（男子シングルス、男子ダブルス）、  
卓球（女子ダブルス）、水泳（男子400m自由形）が優勝
- (9) 第43回全国高等専門学校サッカー選手権北信越大会  
平成22年7月10日（土）・11日（日） 石川高専が担当で開催  
成績 優勝
- (10) 救急救命法の講習会  
平成22年8月6日（金）鯖江・丹生消防組合署員3名による講演及び実習  
体育系クラブ学生20名、教職員15名参加
- (11) 第45回全国高等専門学校体育大会  
男子テニス  
平成22年8月20日（金）～22日（日） 石川高専が担当で開催  
成績 男子団体 優勝 男子シングルス 準優勝  
陸上競技 平成22年8月11日（水）～12日（木） 富山高専が担当で開催  
成績 走高跳 3位  
サッカー 平成22年8月21日（土）～24日（火） 豊田高専が担当で開催  
男子バレー

- |    |                      |            |
|----|----------------------|------------|
| 水泳 | 平成22年8月21日（土）～22日（日） | 鳥羽商船が担当で開催 |
| 卓球 | 平成22年8月21日（土）～22日（日） | 沼津高専が担当で開催 |
| 剣道 | 平成22年8月21日（土）～22日（日） | 福井高専が担当で開催 |
|    |                      | 福井高専が担当で開催 |
- (12) 第17回全国高等専門学校将棋大会  
     平成22年8月18日（水）～20日（金）                        明石・舞鶴高専が担当で開催
- (13) アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2010東海・北陸地区大会  
     平成22年10月3日（日）                                豊田高専が担当で開催  
     競技課題は「激走！ロボ力車」  
     本校Aチーム「A i r W a l k e r」  デザイン賞（全国大会出場決定）  
     本校Bチーム「もんじゅの知恵」
- (14) 第7回クリーン大作戦  
     平成22年10月13日（水）                        J R 鮎江駅～高専までの通学路の清掃奉仕活動
- (15) 平成22年度  弁論大会  
     平成22年10月14日（木）  5テーマで実施
- (16) 第46回高専祭開催  
     平成22年10月15日（金）～17日（日）  
     テーマ「爆騒～終わらないドンチャン騒ぎ～」  
     サイエンスフェア、球技大会、吹奏楽コンサート、少林寺拳法演武会、  
     合気道演武会、クラス対抗企画、カラオケ大会、水かけ祭、アマバンライブ、  
     bingo大会、献血、露店  他
- (17) 全国高等専門学校第21回プログラミングコンテスト全国大会  
     平成22年10月16日（土）・17日（日）                        高知高専が担当で開催
- (18) 菊花マラソン  
     平成22年11月3日（祝）  障害者の伴走として参加
- (19) 全国高等専門学校デザインコンペティション2010 in 八戸  
     平成22年11月13日（土）～14日（日）                        八戸高専が担当で開催
- (20) 第4回東海北陸地区高等専門学校英語スピーチコンテスト  
     平成22年11月13日（土）                                福井高専が担当で開催
- (21) アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2010全国大会  
     平成22年11月21日（日）                                両国国技館で開催
- (22) 学生総会  
     平成23年1月26日（水）開催
- (23) 学生会誌「青塔」発行  
     平成23年3月

3. 奨学金受給状況・授業料免除実施状況一覧（平成22年度）

日本学生支援機構奨学生

(平成22年5月1日現在)

|     |  |   |    |    |   |   |   |   |    |
|-----|--|---|----|----|---|---|---|---|----|
| 合 計 |  | 6 | 14 | 13 | 8 | 7 | 0 | 3 | 51 |
|-----|--|---|----|----|---|---|---|---|----|

その他奨学生

(平成22年5月1日現在)

| 種 類           | 貸与月額  | 本 科      |        |        |        |        | 専攻科    |        | 合 計 |
|---------------|-------|----------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-----|
|               |       | 1<br>年   | 2<br>年 | 3<br>年 | 4<br>年 | 5<br>年 | 1<br>年 | 2<br>年 |     |
| 福井県<br>奨学生    | 自宅通学  | 18,000 円 | 2      | 2      | 2      | 3      |        |        | 9   |
|               | 自宅外通学 | 23,000 円 |        | 1      |        | 1      |        |        | 2   |
| 鯖江市<br>奨学生    | 自宅通学  | 10,000 円 |        |        | 1      |        |        |        | 1   |
|               | 自宅外通学 | 17,000 円 |        |        |        |        |        |        |     |
| あしなが育<br>英奨学金 | 自宅通学  | 25,000 円 |        |        | 1      |        | 1      |        | 2   |
|               | 自宅外通学 |          |        |        |        |        |        |        |     |
| 合 計           |       |          | 2      | 3      | 4      | 4      | 1      | 0      | 14  |

入学科免除実施状況

| 区 分   | 免除対象額    | 申請者数 |
|-------|----------|------|
| 免除対象者 | 84,600 円 | 0    |

入学科徴収猶予実施状況

| 区 分     | 猶予対象額    | 可否(人) |
|---------|----------|-------|
| 徴収猶予対象者 | 84,600 円 | 0     |

授業料免除実施状況

| 区 分     | 免除対象額     | 前期(人) | 後期(人) |
|---------|-----------|-------|-------|
| 全額免除対象者 | 117,300 円 | 23    | 24    |
| 半額免除対象者 | 58,650 円  | 7     | 3     |
| 失格者     |           | 15    | 13    |

## VII. 学寮関係

### 1. 基本方針

学寮は遠隔地からの入学生に修学の便を与えると同時に、共同生活を通してお互いに敬愛啓発し、人間形成を図るという目的で設置されている。そのために、施設、設備の充実には特に力を入れており、生活指導の面では全教員が交替で寮監として泊まり、寮生と直に触れ合うことにより教育目標を果たすよう努めている。

### 2. 寮生の受け入れ状況

学寮は「青武寮」と称し、収容定員は245名である。東寮・西寮・南寮・北寮の4棟に分かれており、北寮は女子留学生の受け入れも可能な設備を整え女子寮として改修されている。

平成22年度在籍寮生数

平成22年12月1日現在

| 学科<br>学年 | 1年     | 2年      | 3年     | 4年     | 5年     | 合計       |
|----------|--------|---------|--------|--------|--------|----------|
| 機械工学科    | 10 (1) | 11      | 16     | 14     | 7      | 58 (1)   |
| 電気電子工学科  | 11 (1) | 9 (2)   | 10     | 10 (3) | 11 (2) | 51 (8)   |
| 電子情報工学科  | 7      | 9 (1)   | 4 (1)  | 9 (2)  | 9      | 38 (4)   |
| 物質工学科    | 7 (2)  | 9 (5)   | 10 (2) | 10 (4) | 7 (5)  | 43 (18)  |
| 環境都市工学科  | 5      | 12 (2)  | 9 (2)  | 3      | 5 (2)  | 34 (6)   |
| 合計       | 40 (4) | 50 (10) | 49 (5) | 46 (9) | 39 (8) | 224 (37) |

( )は女子で内数

### 3. 活動状況

開かれた学寮作りを目指し、他高専の学生寮関係者との交流やオープンキャンパスなど中学生や保護者に対する学寮案内を通して積極的に外部との接触を図るとともに国際化を視野に外国人留学生も受け入れている。また、寮生活の円滑化を図るために寮生会を組織し、その自主的な活動として各種寮内行事が開催されるが、良好な協力関係で学寮関係教職員がこれを支援している。

## VIII. 学生相談室・保健室関係

### (1) 学生相談室

#### 1. 基本方針

本校では、学生生活が円滑に送れるように学生諸君の種々の悩み事や問題の相談に応じるため、福利施設の2階に学生相談室を開設している。

#### 2. 学生相談室利用状況と相談分野

学生相談室は、教員7名、看護師1名及び非常勤の専門カウンセラー1名の9人体制で運営されている。今年度の各相談員の担当を表1に示す。

相談室員のスキルアップとして、各種の研修会（メンタルヘルス講習会、発達障害者支援のための特別支援教育講習会、ピュアーキャンパス支援講習会など）へ参加した。教職員向には、メンタルヘルス講演会（「職場でのストレスの基礎知識と対処法」）を開催し、意識の高揚に努めた。学生に対しては、年度当初の新入生オリエンテーションでの説明会、各クラスでのメンタルヘルス説明会を行った。更に、年度当初に「学生相談室利用案内の冊子」を作成し、また年度末には名刺サイズの「相談室カード」を作成し全学生へ配布した。いつでも相談できる体制を強化した。

表1 平成22年度相談員の担当日時（上段前期、下段後期）

| 曜日                 | 月             | 火              | 水                              | 木                              | 金              |
|--------------------|---------------|----------------|--------------------------------|--------------------------------|----------------|
| 放課後<br>16:15～17:00 | 森 芳周<br>朝倉 相一 | 荒川 正和<br>吉崎 保夫 | 14:00～18:00<br>清水 照代<br>カウンセラー | 14:00～18:00<br>清水 照代<br>カウンセラー | 朝倉 相一<br>下條 雅史 |

表2、表3に平成21年度の月別および学年別相談室利用者の利用者数と相談分野別の件数を示す。

表2 平成21年度学生相談室、学年別と月別利用者数

|     | 4,5月 | 6,7月 | 8,9月 | 10,11月 | 12,1月 | 2,3月 | 21年度 |
|-----|------|------|------|--------|-------|------|------|
| 1学年 | 7    | 4    | 2    | 2      | 2     | 3    | 20   |
| 2学年 | 3    | 4    |      | 2      |       |      | 9    |
| 3学年 | 1    | 1    |      | 2      |       |      | 4    |
| 4学年 | 8    | 10   | 2    | 10     | 8     | 3    | 41   |
| 5学年 |      |      | 1    | 7      |       |      | 8    |
| 専攻科 | 1    |      | 1    | 1      |       |      | 4    |
| 保護者 |      | 3    | 1    | 3      | 4     | 3    | 15   |
| 職員他 | 1    | 6    | 6    | 9      | 3     | 9    | 33   |
| 計   | 22   | 28   | 13   | 36     | 17    | 18   | 134  |

表3 平成21年度学生相談室、月別相談内容と相談件数

|     | 4,5月 | 6,7月 | 8,9月 | 10,11月 | 12,1月 | 2,3月 | 21年度 |
|-----|------|------|------|--------|-------|------|------|
| 意欲  | 1    | 13   | 3    | 16     | 16    | 9    | 58   |
| 友人  | 4    | 3    | 2    | 1      |       |      | 10   |
| 家庭  | 4    |      |      |        |       |      | 4    |
| 生活  | 10   | 4    | 3    | 6      |       |      | 23   |
| 学習  |      | 4    |      | 1      |       | 4    | 9    |
| 将来  | 1    | 2    |      | 3      |       | 1    | 7    |
| その他 | 2    | 2    | 5    | 9      | 1     | 4    | 23   |
| 計   | 22   | 28   | 13   | 36     | 17    | 18   | 134  |

## (2) 保健室

## 1. 基本方針

学内の保健衛生・学生の健康維持を中心に、あらゆる面で学生をサポートしている。通常の保健業務の他に、学生の精神面における相談業務も行っている。

## 2. 保健室の利用状況

保健室の平成21年度利用状況について表4、5に示す。看護師（1名）にはフィジカルな対応以外にメンタル面における対応もお願いしている（インテーカーとしての対応も含む）。表4は保健室の学年別、5は相談分野別の利用者数である。

表4

|       | 4月  | 5月  | 6月  | 7月  | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月  | 2月 | 3月 | 21年度  |
|-------|-----|-----|-----|-----|----|----|-----|-----|-----|-----|----|----|-------|
| 1年    | 8   | 18  | 13  | 14  | 4  | 2  | 12  | 14  | 6   | 7   | 4  | 3  | 105   |
| 2年    | 23  | 20  | 22  | 21  | 5  | 2  | 32  | 33  | 19  | 23  | 16 | 1  | 217   |
| 3年    | 22  | 19  | 19  | 11  | 3  | 6  | 21  | 8   | 8   | 9   | 4  | 4  | 134   |
| 4年    | 30  | 29  | 43  | 34  | 15 | 12 | 39  | 41  | 16  | 23  | 12 | 28 | 322   |
| 5年    | 61  | 55  | 46  | 25  | 14 | 9  | 29  | 33  | 19  | 28  | 13 | 7  | 339   |
| 専攻科1年 | 3   | 1   | 0   | 1   | 0  | 0  | 1   | 7   | 6   | 4   | 1  | 20 | 44    |
| 専攻科2年 | 6   | 0   | 4   | 2   | 5  | 2  | 3   | 3   | 2   | 0   | 1  | 0  | 28    |
| 保護者   | 1   | 0   | 0   | 0   | 0  | 0  | 0   | 0   | 0   | 0   | 0  | 0  | 1     |
| その他   | 25  | 22  | 31  | 25  | 10 | 8  | 18  | 15  | 15  | 11  | 11 | 18 | 209   |
|       | 179 | 164 | 178 | 133 | 56 | 41 | 155 | 154 | 91  | 105 | 62 | 81 | 1,399 |
|       |     |     |     |     |    |    |     |     |     |     |    |    | 1,399 |

その他・・・オープンカレッジ・職員・卒業生・退学者の利用等

表5

|       | 4<br>月 | 5<br>月 | 6<br>月 | 7<br>月 | 8<br>月 | 9<br>月 | 10<br>月 | 11<br>月 | 12<br>月 | 1<br>月 | 2<br>月 | 3<br>月 | 21年度 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|---------|---------|--------|--------|--------|------|
| いじめ   |        |        |        |        |        |        |         |         |         |        |        |        | 0    |
| 不登校   | 4      | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      | 0       | 0       | 0       | 0      | 0      | 0      | 4    |
| 人間関係  | 10     | 4      | 10     | 2      | 0      | 4      | 7       | 4       | 3       | 1      | 2      | 0      | 47   |
| 学習    | 6      | 1      | 3      | 1      | 0      | 4      | 1       | 4       | 2       | 0      | 0      | 0      | 22   |
| 進路    | 39     | 24     | 13     | 0      | 7      | 3      | 2       | 4       | 4       | 2      | 1      | 48     | 147  |
| 暴力    | 0      | 0      | 1      | 0      | 0      | 0      | 0       | 0       | 0       | 0      | 0      | 0      | 1    |
| フィジカル | 81     | 117    | 131    | 116    | 19     | 26     | 133     | 83      | 77      | 79     | 60     | 27     | 949  |
| メンタル  | 22     | 33     | 27     | 22     | 6      | 13     | 33      | 36      | 28      | 44     | 46     | 38     | 348  |
| 合計    | 124    | 156    | 173    | 141    | 25     | 47     | 175     | 134     | 113     | 124    | 108    | 68     | 1399 |

## IX. 図書館関係

### 1. 基本方針

本校の図書館は、低学年の学生の教育を始めとして、高学年の学生や専攻科生及び教職員の研究補助、更には、地域住民への貢献等を目的として運営されている。図書館は閲覧室と事務室及び1、2階の書庫とから成り、約400m<sup>2</sup>の閲覧室には、100席の閲覧室と約3万冊収容の開架書架が設置されている。閲覧室と同フロアの2階書庫は常時開扉されていて、開架書架同様の利用が可能になっている。インターネットを利用した学外からの蔵書検索も可能で、学外者の借り出しもできるようになっている。

### 2. 活動状況

#### (1) 教育支援

学生の教育面では、専門分野の蔵書の充実を図るとともに、図鑑や美術文庫等、一般的な教養書の購入にも努めている。また、「教科書コーナー」や、もの作りや実験のノウハウを簡単に解説した「もの作りコーナー」、「定期試験の過去問題コーナー」、「資格試験コーナー」等を設けて、学生の学習の便宜に資している。或いはまた、簡単な英語で書かれた科学技術の入門書を備えて、英語に対する学生の関心を高めるとともに、英語力の向上を目指している。

購入する図書に関しては、各学科の教員の推薦によって決めるとともに、学生図書委員によるブックハンティングによって500冊前後の図書を購入する等、学生の意見や嗜好を取り込む工夫をしている。また、国語科の協力を得て、学生と教職員からなる「校友会誌編集部会」による校友会誌「青樹」(特集、随想、読書感想文、創作、詩、短歌等約100作品)を毎年発行している。

#### (2) 研究支援

研究面では、長岡技術科学大学と高専によるコンソーシアムに参加することで、Science Direct(エルゼビア社)、ACS(アメリカ化学会)の約2,000タイトルの電子ジャーナル及びMathSciNet(アメリカ数学会)、JDream II(科学技術振興機構)の文献データベースを利用できるようにしている。また、本校で購読していない電子ジャーナル及び雑誌・図書等の文献については、図書館間相互貸借サービス(NACSIS-ILL)を利用して、文献複写・図書を学外から取り寄せるなどして、研究者への研究支援体制を整えている。

#### (3) 地域貢献

地域貢献については、平日は午前8時30分から午後8時まで、土曜日は午前9時から4時30分まで開館して、地域住民の利用に資するとともに、必要文献の貸出しにも応じている。

平成20年度より福井県内図書館横断検索システムに参入して、県内主要図書館の蔵書の一括検索と物流システムの活用による蔵書の貸借が可能になり、また、福井県地域共同リポジトリに参加して、本校研究者の学術成果をインターネットを介して公開することで、地域に対する説明責任を果たしている。

以下、平成21年度末の蔵書構成を表1に、利用状況を表2に示す。

表1 平成21年度末の蔵書構成

| 分類    | 0     | 1     | 2     | 3     | 4      | 5      | 6   | 7     | 8     | 9      | 計      |
|-------|-------|-------|-------|-------|--------|--------|-----|-------|-------|--------|--------|
|       | 総記    | 哲学    | 歴史    | 社会科学  | 自然科学   | 技術     | 産業  | 芸術    | 言語    | 文学     |        |
| 和書    | 6,955 | 2,829 | 5,114 | 5,348 | 16,106 | 18,709 | 820 | 3,183 | 3,740 | 10,342 | 73,146 |
| 洋書    | 469   | 357   | 201   | 243   | 3,874  | 1,555  | 11  | 55    | 1,317 | 919    | 9,001  |
| 合計    | 7,424 | 3,186 | 5,315 | 5,591 | 19,980 | 20,264 | 831 | 3,238 | 5,057 | 11,261 | 82,147 |
| 比率(%) | 9.0   | 3.9   | 6.5   | 6.8   | 24.3   | 24.7   | 1.0 | 3.9   | 6.2   | 13.7   | 100.0  |

この他に、教育後援会文庫が 10,613 冊あるので、蔵書の総計は 92,760 冊になる。

表2 平成21年度の月別利用状況

| 月  | 開館日数 | 入館者数   | 貸出冊数  | 貸出者数  | 入館者数/日 | 貸出冊数/日 | 貸出者数/日 |
|----|------|--------|-------|-------|--------|--------|--------|
| 4  | 23   | 3,991  | 843   | 441   | 173.5  | 36.7   | 19.2   |
| 5  | 23   | 4,350  | 834   | 385   | 189.1  | 36.3   | 16.7   |
| 6  | 26   | 6,080  | 792   | 388   | 233.8  | 30.5   | 14.9   |
| 7  | 26   | 5,663  | 797   | 383   | 217.8  | 30.7   | 14.7   |
| 8  | 14   | 1,936  | 460   | 198   | 138.3  | 32.9   | 14.1   |
| 9  | 19   | 1,082  | 201   | 101   | 56.9   | 10.6   | 5.3    |
| 10 | 24   | 4,023  | 908   | 386   | 167.6  | 37.8   | 16.1   |
| 11 | 23   | 4,985  | 713   | 356   | 216.7  | 31.0   | 15.5   |
| 12 | 21   | 4,574  | 940   | 416   | 217.8  | 44.8   | 19.8   |
| 1  | 21   | 3,874  | 708   | 320   | 184.5  | 33.7   | 15.2   |
| 2  | 22   | 5,450  | 658   | 284   | 247.7  | 29.9   | 12.9   |
| 3  | 20   | 2,788  | 350   | 142   | 139.4  | 17.5   | 7.1    |
| 計  | 262  | 48,796 | 8,204 | 3,800 | 186.2  | 31.3   | 14.5   |

この他に、DVD などの視聴覚資料の利用者が年間 76 人

## X. 創造教育開発センター

### 1. 創造教育開発センター設立の経緯と業務

本センターは、FD委員会、教育改善委員会等の役割を統合し新たな位置づけを持って2007年度(H19年度)に発足したセンターである。本センターの主な業務内容としては、(1)教育改善のためのFD活動の推進、(2)e-Learningなどのメディア活用教育の調査と研究、(3)カリキュラムの調査と情報集積を挙げている。なお各年度毎にセンター報告書を刊行している。

### 2. 21年度の活動

H20年度に高専設置基準が改正され組織的なFD活動の義務化がなされた。それにともない、本センターも発足3年目として年間計画をたて活動をしてきた。主な取り組みとしては、公開授業や授業アンケートの実施、FD研修会「プレゼン能力の向上をめざして」の開催、福井県大学間連係事業への参加などが上げられる。以下、センターの主要な取り組みについて概観しておく。(詳細は報告書を参照してください。)

#### (1) 授業アンケート

授業アンケートに関しては、原則全科目終了時に実施し、結果を各教員に返却しコメントを集め、次年度に学生と教職員に公開している。アンケートの学生評価に関しては、全体的にはほぼ高水準で推移している。学年毎に見ると、隔年で平均点が上下し、数年前のような3年が低く1年と5年が高いというV次型の傾向とは異なる状態である。

昨年度、学生への公開方法を変更し、印刷製本の形をとらずに、各クラスに関連するものを簡易ファイルとしてクラスに1冊ずつ配布した。一方、アンケートの全体は資料用として分厚いものを1部のみ作成した。また、今年度より学内教職員向けにグループウェア上に公開した。今後もこの形態での資料の配布とネット上での学内向けの公開という形が適当と思われる。

#### (2) 公開授業

今年度は校舎の改修の関係で後期中間考查終了後に公開授業週間を設定した。参加者は昨年度と比較して若干減少した。実施方法としては、事前に授業担当者に参観の連絡をし、参観後に感想等を授業担当者とセンターに送る形式である。参観者の感想はどれも良好であった。また、従来実施してきた各学科毎年1名ずつの公開授業についても継続した。これを公開授業期間に実施する場合もあった。公開授業あるいは公開授業週間の実施により、多くの教員が参観したり参観されたりする形が普通になってきた。

#### (3) 大学間連携事業

H20年度に採択された文部科学省戦略的大学連携事業「個性的な地域創生のための学習コミュニティを基礎とした仮想的総合大学環境の創造」に関して本センターが中心となって様々な取り組みを行なってきた。この連携事業(通称「Fレックス」)には、福井県立大学、福井工業大学、仁愛大学、仁愛女子短期大学、敦賀短期大学、福井高専の6大学・短大・高専が参加をしている。この連携事業ではFD活動の協同推進が事業の4つの柱(連携基盤、学生の学習コミュニティ形成、地域と連携した学習コミュニティの形成、相互研修型FD活動の推進)の1つとなっている。今年度のセンター活動のかなりの部分がこの連携事業の推進にあてられた。各部門で本センターの委員が積極的に参加し事業推進に貢献している。

今年度は、6月にFレックスシンポジウム「大学間連係と相互連係型FD活動」を協同開催することができた。その他多くのFレックス研究会に参加し発表・報告・発言を行なっている。連携事業の効果として、福井県内の教育機関のFD活動の経験や課題を本校の場合と比較することが出来た。また人的なネットワークの構築も進んでいる。この連係事業はTV会議やSNS、LMSなどのICT基盤の活用の上に成り立っておりこの面での貴重な実例となっている。

#### (4) e-Learning の推進

今年度は、新たなmoodleサーバーを稼働させて利用する環境が整った。このサーバーでは事前に全学生・専攻科生を各学科・クラス毎にユーザーとして登録し、クラス単位の授業を簡単に利用できるようにしている。このような利用方法は学年制を採用している高専の教育形態の特徴に合わせたカスタマイズの好例となった。

#### (5) その他

センター内部の意見交換と調整のための会議と打ち合わせを定期的に開催することができた。センター員はほとんどが担任や主事補、各種委員会委員を兼ねており専任はセンター長のみであった。FD活動をはじめ様々な取り組みや学内諸機関との連係など、多くが求められている中で組織的な活動のための工夫とマンパワーが必要とされた。

### 3. 次年度への課題など

FD活動の実質化について設置基準改正による義務化によりいろいろな議論が全国でなされている。対外的に説明を求められることが増えた現在では、FD活動を評価し資料化する必要性がある。そのためにICTの活用は当然必要となっている。他方、エビデンスとしての形式的FD活動だけでは教職員の中に疲労感が蓄積する。本センターと福井県大学間連携では「相互研修型」のFDを標榜している。これはすでに行なわれている様々な教育改善の取り組みを新たな視点で評価し相互に参考としようというものである。学生の生活・学習状況についての日常的な情報・意見の交換と各教員の教育上のいろいろな工夫を教育改善そのものとしてとらえたい。それらを教育改善活動の文脈の中に位置づけて評価をすることが本センターをはじめとしてFD活動に携わる教職員の課題と考えたい。そのことを通じて学生とその教育に私たちの目を向け、力を注いでいくことが目的と言える。

今年度の活動の中では、カリキュラムの例の収集が具体化できていない。連携事業の推進の中でカリキュラム問題も課題として上がってきている中で次年度以降の課題ともなっている。また、e-Learningの推進も緒についたばかりである。利用実績の積み重ねとその効果についての検討がこれからも求められている。

全国的には、学生の変化に応じた教育システムの構築とキャリア教育について議論が注目を集めている。FD活動という面からも、検討することが課題となっている。

## X I. 総合情報処理センター

### 1. 基本方針

総合情報処理センターは、1年生の情報処理教育から高学年の実験・演習及び卒業研究、教員の研究まで情報処理教育並びに研究活動の支援を行っている。

プログラミングの演習のみならず情報リテラシー教育などにも幅広く利用されており、多様な利用形態に対応したハードウェア、ソフトウェア環境が充実している。

一方、高等教育機関としての高度情報化社会にふさわしい情報通信のインフラである校内 LAN の運用、維持・管理を担っている。このネットワーク環境の整備により教職員、学生のインターネットを使った教育・研究や学習、情報の伝達・収集・発信などが可能となっている。

### 2. 活動状況

平成22年度は、教育用電子計算機システムが更新し、ネットブート型のシンクライアントシステムを導入した。これは、サーバーに配置された OS イメージを、クライアントが起動時にロードし、ローカルハードウェア上で実行するシステムである。

従来の教育用電子計算機システムと比較し、ソフトウェアの互換性が高いということや、CAD のような高速処理が必要であるソフトウェアでもストレスなく動作するという利点がある。

また起動イメージの管理や、変更作業が短時間で行えるなど、これまで以上に演習室端末を柔軟かつ容易に管理運用することが可能である。これによって、特定の演習室でしか利用できなかったソフトウェアが、どの演習室からでも利用可能となった。そのため授業時間割の割り振りや、時間外利用等でのセンター利用に対する利便性が向上した。

### 3. 利用状況

総合情報処理センターの4つの演習室（第1演習室パソコン48台、第2演習室パソコン7台、第3演習室パソコン50台、第4演習室パソコン46台）での授業時間割（平成22年度前期・後期）を表1（前期）、表2（後期）に示す。また、平成22年4月から12月の平日17時以降（休日を含む）の時間外利用の状況を延べ利用者数および延べ利用時間で表3に示し、それ以外での利用状況を表4に示す。

表1 総合情報処理センター時間割（平成22年度前期）

| 曜日 | 第1演習室            | 第2演習室        | 第3演習室          | 第4演習室<br>ものづくりアトリエ |
|----|------------------|--------------|----------------|--------------------|
| 月  | 1 3EI プログラミング応用  |              |                | 4M 知能機械演習          |
|    | 2                |              |                |                    |
|    | 3 5B 数値解析        |              | 2EI プログラミング基礎  |                    |
|    | 4                |              |                |                    |
|    | 5 1F4 コンピュータ科学入門 |              | 4EI 電子情報工学実験Ⅲ  | 5B 環境保全工学          |
|    | 6                |              |                | 5B 環境都市工学設計製図Ⅲ     |
|    | 7 5C 材料工学実験      |              |                |                    |
|    | 8                |              |                |                    |
| 火  | 1 4EI 創造工学演習     | 2M 機械工作実習    | 1F3 コンピュータ科学入門 | 5B 環境都市工学設計製図Ⅲ     |
|    | 2                |              | 5E 制御工学Ⅱ       | 4B コンクリート構造学Ⅰ      |
|    | 3                | 3EI 情報工学実験   | 1F5 コンピュータ科学入門 | 4C 情報化学            |
|    | 4                |              | 5E 現代制御工学      | 5M アイデア設計工学        |
|    | 5                |              |                |                    |
|    | 6                |              |                |                    |
|    | 7                |              |                |                    |
|    | 8                |              |                |                    |
| 水  | 1 4M 機械計算力学      |              |                | 2B 環境都市工学設計製図Ⅰ     |
|    | 2                |              |                |                    |
|    | 3 3M C言語応用       |              | 2E 情報処理Ⅰ       | 3C 情報処理演習          |
|    | 4                |              |                |                    |
|    | 5 1ALL ものづくり科学   | 1ALL ものづくり科学 | 1ALL ものづくり科学   | 1ALL ものづくり科学       |
|    | 6                |              |                |                    |
|    | 7                |              |                |                    |
|    | 8                |              |                |                    |
| 木  | 1 2C プログラミング基礎   |              | 2EI 電子情報工学実験Ⅰ  | 2E 情報処理Ⅰ           |
|    | 2                |              |                | 4B 環境都市工学設計製図Ⅰ     |
|    | 3 2AD 画像情報処理     |              |                |                    |
|    | 4                |              | 4EI 情報構造論      | 4B 環境都市工学実験実習Ⅲ     |
|    | 5 3EI 数値解析       |              |                |                    |
|    | 6                |              |                |                    |
|    | 7                |              |                |                    |
|    | 8                |              |                |                    |
| 金  | 1 1F2 コンピュータ科学入門 |              | 5EI 電子工学実験Ⅳ    | 2M C言語基礎           |
|    | 2                |              |                | 3B 環境都市工学実験実習Ⅱ     |
|    | 3 1F1 コンピュータ科学入門 | 3M 創造工学演習    |                |                    |
|    | 4                |              |                | 5B 環境都市工学演習        |
|    | 5 4C 物質工学実験Ⅲ     | 5M 機械工学実験Ⅱ   |                |                    |
|    | 6                |              |                |                    |
|    | 7                |              |                |                    |
|    | 8                |              |                |                    |

表2 総合情報処理センター時間割（平成22年度後期）

| 曜日 | 第1演習室                                | 第2演習室                                                               | 第3演習室          | 第4演習室<br>ものづくりアトリエ                                                               |                                                              |
|----|--------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|----------------|----------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|
| 月  | 1<br>2<br>3<br>4<br>5<br>6<br>7<br>8 | 3EI<br>電子情報工学実験II<br><br>1F4<br>コンピュータ科学入門                          | 2M<br>機械工作実習   | 5C<br>設計製図<br><br>1F5<br>コンピュータ科学入門<br><br>5C<br>品質管理                            | 5B<br>環境都市工学設計製図I<br><br>5B<br>数値解析<br><br>4C<br>物質工学実験III   |
|    |                                      |                                                                     |                |                                                                                  |                                                              |
|    |                                      |                                                                     |                |                                                                                  |                                                              |
|    |                                      |                                                                     |                |                                                                                  |                                                              |
|    |                                      |                                                                     |                |                                                                                  |                                                              |
|    |                                      |                                                                     |                |                                                                                  |                                                              |
|    |                                      |                                                                     |                |                                                                                  |                                                              |
|    |                                      |                                                                     |                |                                                                                  |                                                              |
| 火  | 1<br>2<br>3<br>4<br>5<br>6<br>7<br>8 | 4EI<br>電子情報工学実験III<br><br>4B<br>環境都市工学設計製図<br><br>1F2<br>コンピュータ科学入門 |                | 4E<br>制御工学I<br><br>5B<br>河川環境工学<br><br>2EI<br>プログラミング基礎<br><br>1F3<br>コンピュータ科学入門 |                                                              |
|    |                                      |                                                                     |                |                                                                                  |                                                              |
|    |                                      |                                                                     |                | 3B<br>環境都市工学実験実習                                                                 |                                                              |
|    |                                      |                                                                     |                |                                                                                  |                                                              |
|    |                                      |                                                                     |                |                                                                                  |                                                              |
|    |                                      |                                                                     |                |                                                                                  |                                                              |
|    |                                      |                                                                     |                |                                                                                  |                                                              |
|    |                                      |                                                                     |                |                                                                                  |                                                              |
| 水  | 1<br>2<br>3<br>4<br>5<br>6<br>7<br>8 | 5E<br>電気電子設計<br><br>5EI<br>計算機シミュレーション<br><br>1F1<br>コンピュータ科学入門     | 3E<br>電子創造工学   | 4EI<br>情報構造論<br><br>2C<br>プログラミング基礎<br><br>3E<br>情報処理II                          | 5B<br>環境保全工学<br><br>4B<br>コンクリート構造学I                         |
|    |                                      |                                                                     |                |                                                                                  |                                                              |
|    |                                      |                                                                     |                |                                                                                  |                                                              |
|    |                                      |                                                                     |                |                                                                                  |                                                              |
|    |                                      |                                                                     |                |                                                                                  |                                                              |
|    |                                      |                                                                     |                |                                                                                  |                                                              |
|    |                                      |                                                                     |                |                                                                                  |                                                              |
|    |                                      |                                                                     |                |                                                                                  |                                                              |
| 木  | 1<br>2<br>3<br>4<br>5<br>6<br>7<br>8 | 3M<br>機械設計製図I<br><br>2M<br>C言語基礎<br><br>1ALL<br>ものづくり科学             |                | 3EI<br>プログラミング応用<br><br>1ES<br>環境システム工学演習II<br><br>2EI<br>情報基礎演習                 |                                                              |
|    |                                      |                                                                     |                |                                                                                  |                                                              |
|    |                                      |                                                                     |                | 4B<br>環境都市工学実験実習III                                                              |                                                              |
|    |                                      |                                                                     |                |                                                                                  |                                                              |
|    |                                      |                                                                     |                |                                                                                  |                                                              |
|    |                                      |                                                                     |                |                                                                                  |                                                              |
|    |                                      |                                                                     |                |                                                                                  |                                                              |
|    |                                      |                                                                     |                |                                                                                  |                                                              |
| 金  | 1<br>2<br>3<br>4<br>5<br>6<br>7<br>8 | 2EI<br>電子情報工学実験I<br><br>4C<br>情報化学                                  | 5M<br>機械工学実験II | 2E<br>情報処理I<br><br>4EI<br>ソフトウェア工学                                               | 4EI<br>電子回路II<br><br>5B<br>空間情報工学<br><br>5B<br>環境都市工学設計製図III |
|    |                                      |                                                                     |                |                                                                                  |                                                              |
|    |                                      |                                                                     |                |                                                                                  |                                                              |
|    |                                      |                                                                     |                |                                                                                  |                                                              |
|    |                                      |                                                                     |                |                                                                                  |                                                              |
|    |                                      |                                                                     |                |                                                                                  |                                                              |
|    |                                      |                                                                     |                |                                                                                  |                                                              |
|    |                                      |                                                                     |                |                                                                                  |                                                              |

表3 時間外利用状況（平成22年4月～12月）

| 月   | 人数(人) | 利用時間(各演習室の合計) |
|-----|-------|---------------|
| 4   | 12人   | 11時間00分       |
| 5   | 482人  | 81時間30分       |
| 6   | 338人  | 102時間30分      |
| 7   | 224人  | 81時間00分       |
| 8   | 66人   | 32時間00分       |
| 9   | 55人   | 10時間30分       |
| 10  | 321人  | 88時間30分       |
| 11  | 353人  | 91時間00分       |
| 12  | 161人  | 72時間00分       |
| 合計  | 2012人 | 570時間00分      |
| 月平均 | 224人  | 63時間20分       |

表4 その他の利用状況

| 利用日        | 利用内容       | 利用者      |
|------------|------------|----------|
| 6／20       | CAD利用技術者試験 | 環境都市工学科  |
| 6／24、25、28 | 旅費システム説明会  | 総務課人事労務係 |
| 11／21      | CAD利用技術者試験 | 環境都市工学科  |

## X II. 地域連携テクノセンター

### 1. 基本方針

本校の位置する丹南地域は眼鏡枠製造をはじめ、繊維・染色産業や電子・機械・化学工業が盛んであり、加えて、越前和紙、越前打刃物、越前漆器や越前焼の伝統産業を有することから、依然として福井県の経済を支える重要な拠点となっている。

地域連携テクノセンターは、本校の使命である『教育・研究・地域貢献』の対外的な窓口であり、丹南地域のみならず県内全域にわたってより良いサービスを提供するために、以下の事業を展開している。

#### (1) 共同研究、受託研究の受け入れ

地域連携テクノセンターは「地域・文化」、「環境・生態」、「エネルギー」、「安全・防災」、「情報・通信」、「素材・加工」および「計測・制御」の7つの研究部門から構成されている。

平成21年度には県内企業を中心に12件の共同研究の申込みと4件の受託研究の申込みがあり、基礎調査・試験から製品開発にいたる広い範囲で地元産業界と歩みをともにしている。また、各研究部門では共同研究、受託研究の前段階にも当たる技術相談に随時応じており、昨年度も依頼の大部分について難題の本質を見極め、解決の糸口を助言した。

研究の円滑な遂行を助成するために、地域連携テクノセンター内の8つの実験室には誘導結合形高周波プラズマ発光分光分析装置、X線光電子分光装置、超高分解能電子顕微鏡システム、走査型プローブ顕微鏡、エネルギー分散型X線分析装置付属FE形走査電子顕微鏡、試料水平型多目的X線回折装置、超伝導核磁気共鳴装置などを設置している。これらの装置、試験機は企業単独の基礎研究、応用研究や品質管理にも活用されている。

さらに、地域社会との密接な関係を保持し、実益を共有または還元する目的で、2階には「伝統産業支援室」と「地場産業支援室」とを配している。

#### (2) シーズの公開、各種コンテストの主催・共催

地域連携テクノセンターの活動紹介誌『JOINT』に教員や技術職員のシーズを掲載、広く外部に配本して本校の有する人的財産、資源の情報を発信している。これらのシーズは毎年更新して、ニーズとの整合性を図るべく鋭意努力している。また、専攻科委員会との協同のもと北陸技術交流テクノフェアでは専攻科2学年によるシーズ発表を継続している。

地域連携テクノセンターが主催する「マグネットコンテスト」、「さばえめがねワクwakuコンテスト」には毎回多数の作品が寄せられ、児童、生徒や学生の理科離れ対策の一つとして、独創的な思考力の涵養の一環として役立っているものといえよう。昨年度は共催であった「ふくい防災マップコンテスト」が22年度は主催事業に移行し、新たに「越前市中学生ロボットコンテスト」や「歯みがきロボットコンテスト」が共催事業に加わった。

上記のほかにも産学官連携推進会議、全国高専テクノフォーラム、丹南産業フェアなどに出展して、地域連携テクノセンターの活動内容およびその成果を公表している。

#### (3) 起業家の育成と事業創出の支援

福井県内での起業意欲を高揚し、伝統産業や地場産業の活性化に寄与する目的で、地域連携テクノセンターの3階には「アントレプレナーサポートセンター」を置いている。ここは、地域の産業活性化プランと連携しながら起業のための基礎知識や活動方針を研鑽する施設であり、修了後は地元の行政機関が準備する支援施策に則って事業に着手することになる。

対象者は数年後に起業を志す、もしくは、自らのアイデアを事業に結び付けたいと考える地

域の技術者および本校の学生であり、オフィススペースを半年契約で最長1年間提供している。

これら(1)、(2)、(3)に加えて、地域連携テクノセンターでは「JOINTフォーラム」の開催や「丹南地区における緊急連絡システム」の運用などを通して、最近の研究事例・技術開発への取り組みを紹介するとともに地域社会の安寧に貢献するべく尽力している。また、22年10月以降は高専機構運営費交付金対象事業である「企業技術者等活用プログラム」として“ICTと地域とを融合させる共同教育の展開”を、特命准教授3名を任用して専攻科棟マルチメディア室(3D、VR分野)および電子情報工学科棟創成教育ラボ(ICT分野)で実施している。

## 2. 活動状況(平成22年度)

|     | 事業                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 5月  | 公開講座「防災マップ作成講座－第1回」〔主催事業に関連〕                                                                                                                                                                                                                                          |
| 6月  | 第9回産学官連携推進会議(京都市で開催)に参加、出展<br>地域連携テクノセンター活動紹介誌『JOINT 2010』の発行<br>平成22年度 福井高専地域連携アカデミア総会の開催<br>平成22年度 福井工業高等専門学校 高専ものづくり設計塾・初心者向け「3D-CAD講習」(自立講座)の開催<br>公開講座「防災マップ作成講座－第2回」〔主催事業に関連〕                                                                                   |
| 7月  | 福井県機械工業青年会との交流プロジェクト(第1回講習会)<br>出前授業「中学ロボコン講座」〔共催事業の一環〕                                                                                                                                                                                                               |
| 8月  | 第8回全国高専テクノフォーラム(大分市で開催)に参加、出展                                                                                                                                                                                                                                         |
| 9月  | 第7回さばえめがねワクwakuコンテスト(主催)作品募集[～10月1日]<br>第16回マグネットコンテスト(主催)作品募集[～10月1日]<br>第5回越前市中学生ロボットコンテスト(共催)および表彰式に参加<br>丹南産業フェア2010に参加、出展<br>Make : Ogaki Meetingに出展                                                                                                             |
| 10月 | 歯磨きロボットコンテスト(共催)および表彰式に参加<br>平成22年度 企業技術者等活用プログラム『ICTと地域とを融合させる共同教育の展開』の開催〔平成23年2月末まで〕<br>しんきんビジネスフェア 北陸ビジネス街道2010に出展<br>第2回ふくい防災マップコンテスト(主催)最終審査会および表彰式の開催<br>北陸技術交流テクノフェア2010に参加(専攻科2学年によるシーズ発表)<br>JOINTフォーラム2010(シーズ発表会および交流会)の開催<br>福井県機械工業青年会との交流プロジェクト(第2回講習会) |
| 11月 | 第6回FITネット商談会に出展<br>第7回さばえめがねワクwakuコンテスト(主催)最終審査会の開催                                                                                                                                                                                                                   |
| 12月 | 平成22年度東海・北陸地区国立高等専門学校テクノセンター長等会議に出席<br>第16回マグネットコンテスト(主催)最終審査会の開催                                                                                                                                                                                                     |
| 1月  | 第7回さばえめがねワクwakuコンテスト(主催)表彰式の開催                                                                                                                                                                                                                                        |
| 2月  | 第16回マグネットコンテスト(主催)表彰式の開催                                                                                                                                                                                                                                              |

### X III. 教育研究支援センター

#### 1. 基本方針

本センターは、本校において教育研究支援に携わる技術職員の技術業務を組織的かつ効率的に行うとともに、その専門性を確保し、その職務の遂行に必要な能力および資質の向上を図り、本校における教育研究の支援業務を円滑に実施することを目標として運営されている。

#### 2. 活動状況

##### (1) 教育支援

各学科の実験・演習・卒業研究および物理・化学・工学基礎物理の実験に対する支援を行なった。

##### (2) 研究への支援

本校の共同研究・科研費研究に参画し、研究活動の活性化のために寄与している。

科学研究費補助金(奨励研究)の申請に積極的に取り組んでいる。

平成21年度は4名が応募し2件採択された。平成22年度は5名のセンター職員が応募した。

##### (3) 地域貢献への支援

各学科等の依頼を受けて公開講座、出前授業に対して支援を行なった。(資料中の出前授業一覧、公開講座実施一覧参照)

丹南地域の活性化のために行なわれる「おもしろフェスタ in サンドーム福井2010」の準備及び当日の支援に参加した。

地域連携テクノセンターの事業に協力し、本校シーズ集への投稿、今立和紙共同組合の依頼を受けての水質測定を行った。

##### (4) 本校運営への支援

第一班は、全国高専ロボットコンテスト参加チームへの支援を行ない、全国大会11年連続出場に貢献した。

第二班は、事務情報化推進室の依頼を受けて校内の情報化業務に対する支援に当たった。

第三班は、職場の安全衛生確保のため作業環境測定士資格に基づく実験室等の作業環境測定を行ったほか、全国高専デザインコンテストへの支援を行った。

6月と8月に行なわれたオープンキャンパスに対する支援を行った。

##### (5) 見えるセンター活動

22年度も活動報告書の発行、技術発表会の開催、ホームページでの情報発信を行い、センター活動の状況が見えるように努めている。

##### (6) ポテンシャルアップ

各種研修事業への参加促進、本校運営に必要な資格取得の奨励、技術発表会の開催、科学研究費補助金申請のためのセミナーの開催などを通じてセンター職員のポテンシャルアップを図っている。

## XIV. 評価体制

### 1. 本校の評価体制

本校では学校内部の自己点検・評価委員会規則に則り、教育活動の評価及び評価結果を改善策に結びつけるシステムがある。教員の教育活動に関する定期的な評価を適切に実施するために、本校では2つの体制を軸に整備している。一つは学生による教育（授業）評価、もう一つは教員本人による教育（授業）自己評価である。前者は教育活動、特に授業の改善は早くから個々の教員レベルで実施されてきたが、平成14年度から全ての授業を対象に校内に設置した「創造教育開発センター」がアンケートを実施し、その結果を各教員に提示し、コメントを求め、今後の課題を記述した報告書を作成し、公表している。後者は各教員に他教員の教育、研究などの状況を記入、提示させ、得点化、校内ランキングを作成して公表し、フィードバックしている。

授業評価アンケートの結果の冊子及び教員の教育活動自己評価の結果をもとに、経年的な推移から教育レベルの向上を図っている。主な企画として、公開授業を実施し、同僚教員を中心とした専門家による評価を受け、質の向上を図っている。システムに参加する教員は、専門及び教科教育法の立場から多面的な評価ができるよう配置され、教員のFD活動としても重要である。半期に7名の教員が公開授業を実施し、それぞれ5名の教員が評価及び討論をしている。その結果は報告書の形で評価教員及び委員会へ提出し、最終的に次時期授業アンケートの結果を受け改善の程度を検討している。このシステムにおいて1年間にはほぼ全ての教員が参加する。以上の創造的教育研究センターを中心としたシステムの在り方、さらに全校的な観点から教育システム評価委員会においても検討される。これらの結果は、各教員のその後の教育に確実に反映することが必要であり、それ以後の評価で再び結果が問われることとなる。これらのことにより、本校の授業は格段に学生にとって理解されやすいものとなった。

### 2. 外部評価の受審

平成16年度（2004年度）に、本校本科4、5年と専攻科の教育プログラム（環境生産システム工学）が日本工学者教育機構（JABEE）により認定された。認定の有効期間が原則6年であることから、本年度（平成21年度）に継続審査を受審したところである。また、大学評価・学位授与機構による度高等専門学校機関別認証評価を平成17年度に受審し、改善事項がない認定を受けた。この認証評価は、7年以内ごとに受審することが義務づけられており、次回は平成24年度に受審することとなっている。

### 3. 外部有識者会議による外部評価

本校の外部評価は外部有識者会議、JABEEの受審、機関別認証評価の受審などがあるが、外部有識者会議には福井県内、技術科学大学の大学関係者、地元の中学校関係者、福井県、地元の産業界、報道関係、商工会議所関係者を招聘し、毎年1回の外部評価を行っている。昨年度の外部有識者会議における講評を記す。

(平成21年度「外部有識者会議」講評 平成22年2月19日開催)

① 長岡技術科学大学 新原皓一 学長

素晴らしいの一言に尽きる。限られた人員でこれほどの成果を上げるために、教職員に過度の負担が強いられているのではないかと心配になる。高専の存在理由として素晴らしいと思ったのは、5年間の一貫教育と2年制の専攻科の教育課程によって将来に渡り持続的に活躍できる人材を高専が育成している点である。また、地元への貢献の一つとして、原子力人材育成があったが、この点についても非常に賛同する。お願いとしては、これから10年、20年先を考えると地域の産業構造も当然変化していくことになるので、福井高専としても、これらの変化を前提として今後の教育活動の見直しを進めていく必要があるのではないかと思う。昨年10月に学長に就任して以来、全国の高専を19校ほど回っているが、福井高専は本当に素晴らしいと思った。

② 福井県工業技術センター 笠島文夫 所長

学生の気質の変化や教員数の削減の中で教育や研究も非常に良くやっている。高専のブランドづくりという話があったが、ロボコン大会のテレビ放送で福井高専が出場していれば地元の代表であり応援にも力が入る。ブランドづくりには、もちろん教育というベースが重要であるが、今後もロボコン大会のような活動にも力を入れてブランドづくりに努めてほしい。また、福井高専の使命の一つとして説明のあった「地域と連携した产学官共同研究の推進」については、これまで以上に充実を図ってもらいたい。野村会頭から鯖江商工会議所の「ものづくり支援機構」の話があったが、福井県工業技術センターとしても本事業を応援することにしており、福井高専とも協力・連携しながらやっていきたいと考えている。福井県機械協同組合青年部と福井高専との共同研究に関しても機械協同組合のコーディネーターから本センターに対して協力依頼がきており、センターとして产学官連携推進の観点からも協力を行っていきたい。

③ 信越化学工業（株）磁性材料研究所 本島正勝 顧問（前所長）

工業教育、技術教育は日本のものづくりの基本であり、その中で高専の果たす役割が非常に大きいといえる。全国の高専の中で福井高専は、非常に良くやっており感謝したい。先ほどロボコン大会が高専のブランドづくり、イメージアップに有効なイベントであるとの指摘があったが、その意義は、おそらく研究活動とも共通するが、実際にやってみて、失敗や欠陥があれば、改善、改良する点にあると思う。このような過程を一連で実際に体験できる機会は意外と少ないのでないか。ものづくりや研究開発の基本は、自分でやってみて、その結果をみて問題点を直していくところにあり、この経験が大事である。このような経験を積んでいることが社会に出てから役に立つといえる。ロボコン以外にも学生がそのようなことが体験できる機会をいろいろ考えて、柔軟性や多様性をもった学生を育てることに今後とも努力してほしい。

④ （株）福井新聞社 山下裕己 論説主幹

全体的な評価としては、他の委員の皆さんと同様に福井高専は大変よくやっていると思う。昨年も福井高専の活動状況を聞いて圧倒された覚えがある。本科の卒業生の約半数が就職し、そのうち県内就職が約46%とのことで、かなり多くの卒業生が福井という地域で生活をして

いくことになるので、学生に対してもう少し地域に関わる活動、例えば福井大学や仁愛大学の学生が熱心に取り組んでいる「まちおこし」や「まちづくり」の活動のようなものを奨励していただきたいと思う。地域活動、社会活動というのは、基本的には家庭でやることで、学校がそこまでやる必要はないという考え方もあるかもしれないが、5年間の担任制というシステムの中で学生に対して指導してもらえるとありがたい。

⑤ 鮎江商工会議所 野村一榮 会頭

福井高専がこの地にあるということは、地元にとても大きな財産があるということだと思っている。私の悩みの一つとして、伝統産業の後継者が近年どんどん少なくなっていることがある。高専を卒業して大企業に就職することも良いが、中小企業にいる方が、ものづくりの面白さ、楽しみがあり、本当に力を発揮できるともいえる。福井高専には、ものづくり教育を通して、一人でも多くの卒業生が地元に定着するようにしていただけるとありがたいと思っている。

⑥ 鮎江市小中学校校長会 岸松茂 副会長（鮎江市中央中学校長）

子どもたちを送り出している立場からは、福井高専が5年までの担任制度や学生相談体制の充実を図り、学生に対してきめ細かな指導を行っていることを知り感謝したい。私としては、福井高専が今後とも子ども達に夢を与える学校であってほしいし、地域住民の自慢となる学校であり続けてほしいと思う。今後、鮎江市内や県内の校長会議で機会があれば高専の良さを伝えていきたい。我々の立場としては、本当に意欲を持って真面目に一生懸命頑張る子どもを高専に送りたいと思っているので、高専も責任をもって、受け入れた子どもたちが心身とも健康で充実した学校生活を送れるようにしてほしい。

⑦ 福井大学 中川英之 副学長

私からは、全般的な講評をさせていただく。一つは、地域連携アカデミアとの関係をより強化して、教育面での連携を推進していただきたい。産業界との連携といつても、実際の具体化は案外難しく、企業から講師を招き講演会を行う、企業の実験設備を利用させてもらう程度になるかもしれないが、もう少し高専と地元企業とが融合した形での教育体制の具体化、教育課程に組み込むことも検討していただきたい。また、工学系の学生にはインターンシップが非常に重要であり、受け入れ企業をいかに確保していくのかが重要である。本科生については、人数が多いため地元企業だけでというわけにはいかない状況であるが、地元企業についても受け入れ先として積極的に開拓していただきたい。教育面に関しては、色々な点で工夫、努力されており、素晴らしいものだと思うが、特に作文指導、TOEICへの対応、創造性教育、物質工学科における報告書作成技術の向上のための年次的な取り組み、PBL型授業などは素晴らしい取り組みでありこれからも力を入れてやっていただきたい。Moodleへアクセスする環境整備も行われているが、このような学習支援策、Web応用、コンピュータを使った学習支援は学生の自学自習を促すものとして積極的に展開していただきたい。キャリア教育に関しては、高専も大学も同じであるが、学校としてしっかりとキャリア教育を行うことが必要である。キャリア教育の内容、目的、目標が明確になっているのか、単なる就職指導ではなく、学生が卒業後どのように自分のキャリアを形成していくのかというところの基礎を教育する必要があり、今後ともしっかりと取り組んでほしい。共同研究、受託研究、科学研究費等の外部資金

の獲得が減少傾向にある。景気の落ち込みなど世の中の状勢も関係あると思うが、回復に向けて努力してほしい。女子学生の受け入れは、日本の産業構造の点からも必要なことなので積極的に進めてほしい。4年次編入学の募集が行われているが、高専と高校の教育体系はかなり異なっており、違った経験の学生が同じ場で学び会うことは、多様性の導入の面からも非常に重要である。高専に編入できる制度があることを高校生はほとんど知らないと思うので、入試広報にも力を入れていただきたい。国際化への対応については、教育・研究の面からも非常に重要な要素である。寮の整備も進んでいることから、留学生が現在9名のことであるが、その倍ぐらいになっても良いのではないか。日本人学生にとっても非常に良い影響がある。メンタルヘルスについては、継続的に取り組んでいく必要がある。打たれ弱い学生が増えているとの話があつたが、学生との信頼関係を確立して、専門家も交えてメンタルヘルス対策にしっかりと取り組んでほしい。ここ数年で施設の改修整備がかなり進んでいるが、中味についても更に立派なものとなるようしていただきたい。今年度から第Ⅱ次中期計画期間が開始となり、福井高専は年度のアクションプランを作成し着実に取り組もうとしている。今年度の進捗状況によれば、非常に頑張っていることが分かり、教職員にとって過重労働となるおそれが指摘されたが、その点については教職員間の協働関係の確立でかなり違ってくるのではないかと思う。平成26年からの第Ⅲ次中期計画の時点では、高専の在り方や高度化再編などを含めて大きな変化が予想される。その時には福井高専として、独自の路線が提案できるような強さを持っていていただきたい。総論としては、非常に素晴らしい努力していると思うので、今後も努力を重ねてますます素晴らしい福井高専にしていただきたい。

以上

#### 4. JABEEへの取り組み

日本技術者教育認定制度とは、大学などの高等教育機関で実施されている技術者教育プログラムが、社会の要求水準を満たしているかどうかを外部機関が公平に評価し、要求水準を満たしている教育プログラムを認定する専門認定(Professional Accreditation)制度であり、日本では、非政府団体である日本技術者教育認定機構(JABEE:Japan Accreditation Board for Engineering Education/設立1999年11月19日)が、技術系学協会と密接に連携しながら技術者教育プログラムの審査・認定を行っている。JABEEは、技術者教育の質的同等性を国境を越えて相互に承認し合う国際的な協定「ワシントンコード」に正式加盟しているため、JABEE認定教育プログラムの修了生は国際的に認められることになる。また、国内では技術士一次試験が免除され修習技術者となり、最短でプログラム修了後4年で技術士二次試験を受験できる。

本校では、本科5学科の4,5年と専攻科2専攻の教育課程を複合した「環境生産システム工学」を定義して、工学(融合複合・新領域)関連分野で認定審査を受審し認定され、2004年度専攻科修了生から認定プログラム修了生を社会に送り出している。認定には有効期間があるため、その都度受審(2006年に中間審査、2009年に継続審査)し、認定を継続させていく。「環境生産システム工学」の特徴は、「ものづくり・環境づくり」能力の修得を掲げているところにある。この意味するところは、異なる技術分野の知識を積極的に吸収し、ものの使

い方や使われ方が社会や自然環境に及ぼす影響にも考慮して、構造物や製品をデザインでき、多様化した社会に対応できる実践的な技術者を育成することである。

認定プログラムは、社会の要求や学生の要望を取り入れて、継続的に教育改善がなされなければならない。「環境生産システム工学」プログラムも、認定当初は5つの大項目と35個の小項目からなる学習・教育目標を掲げていたが、継続審査を受審するときに小項目を32個にし、来年度からは、大項目の文言を修正するとともに小項目を20個にしてわかりやすくし、プログラム関係者（本校教職員、学生）や社会に対して、本プログラムの目指すところを周知しやすくすることを決めている。また、来年度からは専攻科カリキュラムにおいてエンジニアリング・デザイン教育の充実、英語教育の強化を実施することを計画している。

2012年度に中間審査を受審することになっており、認定を継続していくことはもちろん、社会の変化に対応した教育改善を常に行っていける教育システムの構築を継続的に行っていく所存である。



# X V. 資 料 一 覧

## 科学研究費補助金採択一覧

【 上段 : 件数, 下段 : 金額(千円) 】

| 区分       | 19年度   |       | 20年度   |       | 21年度   |       | 22年度  |       |
|----------|--------|-------|--------|-------|--------|-------|-------|-------|
|          | 直接費    | 間接費   | 直接費    | 間接費   | 直接費    | 間接費   | 直接費   | 間接費   |
| 特定領域研究   |        |       |        |       |        |       |       |       |
| 特別研究促進費  | 1      | 0     | 0      | 0     | 0      | 0     | 0     | 0     |
|          | 5,200  | 0     | 0      | 0     | 0      | 0     | 0     | 0     |
| 基盤研究 (A) | 0      | 0     | 0      | 0     | 0      | 0     | 0     | 0     |
|          | 0      | 0     | 0      | 0     | 0      | 0     | 0     | 0     |
| 基盤研究 (B) | 1      | 1     | 1      | 1     | 1      | 1     | 1     | 1     |
|          | 1,700  | 510   | 6,300  | 1,890 | 2,700  | 810   | 1,600 | 480   |
| 基盤研究 (C) | 5      | 7     | 6      | 6     | 6      | 6     | 3     | 3     |
|          | 7,000  | 2,100 | 7,400  | 2,220 | 6,000  | 1,800 | 4,200 | 1,260 |
| 萌芽研究     | 2      | 0     | 0      | 0     | 0      | 0     | 0     | 0     |
|          | 1,200  | 0     | 0      | 0     | 0      | 0     | 0     | 0     |
| 若手研究 (A) | 0      | 0     | 0      | 0     | 0      | 0     | 0     | 0     |
|          | 0      | 0     | 0      | 0     | 0      | 0     | 0     | 0     |
| 若手研究 (B) | 6      | 1     | 1      | 1     | 1      | 1     | 1     | 1     |
|          | 4,600  | 0     | 500    | 150   | 1,200  | 360   | 900   | 270   |
| 計        | 15     | 9     | 8      | 8     | 8      | 8     | 5     | 5     |
|          | 19,700 | 2,610 | 14,200 | 4,260 | 9,900  | 2,970 | 6,700 | 2,010 |
|          | 22,310 |       | 18,460 |       | 12,870 |       | 8,710 |       |

科学研究費補助金採択一覧

| 研究科目   |         |         |       | 申請額<br>(直接費/間接費) |                  |                                         |                                      | 研究課題 |  |
|--------|---------|---------|-------|------------------|------------------|-----------------------------------------|--------------------------------------|------|--|
| 平成19年度 | 基盤研究(B) | 機械工学科   | 教授    | 安丸尚樹             | 1,700            | 510                                     | フェムト秒レーザーによる超低摩擦・局部導電性ナノ構造炭素薄膜の開発研究  |      |  |
|        | 基盤研究(C) | 一般科目    | 教授    | 太田泰雄             | 600              | 180                                     | 地すべり地の粘土層生成機構の解剖と観察に関する研究            |      |  |
|        | 基盤研究(C) | 一般科目    | 准教授   | 長水壽寛             | 500              | 150                                     | 新たな数学教育を推進するためのかキュラムおよび評価に関する実証的な研究  |      |  |
|        | 機械工学科   | 教授      | 加藤寛敬  | 1,600            | 480              | 摩擦を利用したナノ結晶微細構造表面膜の創製とそのトイドロジー特性評価      |                                      |      |  |
|        | 環境都市工学科 | 教授      | 山田幹雄  | 2,200            | 660              | 浚渫土および廃石膏ボード粉を活用した袋詰め固化物の剛性評価と構築路床への適用策 |                                      |      |  |
|        | 環境都市工学科 | 准教授     | 吉田雅穂  | 2,100            | 630              | カーボンストックによる丸太打設による地盤の液状化対策技術の開発         |                                      |      |  |
|        | 萌芽研究    | 校長      | 駒井謙治郎 | 600              | 1                | フェムト秒レーザーによるダイヤモンド状炭素膜のナノ構造制御とセロ磨耗面の実現  |                                      |      |  |
|        | 若手研究(B) | 電子情報工学科 | 教授    | 前川公男             | 600              | 1                                       | 月からエコーを聞く出前授業の実現による科学教育の新規展開         |      |  |
|        | 若手研究(B) | 環境都市工学科 | 准教授   | 小林秀紹             | 1,200            | 1                                       | 慢性疲労と抑うつの個人差を規定する遺伝子と神経・内分泌系ハラメータの解析 |      |  |
|        | 若手研究(B) | 環境都市工学科 | 講師    | 辻野和彦             | 1,000            | 1                                       | 福井県丹南地域における土砂災害対策支援GSIの構築            |      |  |
| 平成20年度 | 環境都市工学科 | 准教授     | 辻子裕二  | 600              | 1                | 災害による線被・根系の時系列変化に応じた地盤の広域ハサード評価法の構築     |                                      |      |  |
|        | 一般科目    | 准教授     | 瀬川直美  | 400              | 1                | 高専生の語彙学習における、学習方法の違いに起因する学習意欲とその効果の検証   |                                      |      |  |
|        | 物質工学科   | 准教授     | 松井栄樹  | 800              | 1                | 外部配位による新規π電子色素集積体の設計と機能制御               |                                      |      |  |
|        | 一般科目    | 講師      | 森 芳周  | 600              | 1                | 胚、胎児に関する倫理的議論の再構築－人格か否かという議論を超えて－       |                                      |      |  |
|        | 特別研究促進費 | 一般科目    | 教授    | 荻野繁春             | 5,200            | 1                                       | 中世考古資料の電子化による分析データベース化に関する研究         |      |  |
|        | 合計      |         |       | 15件              | 19,700           | 2,610                                   |                                      |      |  |
|        |         |         |       |                  | 22,310           | 1                                       |                                      |      |  |
|        | 研究科目    | 所 属     | 職 名   | 氏 名              | 申請額<br>(直接費/間接費) | 1                                       | 研究課題                                 |      |  |
|        | 基盤研究(B) | 機械工学科   | 教授    | 安丸尚樹             | 6,300            | 1,890                                   | フェムト秒レーザー援用ナノ構造硬質薄膜による次世代表面設計技術の開発研究 |      |  |
|        | 基盤研究(C) | 一般科目    | 教授    | 長水壽寛             | 600              | 180                                     | 新たな数学教育を推進するためのかキュラムおよび評価に関する実証的な研究  |      |  |
| 平成21年度 | 機械工学科   | 教授      | 加藤寛敬  | 900              | 270              | 摩擦を利用したナノ結晶微細構造表面膜の創製とそのトイドロジー特性評価      |                                      |      |  |
|        | 環境都市工学科 | 教授      | 山田幹雄  | 700              | 210              | 浚渫土および廃石膏ボード粉を活用した袋詰め固化物の剛性評価と構築路床への適用策 |                                      |      |  |
|        | 環境都市工学科 | 准教授     | 吉田雅穂  | 1,100            | 330              | カーボンストックを目的とした丸太打設による地盤の液状化対策技術の開発      |                                      |      |  |
|        | 環境都市工学科 | 教授      | 坪川武弘  | 1,300            | 390              | 気候変動の数理モデルを題材とした数学教材の調査と開発              |                                      |      |  |
|        | 環境都市工学科 | 准教授     | 辻子裕二  | 2,500            | 750              | 豊かな保水性のもとに植生の自然治癒力を最大限に活かす表層崩壊斜面の安定処理策  |                                      |      |  |
|        | 一般科目    | 准教授     | 北浦 守  | 300              | 90               | 二価マンガンイオンを用いた希土類光気体代替材料の量子材料設計          |                                      |      |  |
|        | 若手研究(B) | 一般科目    | 講師    | 森 芳周             | 500              | 150                                     | 胚、胎児に関する倫理的議論の再構築－人格か否かという議論を超えて－    |      |  |
|        | 合計      |         |       | 9件               | 14,200           | 4,260                                   |                                      |      |  |
|        |         |         |       |                  |                  | 18,460                                  |                                      |      |  |

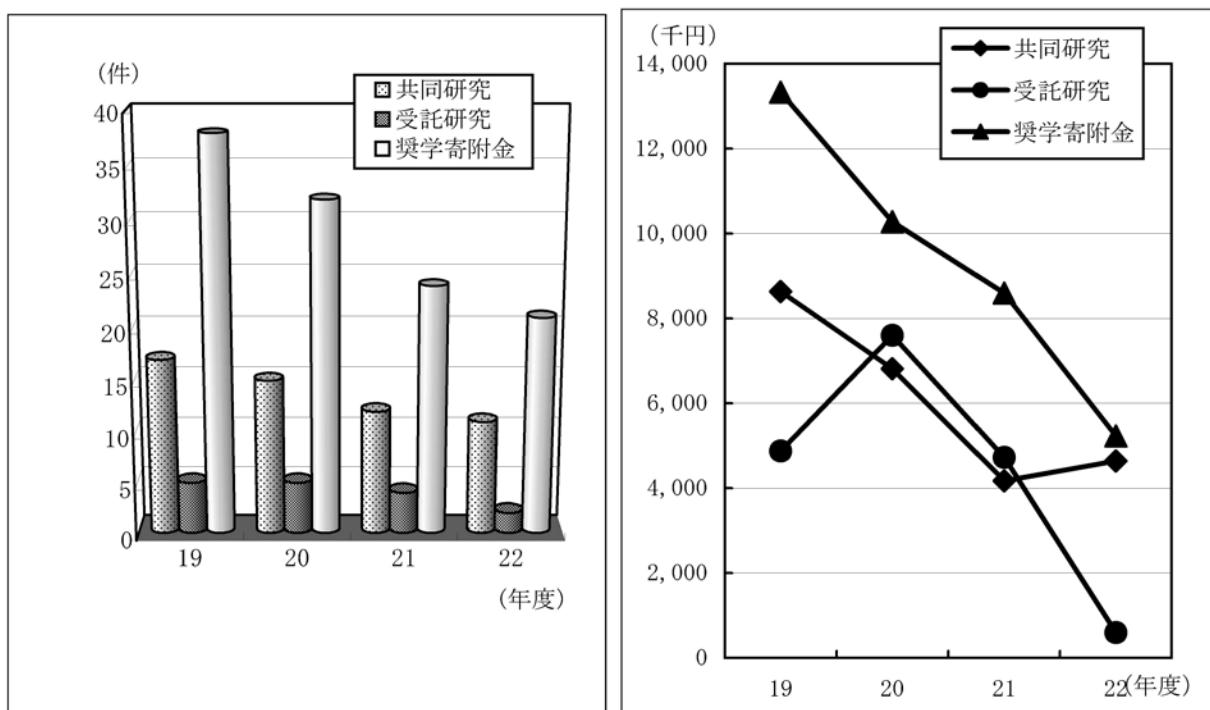
| 研究科目       |                    |       |      |       | 研究課題  |           |                                         |                                      |  |
|------------|--------------------|-------|------|-------|-------|-----------|-----------------------------------------|--------------------------------------|--|
| 平成21年<br>度 | 基礎研究(B)<br>基礎研究(C) | 所     | 属    | 職名    | 氏名    | (直接費/間接費) |                                         | 申請額                                  |  |
|            |                    | 機械工学科 | 教授   | 安丸尚樹  | 2,700 | 810       |                                         | 7エムト秒レーザー援用ナノ構造硬質薄膜による次世代表面設計技術の開発研究 |  |
|            |                    | 一般科目  | 教授   | 長水壽寛  | 600   | 180       |                                         | 新たな数学教育を推進するためのかキュラムおよび評価に関する実証的な研究  |  |
|            |                    | 機械工学科 | 教授   | 加藤寛敬  | 800   | 240       |                                         | 摩擦を利用したナノ結晶微細構造表面膜の創製とそのライドロジ一特性評価   |  |
|            | 環境都市工学科            | 教授    | 山田幹雄 | 500   | 150   |           | 浚渫土および砕石膏ボード粉を活用した袋詰め固化物の剛性評価と構築路床への適用策 |                                      |  |
|            |                    | 教授    | 坪川武弘 | 900   | 270   |           | 気候変動の数理モデルを題材とした数学教材の調査と開発              |                                      |  |
|            |                    | 准教授   | 辻子裕二 | 700   | 210   |           | 豊かな保水性のものとに植生の自然治癒力を最大限に活かす表層崩壊斜面の安定処理策 |                                      |  |
|            |                    | 准教授   | 北浦 守 | 2,500 | 750   |           | 二価マンガンイオンを用いた希土類螢光体代替材料の量子材料設計          |                                      |  |
|            |                    | 助教    | 奥田篤士 | 1,200 | 360   |           | 学生実験指導における効果的な動画教材作成と評価の研究              |                                      |  |
| 合 計        |                    |       |      | 8件    | 9,900 | 2,970     |                                         | 12,870                               |  |
| 平成22年<br>度 | 研究科目               |       |      |       |       | (直接費/間接費) |                                         | 申請額                                  |  |
|            | 基礎研究(B)<br>基礎研究(C) | 機械工学科 | 教授   | 安丸尚樹  | 1,600 | 480       |                                         | 7エムト秒レーザー援用ナノ構造硬質薄膜による次世代表面設計技術の開発研究 |  |
|            |                    | 一般科目  | 教授   | 坪川武弘  | 900   | 270       |                                         | 気候変動の数理モデルを題材とした数学教材の調査と開発           |  |
|            | 環境都市工学科            | 教授    | 加藤寛敬 | 1,700 | 510   |           | 摩擦表層のライドマテラジーとその応用                      |                                      |  |
|            |                    | 准教授   | 吉田雅穂 | 1,600 | 480   |           | 温暖化対策と林業活性化に貢献する間伐材を用いた地盤補強技術の開発        |                                      |  |
|            |                    | 助教    | 奥田篤士 | 900   | 270   |           | 学生実験指導における効果的な動画教材作成と評価の研究              |                                      |  |
|            |                    | 合 計   |      | 5件    | 6,700 | 2,010     |                                         | 8,710                                |  |

## 外部資金受入一覧

【単位：件、千円】

| 区分    | 19年度 |        | 20年度 |        | 21年度 |        | 22年度 |        |
|-------|------|--------|------|--------|------|--------|------|--------|
|       | 件数   | 金額     | 件数   | 金額     | 件数   | 金額     | 件数   | 金額     |
| 共同研究  | 17   | 8,635  | 15   | 6,812  | 12   | 4,170  | 11   | 4,642  |
| 受託研究  | 5    | 4,873  | 5    | 7,602  | 4    | 4,725  | 2    | 600    |
| 奨学寄附金 | 38   | 13,331 | 32   | 10,276 | 27   | 9,500  | 21   | 5,228  |
| 計     | 60   | 26,839 | 52   | 24,690 | 43   | 18,395 | 34   | 10,470 |

※平成22年12月31日現在



## 民間等との共同研究受入一覧

| 年度         | 研究題目                                                       | 申請企業              | 研究担当教員                    | 研究期間                 | 受入金額      |
|------------|------------------------------------------------------------|-------------------|---------------------------|----------------------|-----------|
| 19年度<br>97 | 脱地球温暖化社会へ向けた建設工事への木材利用に関する調査・研究                            | (財)福井県建設技術公社      | 環境都市工学科 准教授 吉田雅穂          | 平成19.5.22～平成20.3.21  | 1,000,000 |
|            | 次世代光源の開発                                                   | ハリソン東芝ライティング㈱     | 電子情報工学科 教授 井上昭浩           | 平成19.6.30～平成20.3.31  | 1,000,000 |
|            | 無電源動作交流電圧検知器の開発                                            | 株式会社 カワチュウ        | 電気電子工学科 教授 原田 望           | 平成19.7.11～平成20.3.31  | 400,000   |
|            | ナノカーボンを用いた水素センサーの開発                                        | 日東シンコー株式会社        | 電気電子工学科 教授 川本 昴           | 平成19.7.26～平成20.9.30  | 1,200,000 |
|            | シリコン端材を利用した低コスト太陽電池ペネルの試作研究                                | 川崎産業株式会社          | 電気電子工学科 准教授 山本幸男          | 平成19.8.30～平成20.3.31  | 300,000   |
|            | 森林の影響を考慮した自然斜面崩壊の力学的メカニズムに関する基礎的研究                         | 豊橋技術科学大学          | 環境都市工学科 准教授 辻子裕二          | 平成19.8.1～平成20.3.31   | 300,000   |
|            | スマートマイクロチップデバイスを用いた微生物検査チップの研究                             | 豊橋技術科学大学          | 物質工学科 准教授 高山勝己            | 平成19.8.1～平成20.3.31   | 450,000   |
|            | 細胞損傷・細胞死の進行過程の多面的解析法の開発                                    | 豊橋技術科学大学          | 物質工学科 講師 川村敏之             | 平成19.8.1～平成20.3.31   | 300,000   |
|            | 衛星画像を用いた地震による道路被害早期把握に関する研究                                | 豊橋技術科学大学          | 環境都市工学科 講師 辻野和彦           | 平成19.8.1～平成20.3.31   | 300,000   |
|            | (Ba, Sr)Al <sub>2</sub> O <sub>4</sub> :Eu,Dy系高輝度夜光塗料顔料の開発 | 長岡技術科学大学          | 一般科目教室 准教授 北浦 守           | 平成19.7.2～平成20.3.31   | 200,000   |
|            | 信頼に裏付けられた高専との連携研究室構想の準備                                    | 長岡技術科学大学          | 物質工学科 准教授 西野純一            | 平成19.7.2～平成20.3.31   | 200,000   |
|            | 技大・高専連携による地域自然災害危険度の調査と防災コンテンツの整備                          | 長岡技術科学大学          | 環境都市工学科 准教授 吉田雅穂          | 平成19.7.2～平成20.3.31   | 175,000   |
|            | 圧電トランസを電極に用いたオゾン発生装置において、発生効率の向上方法と加圧(1MPa)オゾン作製方法を探る      | 株式会社 エコ・プランナー     | 環境都市工学科 准教授 奥村充司          | 平成19.11.16～平成20.2.28 | 120,000   |
|            | 有機リシン加水分解酵素表層発現酵母を用いた有機リシン農葉検査法の開発                         | (財)若狭湾エネルギー研究センター | 物質工学科 准教授 高山勝己            | 平成19.11.22～平成20.2.29 | 1,390,050 |
|            | タッチャーペネルセンサの高機能化                                           | 東芝電子エンジニアリング㈱     | 電気電子工学科 教授 原田 望           | 平成19.12.29～平成20.3.31 | 300,000   |
|            | 機能面及びデザイントレンドを考慮したメガネ等のデザイン開発                              | 鯖江商工会議所           | 地域連携テクノセンター<br>セシター長 加藤省三 | 平成20.1.23～平成20.3.1   | 700,000   |
|            | トロアオイ保存剤の効率的使用方法並びに代替品の研究                                  | 福井県和紙工業組合         | 物質工学科 教授 上嶋晃智             | 平成20.3.1～平成20.3.31   | 300,000   |
|            |                                                            | 17件               |                           |                      | 8,635,050 |

| 年度   | 研究題目                                                       | 申請企業              | 研究担当教員                           | 研究期間                | 受入額(円)    |
|------|------------------------------------------------------------|-------------------|----------------------------------|---------------------|-----------|
|      | ナノカーボンを用いた水素センサーの開発                                        | 日東シンコーエヌコム株式会社    | 電気電子工学科 教授 川本 昴                  | 平成19.7.26～平成20.9.30 | 800,000   |
|      | 木タールを添加した再生アスファルト舗装材の研究開発                                  | (財)福井県建設技術公社      | 環境都市工学科 教授 武井幸久<br>物質工学科 教授 小泉貞之 | 平成20.4.17～平成21.3.19 | 1,000,000 |
|      | タッチャーパネルセシサの高機能化                                           | 東芝電子エンジニアリング㈱     | 電気電子工学科 教授 原田望                   | 平成20.5.1～平成20.9.30  | 300,000   |
|      | 交流電圧検出回路の研究                                                | 株式会社 カワチュウ        | 電気電子工学科 教授 原田望                   | 平成20.6.3～平成21.3.31  | 250,000   |
|      | 機能面及びデザイントレンドを考慮したメガネ等のデザイン開発                              | 鮭江商工会議所           | 地域連携テクノセンター<br>セシナー長 加藤省三        | 平成20.7.1～平成21.3.28  | 700,000   |
|      | 有機リシン加水分解酵素表層発現酵母を用いた有機リシン農薬検査法の開発                         | (財)若狭湾エネルギー研究センター | 物質工学科 准教授 高山勝己                   | 平成20.7.4～平成21.2.28  | 1,387,850 |
|      | (Ba, Sr)Al <sub>2</sub> O <sub>4</sub> :Eu,Dy系高輝度夜光塗料顔料の開発 | 長岡技術科学大学          | 一般科目教室 准教授 北浦守                   | 平成20.7.25～平成21.3.31 | 250,000   |
|      | 最先端ICT活用PBL型教育による高専・大学統合教育の質向上に関する研究                       | 長岡技術科学大学          | 電子情報工学科 助教 奥田篤士                  | 平成20.7.25～平成21.3.31 | 100,000   |
| 20年度 | 加工を利用した構造用金属材料の組織と力学特性の制御                                  | 豊橋技術科学大学          | 機械工学科 教授 加藤寛敬                    | 平成20.8.1～平成21.2.28  | 270,000   |
|      | コロイド滴定法を用いた生物由来産業廃棄物の表面電荷評価と新たな環境浄化剤の創製                    | 豊橋技術科学大学          | 物質工学科 教授 小泉貞之                    | 平成20.8.1～平成21.2.28  | 360,000   |
|      | スマートマイクロチップデバイスを用いた医療・生物・農業検査チップの研究                        | 豊橋技術科学大学          | 物質工学科 准教授 高山勝己                   | 平成20.8.1～平成21.2.28  | 270,000   |
|      | 分子動力学計算による生体高分子の機能解析                                       | 豊橋技術科学大学          | 物質工学科 助教 佐々和洋                    | 平成20.8.1～平成21.2.28  | 450,000   |
|      | 森林の影響を考慮した自然斜面崩壊の力学的メカニズムに関する基礎的研究                         | 豊橋技術科学大学          | 環境都市工学科 准教授 辻子裕二                 | 平成20.8.1～平成21.2.28  | 270,000   |
|      | 衛星画像を用いた地盤による道路被害早期把握に関する研究                                | 豊橋技術科学大学          | 環境都市工学科 講師 辻野利彦                  | 平成20.8.1～平成21.2.28  | 270,000   |
|      | 技術者教育としての課外活動の可能性の提示と教育メソッドの開発                             | 豊橋技術科学大学          | 環境都市工学科 助教 江本晃美                  | 平成20.8.1～平成21.2.28  | 135,000   |
|      | 計                                                          | 15件               |                                  |                     | 6,812,850 |

| 年度                                      | 研究題目                                 | 申請企業                                          | 研究担当教員                           | 研究期間                | 受入額(円)    |
|-----------------------------------------|--------------------------------------|-----------------------------------------------|----------------------------------|---------------------|-----------|
| 21年度<br>99                              | 木タールを添加した再生アスファルト舗装材の研究開発            | (財)福井県建設技術公社<br>機能面及びデザイントレンドを考慮したメガネ等のデザイン開発 | 環境都市工学科 教授 武井幸久<br>物質工学科 教授 小泉貞之 | 平成21.5.20～平成22.3.26 | 1,000,000 |
|                                         | メタバースを利用した高専・大学統合型協調プロジェクトベース学習手法の研究 | 鮭江商工会議所                                       | 地域連携テクノセンター長 山田幹雄                | 平成21.7.1～平成22.2.28  | 700,000   |
|                                         | 有害残留農薬分解除去システムの基盤構築                  | 長岡技術科学大学                                      | 電子情報工学科 助教 奥田篤士                  | 平成21.7.24～平成22.3.31 | 100,000   |
|                                         | 超強加工した金属材料の力学特性・磨耗特性の解明              | 長岡技術科学大学                                      | 物質工学科 准教授 高山勝己                   | 平成21.8.3～平成22.2.28  | 280,000   |
|                                         | インテリジェント医療・生物・農薬検査センサデバイスとの応用研究      | 豊橋技術科学大学                                      | 機械工学科 教授 加藤寛敬                    | 平成21.8.3～平成22.2.28  | 270,000   |
|                                         | セラミック蛍光体を添加したLED封止用樹脂の開発             | 豊橋技術科学大学                                      | 物質工学科 准教授 高山勝己                   | 平成21.8.3～平成22.2.28  | 270,000   |
|                                         | 機能性バイオ・ナノ材料の分子シミュレーション解析             | 豊橋技術科学大学                                      | 一般科目教室 准教授 北浦守                   | 平成21.8.3～平成22.2.28  | 270,000   |
|                                         | 技術者教育としての課外活動の可能性の提示と「人間力」養成メソッドの開発  | 豊橋技術科学大学                                      | 物質工学科 助教 佐々和洋                    | 平成21.8.3～平成22.2.28  | 270,000   |
|                                         | 衛星画像を用いた地震による道路被害早期把握に関する研究          | 豊橋技術科学大学                                      | 環境年工学科 助教 江本晃美                   | 平成21.8.3～平成22.2.28  | 200,000   |
|                                         | 森林の影響を考慮した自然斜面崩壊の力学的メカニズムに関する基礎的研究   | 豊橋技術科学大学                                      | 環境年工学科 講師 辻野和彦                   | 平成21.8.3～平成22.2.28  | 270,000   |
| コロイド滴定法を用いた生物由来産業廃棄物の表面電荷評価と新たな環境浄化剤の創製 |                                      | 豊橋技術科学大学                                      | 環境都市工学科 准教授 辻子裕                  | 平成21.8.3～平成22.2.28  | 270,000   |
| 計                                       |                                      | 12件                                           |                                  |                     | 4,170,000 |

| 年度   | 研究題目                                    | 申請企業                         | 研究担当教員                                                 | 研究期間                | 受入額(円)    |
|------|-----------------------------------------|------------------------------|--------------------------------------------------------|---------------------|-----------|
|      | 河川等の水位表示方法と表示装置及び構築用ブロックの開発             | 丸高コンクリート工業(株)                | 電気電子工学科 准教授 来田知晃<br>電子情報工学科 助教 奥田萬士<br>環境都市工学科 准教授 斎野和 | 平成22.5.1～平成23.3.31  | 700,000   |
|      | 木タールを添加した再生アスファルト舗装材の研究開発               | (財)福井県建設技術公社                 | 環境都市工学科 教授 武井幸久<br>物質工学科 教授 小泉真之                       | 平成22.5.11～平成23.3.25 | 1,000,000 |
|      | 高効率燃料の開発                                | (株)ウイングシステム                  | 物質工学科 教授 小泉真之<br>機械工学科 教授 藤田克志                         | 平成22.5.17～平成23.3.31 | 500,000   |
|      | 有用なセルラーゼ生成トリコデルマ菌の探索と有効利用に関する調査研究       | 関西電力(株)研究開発室<br>エネルギー利用技術研究所 | 物質工学科 教授 吉村忠興;                                         | 平成22.5.20～平成23.3.31 | 369,600   |
| 22年度 | 機能面及びデザイントレンドを考慮したメガネ等のデザイン開発           | 鮭江商工会議所                      | 地域連携テクノセンター<br>センター長 山田幹雄                              | 平成22.5.21～平成23.2.28 | 700,000   |
|      | シミュレーション技術者育成を目指した教育手法と教材の開発            | 豊橋技術科学大学                     | 物質工学科 教授 吉村忠興;                                         | 平成22.7.1～平成23.3.15  | 100,000   |
|      | 強ひずみ加工により作製したサブミクロン結晶粒ノベルック<br>純Feの摩耗特性 | 豊橋技術科学大学                     | 機械工学科 教授 加藤寛敬                                          | 平成22.7.1～平成23.3.15  | 250,000   |
|      | 機能性バイオ・ナノ材料の分子シミュレーション解析                | 豊橋技術科学大学                     | 物質工学科 助教 佐々和洋                                          | 平成22.7.1～平成23.3.15  | 200,000   |
|      | 有機塩素系農薬に対する分解菌の探索と同定                    | 長岡技術科学大学                     | 物質工学科 准教授 高山勝己                                         | 平成22.7.23～平成23.3.31 | 300,000   |
|      | 砂浜海岸に流出する小規模河川の河口閉塞に関する<br>共同研究         | 長岡技術科学大学                     | 環境都市工学科 助教 田安正芳                                        | 平成22.7.23～平成23.3.31 | 250,000   |
|      | 電界とハイブリッド光源による植物の発芽・成長制御システムの開発         | 埴工ソニニアリング(株)                 | 電気電子工学科 教授 川本 昴                                        | 平成22.10.15～平成23.3.3 | 273,000   |
|      | 計                                       | 11件                          |                                                        |                     | 4,642,600 |

## 受託研究受入一覧

| 年度   | 研究題目                           | 委託者                                 | 研究担当教員              | 研究期間                      | 受入額(円)    |
|------|--------------------------------|-------------------------------------|---------------------|---------------------------|-----------|
| 19年度 | 長残光強光体の基礎的物性研究                 | NECライティング株式会社                       | 一般科目教室<br>准教授 北浦 守  | 平成19.8.11 ~<br>平成20.3.31  | 300,000   |
|      | 緑被の生長を阻害しない薬剤散布による表層地盤の安定化手法   | 独立行政法人科学技術振興機構<br>JSTイノベーションサテライト滋賀 | 環境都市工学科<br>准教授 辻子裕二 | 平成19.7.20 ~<br>平成20.3.31  | 1,962,000 |
|      | 歟害対策支援のための地理情報システムの開発          | 独立行政法人科学技術振興機構<br>JSTイノベーションサテライト滋賀 | 環境都市工学科<br>講師 辻野和彦  | 平成19.7.20 ~<br>平成20.3.31  | 1,944,800 |
|      | 越前和紙の技法とセルロースグル等を活用した低収縮性和紙の開発 | 財団法人若狭湾エネルギー研究センター                  | 物質工学科<br>教 授 上島晃智   | 平成19.9.21 ~<br>平成20.2.29  | 506,656   |
|      | シリコンウェハーの高精度研磨・研削技術の開発         | 若狭技研工業株式会社                          | 電子情報工学科<br>助 教 西 仁司 | 平成19.12.15 ~<br>平成20.2.28 | 160,000   |
| 20年度 | 合計                             | 5件                                  |                     |                           | 4,873,456 |
|      | 子供向けプログラミング教材の評価と検証            | 株式会社 Jig. j p                       | 電子情報工学科<br>教 授 蘆田 昇 | 平成20.4.1 ~<br>平成21.3.31   | 260,000   |
|      | オンラインプログラミングコンテストの評価と検証        | 株式会社 Jig. j p                       | 電子情報工学科<br>講 師 西 仁司 | 平成20.4.1 ~<br>平成21.3.31   | 260,000   |
|      | 和紙事業所における安価な排水処理システム開発に関する研究   | 越前市                                 | 環境都市工学科<br>准教授 奥村充司 | 平成20.5.1 ~<br>平成21.3.31   | 200,000   |
|      | 持続可能な地域総合防除のための鳥獣害対策支援GISの開発   | 独立行政法人科学技術振興機構<br>産学連携事業本部          | 環境都市工学科<br>講 師 辻野和彦 | 平成20.7.10 ~<br>平成21.3.31  | 4,882,000 |
|      | 工場排水中の微量重金属検出－回収ハイブリッド技術の開発    | JSTイノベーションサテライト滋賀                   | 物質工学科<br>准教授 松井栄樹   | 平成20.8.8 ~<br>平成21.3.31   | 2,000,000 |
|      | 合計                             | 5件                                  |                     |                           | 7,602,000 |

| 年度   | 研究題目                           | 委託者                              | 研究担当教員                                   | 研究期間                      | 受入額(円)    |
|------|--------------------------------|----------------------------------|------------------------------------------|---------------------------|-----------|
| 21年度 | 和紙事業所における安価な排水処理システム開発に関する研究   | 越前市                              | 環境都市工学科<br>准教授 奥村充司                      | 平成21.4.15 ~<br>平成22.3.31  | 200,000   |
|      | カーボンナノチューブを用いた脳波電極の開発          | 独立行政法人科学技術振興機構<br>JSTイバショウテライト滋賀 | 電気電子工学科<br>教授 川本 昴                       | 平成21.8.22 ~<br>平成22.3.31  | 2,000,000 |
|      | 有機色素クラスター形成による高効率金属検出－凝集技術の開発  | 独立行政法人科学技術振興機構<br>JSTイバショウテライト滋賀 | 物質工学科<br>准教授 松井栄樹                        | 平成21.8.22 ~<br>平成22.3.31  | 2,000,000 |
|      | 越前岬水仙ランド再整備構想策定                | 越前町                              | 環境都市工学科<br>教授 武井幸久<br>講師 辻野和彦<br>助教 江本晃美 | 平成21.9.17 ~<br>平成21.11.30 | 525,000   |
|      | 合 計                            | 4 件                              |                                          |                           | 4,725,000 |
|      | 竹粉の有効利活用に係る調査研究                | (株) サバエコンストラクト                   | 物質工学科<br>教授 小泉貞之                         | 平成22.7.20 ~<br>平成23.3.31  | 200,000   |
|      | 軟弱粘性土地盤における周面摩擦支持力丸太の開発と有効性の実証 | 兼松日産農林(株)                        | 環境都市工学科<br>准教授 吉田雅穂                      | 平成22.11.1 ~<br>平成23.2.28  | 400,000   |
| 合 計  |                                | 2 件                              |                                          |                           | 600,000   |

## 奨学寄附金受入一覧

| 年度   | 寄附金の名称                                        | 寄附の目的                               | 受入額(円)    | 寄附者名                 | 寄附者住所 |
|------|-----------------------------------------------|-------------------------------------|-----------|----------------------|-------|
|      | 教育研究奨励金<br>福井工業高等専門学校学生の学習・研究<br>及び課外活動の援助・助成 | 福井工業高等専門学校 教育後援会                    | 1,000,000 | 福井県鯖江市下司町            |       |
|      | 教育研究奨励金<br>物質工学科 西野純一准教授の研究助成<br>(科学技術に関する研究) | 財団法人内田エネルギー科学振興財団<br>(長岡技術科学大学から移換) | 546,784   | 新潟県三条市東新保7-7 株式会社ヨナ内 |       |
|      | 教育研究奨励金<br>環境都市工学科 山田幹雄教授の教育研究助成              | 株式会社吉勝重建                            | 500,000   | 福井県坂井市丸岡町城北6-48      |       |
|      | 教育研究奨励金<br>物質工学科 上島晃智教授の教育研究助成                | 福井県和紙工業協同組合                         | 250,000   | 福井県越前市大滝町11-11       |       |
|      | 教育研究奨励金<br>物質工学科 上島晃智教授の教育研究助成                | 福井県和紙工業協同組合                         | 150,000   | 福井県越前市大滝町11-11       |       |
|      | 教育研究奨励金<br>物質工学科 吉村忠與志教授の教育研究助成               | 福井県和紙工業協同組合                         | 500,000   | 福井県福井市毛矢3-2-4        |       |
|      | 教育研究奨励金<br>環境都市工学科 山田幹雄教授の教育研究助成              | 轟産業株式会社                             | 600,000   | 前田工織株式会社             |       |
|      | 教育研究奨励金<br>地域連携テクノセンターの教育研究奨励                 | 株式会社アタゴ                             | 20,000    | 福井県福井市みのり4-13-1      |       |
|      | 教育研究奨励金<br>地域連携テクノセンターの教育研究奨励                 | 株式会社ホクシン                            | 20,000    | 福井県福井市経田1-104        |       |
| 19年度 | 教育研究奨励金<br>地域連携テクノセンターの教育研究奨励                 | 東工シャッター株式会社                         | 20,000    | 福井県鯖江市熊田町1-100       |       |
|      | 教育研究奨励金<br>地域連携テクノセンターの教育研究奨励                 | 株式会社カワチユウ                           | 20,000    | 福井県越前市矢船町第15号10番地の9  |       |
|      | 教育研究奨励金<br>地域連携テクノセンターの教育研究奨励                 | 武生特殊鋼材株式会社                          | 20,000    | 福井県越前市四郎丸町21-2-1     |       |
|      | 教育研究奨励金<br>地域連携テクノセンターの教育研究奨励                 | 株式会社カズマ                             | 20,000    | 福井県福井市八重巻町105        |       |
|      | 教育研究奨励金<br>地域連携テクノセンターの教育研究奨励                 | 丸一調査設計株式会社                          | 60,000    | 福井県福井市開発町第20-6       |       |
|      | 教育研究奨励金<br>地域連携テクノセンターの教育研究奨励                 | 大和建設株式会社                            | 200,000   | 福井県越前市村国2-13-12      |       |
|      | 教育研究奨励金<br>地域連携テクノセンターの教育研究奨励                 | 株式会社ホコノ                             | 100,000   | 福井県越前市北府1-2-38       |       |
|      | 教育研究奨励金<br>地域連携テクノセンターの教育研究奨励                 | 株式会社福井銀行                            | 20,000    | 福井県福井市順化1-3-3        |       |
|      | 教育研究奨励金<br>環境都市工学科 辻子裕二准教授の教育研究奨励             | 株式会社田中地質コンサルント                      | 100,000   | 福井県越前市高2-324-7       |       |
|      | 教育研究奨励金<br>電子情報工学科 井上昭浩教授の教育研究奨励              | ハリソン東芝ライティング株式会社                    | 400,000   | 愛媛県今治市旭町5-2-1        |       |

| 年度 | 寄附金の名称  | 寄附の目的                           | 受入額(円)    | 寄附者名                  | 寄附者住所                        |
|----|---------|---------------------------------|-----------|-----------------------|------------------------------|
|    | 教育研究奨励金 | 地域連携テクノセンターの教育研究奨励              | 200,000   | 酒井化学工業株式会社            | 福井県鯖江市川去町32字2-1              |
|    | 教育研究奨励金 | 地域連携テクノセンターの教育研究奨励              | 1,000,000 | 信越化学工業株式会社 武生工場       | 福井県越前市北府2-1-5                |
|    | 教育研究奨励金 | 電気電子工学科 原田望教授の教育研究奨励            | 100,000   | 株式会社カワチユウ             | 福井県越前市矢船町第15号10番地9           |
|    | 教育研究奨励金 | 地域連携テクノセンターの教育研究奨励              | 20,000    | サカイオーベックス株式会社         | 福井県福井市花堂中2-15-1              |
|    | 教育研究奨励金 | 一般科目教室 山田孝徳講師の教育研究奨励            | 200,000   | 福井工業高等専門学校 一般科目教室山田孝徳 | 福井県福井市和田2-613                |
|    | 教育研究奨励金 | 地域連携テクノセンターの教育研究奨励              | 20,000    | 日東シンコー株式会社            | 福井県坂井市丸岡町舟寄110号1番地1          |
|    | 教育研究奨励金 | 電気電子工学科 川本昂教授の教育研究奨励            | 600,000   | 日東シンコー株式会社            | 福井県坂井市丸岡町舟寄110号1番地1          |
|    | 教育研究奨励金 | 福井工業高等専門学校の教育研究奨励               | 20,000    | 株式会社サンラックス            | 福井県鯖江市丸山町3-5-25              |
|    | 教育研究奨励金 | 福井工業高等専門学校の教育研究助成 及び課外活動の援助・助成  | 300,000   | 笹原 敬雄                 | 福井県あわら市温泉4-1033              |
|    | 教育研究奨励金 | 地域連携テクノセンターの教育研究奨励              | 1,000,000 | 福井工業高等専門学校 教育後援会      | 福井県福井市林町62号3番地               |
|    | 教育研究奨励金 | 福井工業高等専門学校学生の学習・研究 及び課外活動の援助・助成 | 100,000   | 丸文通商株式会社 福井支店         | 福井県鯖江市下司町                    |
|    | 教育研究奨励金 | 福井工業高等専門学校学生の学習・研究 及び課外活動の援助・助成 | 500,000   | 福井工業高等専門学校 教育後援会      | 福井県福井市下司町                    |
|    | 教育研究奨励金 | 電気電子工学科 新谷邦弘教授の教育研究奨励           | 80,000    | 財団法人中部電力基礎技術研究所       | 愛知県名古屋市中区新栄1-2-31 フロンティア新栄2階 |
|    | 教育研究奨励金 | 一般科目教室 北浦守准教授の教育研究奨励            | 66,500    | 財団法人中部電力基礎技術研究所       | 愛知県名古屋市中区新栄1-2-31 フロンティア新栄2階 |
|    | 教育研究奨励金 | 福井工業高等専門学校学生の学習・研究 及び課外活動の援助・助成 | 2,878,000 | 福井工業高等専門学校 教育後援会      | 福井県鯖江市下司町                    |
|    | 教育研究奨励金 | 電子情報工学科 井上昭浩教授の教育研究助成           | 400,000   | ハリソン東芝ライティング株式会社      | 愛媛県今治市旭町5-2-1                |
|    | 教育研究奨励金 | 電気電子工学科 川本昂教授の教育研究助成            | 400,000   | 日本システムバンク株式会社         | 福井県福井市中央3丁目5-21              |
|    | 教育研究奨励金 | 福井工業高等専門学校の教育研究助成               | 600,000   | 福井工業高等専門学校 教育後援会      | 福井県鯖江市下司町                    |
|    | 教育研究奨励金 | 環境都市工学科 奥村充司准教授の教育研究助成          | 300,000   | 株式会社エコ・プランナー          | 福井県福井市淵2丁目1811番地             |
|    | 計       |                                 | 38件       | 13,331,284            |                              |

| 年度   | 寄附金の名称  | 寄附の目的                | 受入額(円)    | 寄附者名            | 寄附者住所              |
|------|---------|----------------------|-----------|-----------------|--------------------|
| 20年度 | 教育研究奨励金 | 一般科目教室 北浦准教授の教育研究助成  | 1,426,500 | 財団法人日本硝子材料工学助成会 | 東京都港区三田3丁目5番27号    |
|      | 教育研究奨励金 | 物質工学科 松井栄樹准教授の教育研究助成 | 100,000   | 株式会社田中地質コンサルタント | 福井県越前市国高2-324-7    |
|      | 教育研究奨励金 | 地域連携テクノセンターの教育研究奨励   | 100,000   | 株式会社大虫電工        | 福井県越前市上太田町45-38    |
|      | 教育研究奨励金 | 地域連携テクノセンターの教育研究奨励   | 20,000    | 株式会社カワチュウ       | 福井県越前市矢船町第15号10番地9 |
|      | 教育研究奨励金 | 地域連携テクノセンターの教育研究奨励   | 20,000    | 東工シャッター株式会社     | 福井県鯖江市熊田町1-100     |
|      | 教育研究奨励金 | 地域連携テクノセンターの教育研究奨励   | 20,000    | 株式会社ミツヤ         | 福井県福井市山室町69-1      |
|      | 教育研究奨励金 | 地域連携テクノセンターの教育研究奨励   | 20,000    | 株式会社ホクシン        | 福井県福井市経田1-104      |
|      | 教育研究奨励金 | 地域連携テクノセンターの教育研究奨励   | 20,000    | 株式会社サンラックス      | 福井県鯖江市丸山町3-5-25    |
|      | 教育研究奨励金 | 地域連携テクノセンターの教育研究奨励   | 20,000    | 武生特殊鋼材株式会社      | 福井県越前市四郎丸町21-2-1   |
|      | 教育研究奨励金 | 地域連携テクノセンターの教育研究奨励   | 20,000    | 日東シンコー株式会社      | 福井県坂井市丸岡町舟寄110-1-1 |
|      | 教育研究奨励金 | 電気電子工学科 川本昂教授の教育研究助成 | 400,000   | 日東シンコー株式会社      | 福井県坂井市丸岡町舟寄110-1-1 |
|      | 教育研究奨励金 | 地域連携テクノセンターの教育研究奨励   | 60,000    | 丸一調査設計株式会社      | 福井県福井市開発町第20-6     |
|      | 教育研究奨励金 | 地域連携テクノセンターの教育研究奨励   | 200,000   | 大和建設株式会社        | 福井県越前市村国2-13-12    |
|      | 教育研究奨励金 | 地域連携テクノセンターの教育研究奨励   | 20,000    | 株式会社アタゴ         | 福井県福井市みのり4-13-1    |
|      | 教育研究奨励金 | 地域連携テクノセンターの教育研究奨励   | 20,000    | 株式会社福井銀行        | 福井県福井市順化1-3-3      |
|      | 教育研究奨励金 | 電気電子工学科 原田望教授の教育研究助成 | 250,000   | 株式会社カワチュウ       | 福井県越前市矢船町第15号10番地9 |
|      | 教育研究奨励金 | 地域連携テクノセンターの教育研究奨励   | 100,000   | サカイオーベックス株式会社   | 福井県福井市花堂中2-15-1    |
|      | 教育研究奨励金 | 地域連携テクノセンターの教育研究奨励   | 20,000    | 株式会社カズマ         | 福井県福井市八重巻町105      |
|      | 教育研究奨励金 | 地域連携テクノセンターの教育研究奨励   | 200,000   | 酒井化学工業株式会社      | 福井県鯖江市川去町32字2-1    |
|      | 教育研究奨励金 | 地域連携テクノセンターの教育研究奨励   | 1,000,000 | 信越化学工業株式会社 武生工場 | 福井県越前市北府2-1-5      |

| 年度   | 寄附金の名称                | 寄附の目的                          | 受入額(円)     | 寄附者名              | 寄附者住所                      |
|------|-----------------------|--------------------------------|------------|-------------------|----------------------------|
|      | 教育研究奨励金               | 地域連携テクノセンターの教育研究奨励             | 60,000     | 福井めがね工業株式会社       | 福井県鯖江市北野町2-2-11            |
|      | 環境都市工学科 山田幹雄教授の教育研究助成 |                                | 500,000    | 轟産業株式会社           | 福井県福井市毛矢3-2-4              |
|      | 教育研究奨励金               | 地域連携テクノセンターの教育研究奨励             | 100,000    | 丸文通商株式会社 福井支店     | 福井県福井市林町62-3               |
|      | 福井工業高等専門学校の教育研究助成     |                                | 2,000,000  | 福井工業高等専門学校 教育後援会  | 京都府京都市下京区塩小路通堀川東入南不動堂町801号 |
|      | 教育研究奨励金               | 国立高等専門学校における制御技術に係る教育研究支援のため   | 1,000,000  | オムロン株式会社          |                            |
| 20年度 | 教育研究奨励金               | 環境都市工学科 辻野和彦講師の教育研究助成          | 600,000    | 大日コンサルタント株式会社     | 岐阜県岐阜市薮田南3-1-21            |
|      | 教育研究奨励金               | 環境都市工学科 奥村充司准教授の教育研究助成         | 300,000    | 株式会社エコ・プランナー      | 福井県福井市渕2丁目1811番地           |
|      | 教育研究奨励金               | 物質工学科 高山勝己准教授の教育研究助成           | 750,000    | 財団法人クリタ水・環境科学振興財团 | 東京都新宿区西新宿3丁目4番7号           |
|      | 教育研究奨励金               | 環境都市工学科 辻子裕二准教授の教育研究助成         | 100,000    | 大日コンサルタント株式会社     | 岐阜県岐阜市薮田南3-1-21            |
|      | 教育研究奨励金               | 福井工業高等専門学校の教育研究助成              | 300,000    | 福井工業高等専門学校 教育後援会  | 福井県鯖江市下司町                  |
|      | 教育研究奨励金               | 機械工学科 田中嘉津彦教授の教育研究助成           | 500,000    | 株式会社不二越本郷1-1-1    | 富山県富山市不二越本郷1-1-1           |
|      | 教育研究奨励金               | 福井工業高等専門学校学生の学習・研究及び課外活動の援助・助成 | 30,000     | 鯖江市めだかクラブ         | 福井県鯖江市本町3-2-12             |
|      | 計                     | 32件                            | 10,276,500 |                   |                            |
|      | 教育研究奨励金               | 物質工学科 上島晃智教授の教育研究奨励            | 300,000    | 福井県和紙工業協同組合       | 福井県越前市大滝町11-11             |
|      | 教育研究奨励金               | 環境都市工学科 山田幹雄教授の教育研究奨励          | 500,000    | 轟産業株式会社           | 福井県福井市毛矢3-2-4              |
|      | 教育研究奨励金               | 地域連携テクノセンターの教育研究奨励             | 20,000     | 株式会社ホクシン          | 福井県福井市経田1-104              |
| 21年度 | 教育研究奨励金               | 地域連携テクノセンターの教育研究奨励             | 20,000     | 武生特殊鋼材株式会社        | 福井県越前市四郎丸町21-2-1           |
|      | 教育研究奨励金               | 地域連携テクノセンターの教育研究奨励             | 20,000     | 東工シャッター株式会社       | 福井県鯖江市熊田町1-100             |
|      | 教育研究奨励金               | 地域連携テクノセンターの教育研究奨励             | 200,000    | 酒井化学工業株式会社        | 福井県鯖江市川去町32-2-1            |
|      | 教育研究奨励金               | 地域連携テクノセンターの教育研究奨励             | 20,000     | 株式会社アタゴ           | 福井県福井市みのり4-13-1            |

| 年度   | 寄附金の名称                                        | 寄附の目的                             | 受入額(円)                            | 寄附者名                           | 寄附者住所 |
|------|-----------------------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|--------------------------------|-------|
| 21年度 | 教育研究奨励金<br>地域連携テクノセンターの教育研究奨励                 | 60,000<br>丸一調査設計株式会社              | 60,000<br>丸一調査設計株式会社              | 福井県福井市開発町20-6                  |       |
|      | 教育研究奨励金<br>地域連携テクノセンターの教育研究奨励                 | 100,000<br>株式会社ホクコン               | 100,000<br>株式会社ホクコン               | 福井県福井市今市町66-20-2               |       |
|      | 教育研究奨励金<br>地域連携テクノセンターの教育研究奨励                 | 200,000<br>大和建設株式会社               | 200,000<br>大和建設株式会社               | 福井県越前市村国2-13-12                |       |
|      | 教育研究奨励金<br>福井工業高等専門学校学生の学習・研究<br>及び課外活動の援助・助成 | 1,000,000<br>福井工業高等専門学校 教育後援会     | 1,000,000<br>福井工業高等専門学校 教育後援会     | 福井県福井市鯖江市下司町                   |       |
|      | 教育研究奨励金<br>地域連携テクノセンターの教育研究奨励                 | 20,000<br>株式会社カズマ                 | 20,000<br>株式会社カズマ                 | 福井県福井市八重巻町105                  |       |
|      | 教育研究奨励金<br>地域連携テクノセンターの教育研究奨励                 | 40,000<br>丸文通商株式会社福井支店            | 40,000<br>丸文通商株式会社福井支店            | 福井県福井市林町62-3                   |       |
|      | 教育研究奨励金<br>福井工業高等専門学校学生の学習・研究<br>及び課外活動の援助・助成 | 2,000,000<br>福井工業高等専門学校 機械工学科岡田将人 | 2,000,000<br>福井工業高等専門学校 機械工学科岡田将人 | 福井県福井市桜町3丁目1-20                |       |
|      | 教育研究奨励金<br>国立高等専門学校における<br>制御技術に係る教育研究支援のため   | 1,000,000<br>オムロン株式会社             | 1,000,000<br>オムロン株式会社             | 京都府京都市下京区塩小路通堀川東入南<br>不動堂町801号 |       |
|      | 教育研究奨励金<br>図書・雑誌の購入                           | 200,000<br>ナカヤ化学産業株式会社            | 200,000<br>ナカヤ化学産業株式会社            | 大阪府大阪市新池島町1丁目17-23             |       |
|      | 教育研究奨励金<br>福井工業高等専門学校の教育研究助成                  | 20,000<br>北陸テレコム懇談会               | 20,000<br>北陸テレコム懇談会               | 東京都豊島区駒込2-3-10                 |       |
|      | 教育研究奨励金<br>福井工業高等専門学校学生の学習・研究<br>及び課外活動の援助・助成 | 1,000,000<br>福井工業高等専門学校 教育後援会     | 1,000,000<br>福井工業高等専門学校 教育後援会     | 福井県福井市塙小路通堀川東入南<br>不動堂町801号    |       |
|      | 教育研究奨励金<br>地域連携テクノセンターの教育研究奨励                 | 300,000<br>信越化学工業株式会社 武生工場        | 300,000<br>信越化学工業株式会社 武生工場        | 福井県越前市北府2-1-5                  |       |
|      | 教育研究奨励金<br>地域連携テクノセンターの教育研究奨励                 | 20,000<br>株式会社 サンルックス             | 20,000<br>株式会社 サンルックス             | 福井県福井市丸山町3-5-25                |       |
|      | 教育研究奨励金<br>地域連携テクノセンターの教育研究奨励                 | 500,000<br>信越化学工業株式会社 武生工場        | 500,000<br>信越化学工業株式会社 武生工場        | 福井県越前市北府2-1-5                  |       |
|      | 教育研究奨励金<br>地域連携テクノセンターの教育研究奨励                 | 40,000<br>吉岡 幸 株式会社               | 40,000<br>吉岡 幸 株式会社               | 福井県福井市御幸町1-2-10                |       |
|      | 教育研究奨励金<br>福井工業高等専門学校学生の学習・研究<br>及び課外活動の援助・助成 | 1,000,000<br>福井工業高等専門学校 教育後援会     | 1,000,000<br>福井工業高等専門学校 教育後援会     | 福井県福井市鯖江市下司町                   |       |
|      | 教育研究奨励金<br>地域連携テクノセンターの教育研究奨励                 | 20,000<br>スガイ化学工業 株式会社            | 20,000<br>スガイ化学工業 株式会社            | 和歌山県和歌山市宇須町4-6                 |       |
|      | 計                                             | 24件                               | 8,600,000                         |                                |       |
|      | 教育研究奨励金<br>福井工業高等専門学校学生の学習・研究<br>及び課外活動の援助・助成 | 1,000,000<br>福井工業高等専門学校 教育後援会     | 1,000,000<br>福井工業高等専門学校 教育後援会     | 福井県福井市鯖江市下司町                   |       |
| 22年度 | 教育研究奨励金<br>環境都市工学科 山田幹雄教授<br>の教育研究奨励          | 500,000<br>轟産業株式会社                | 500,000<br>轟産業株式会社                | 福井県福井市毛矢3-2-4                  |       |

| 年度   | 寄附金の名称  | 寄附の目的                          | 受入額(円)    | 寄附者名                    | 寄附者住所              |
|------|---------|--------------------------------|-----------|-------------------------|--------------------|
| 22年度 | 教育研究奨励金 | 地域連携テクノセンターの教育研究奨励             | 20,000    | 株式会社アタゴ                 | 福井県福井市みのり4-13-1    |
|      | 教育研究奨励金 | 地域連携テクノセンターの教育研究奨励             | 200,000   | 酒井化学工業株式会社              | 福井県鯖江市川去町32-2-1    |
|      | 教育研究奨励金 | 地域連携テクノセンターの教育研究奨励             | 20,000    | 武生特殊鋼材株式会社              | 福井県越前市四郎丸町21-2-1   |
|      | 教育研究奨励金 | 地域連携テクノセンターの教育研究奨励             | 20,000    | 株式会社ホクコノ                | 福井県福井市今市町66-20-2   |
|      | 教育研究奨励金 | 地域連携テクノセンターの教育研究奨励             | 100,000   | 大和建設株式会社                | 福井県越前市村国2-13-12    |
|      | 教育研究奨励金 | 地域連携テクノセンターの教育研究奨励             | 40,000    | 吉岡 幸 株式会社               | 福井県鯖江市御幸町1-2-10    |
|      | 教育研究奨励金 | 地域連携テクノセンターの教育研究奨励             | 20,000    | スガイ化学工業 株式会社            | 和歌山県和歌山市宇須町4-6     |
|      | 教育研究奨励金 | 地域連携テクノセンターの教育研究奨励             | 20,000    | 東工ジャッター株式会社             | 福井県鯖江市熊田町1-100     |
|      | 教育研究奨励金 | 地域連携テクノセンターの教育研究奨励             | 800,000   | 信越化学工業株式会社 武生工場         | 福井県越前市北府2-1-5      |
|      | 教育研究奨励金 | 電気電子工学科 山本幸男准教授の教育研究奨励         | 100,000   | 株式会社 サカイエルコム            | 福井県福井市花堂中1丁目16番45号 |
|      | 教育研究奨励金 | 地域連携テクノセンターの教育研究奨励             | 40,000    | 轟産業株式会社                 | 福井県福井市毛矢3-2-4      |
|      | 教育研究奨励金 | 図書・雑誌の購入                       | 200,000   | ナカヤ化学産業株式会社             | 大阪府大阪市新池島町1丁目17-23 |
|      | 教育研究奨励金 | 環境都市工学科 間瀬実郎准教授の教育研究奨励         | 38,815    | 福井工業高等専門学校 環境都市工学科 間瀬実郎 | 福井県鯖江市北野町2丁目       |
|      | 教育研究奨励金 | 福井工業高等専門学校学生の学習・研究及び課外活動の援助・助成 | 500,000   | 福井工業高等専門学校 教育後援会        | 福井県福井市大願寺2丁目5-18   |
|      | 教育研究奨励金 | 地域連携テクノセンターの教育研究奨励             | 20,000    | ジビール調査設計株式会社            | 福井県越前市栗田部町6-26     |
|      | 教育研究奨励金 | 福井工業高等専門学校学生の学習・研究及び課外活動の援助・助成 | 20,000    | 株式会社 開 組                | 福井県福井市下司町          |
|      | 教育研究奨励金 | 福井工業高等専門学校学生の学習・研究及び課外活動の援助・助成 | 1,500,000 | 福井工業高等専門学校 教育後援会        | 福井県鯖江市下司町          |
|      | 教育研究奨励金 | 福井工業高等専門学校学生の学習・研究及び課外活動の援助・助成 | 50,000    | 生 越 久 靖                 | 大阪府吹田市山田西4丁目       |
|      | 教育研究奨励金 | 地域連携テクノセンターの教育研究奨励             | 20,000    | 株式会社 若吉製作所              | 福井県鯖江市杉本町36-2      |
|      | 計       | 21件                            | 5,228,815 |                         |                    |

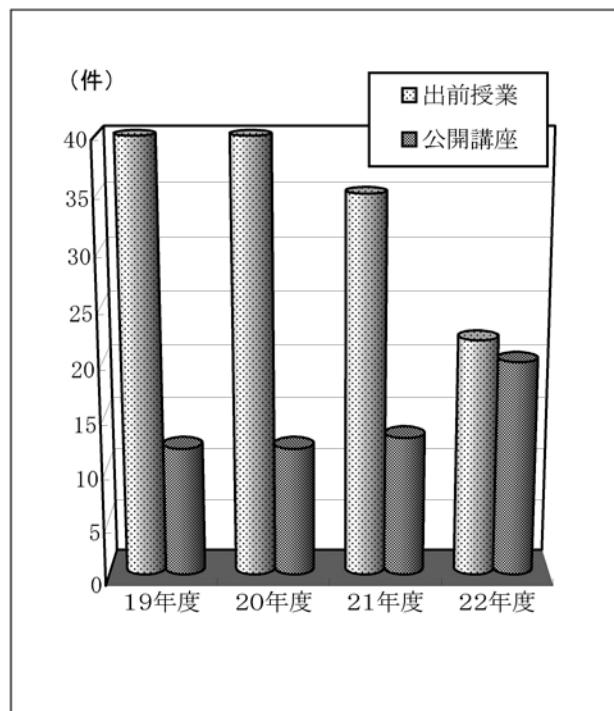
※平成22年12月31日現在

## 出前授業・公開講座実施一覧

(件数)

| 年 度  | 出前授業 | 公開講座 | 合 計 |
|------|------|------|-----|
| 19年度 | 40   | 12   | 52  |
| 20年度 | 40   | 12   | 52  |
| 21年度 | 35   | 13   | 48  |
| 22年度 | 22   | 20   | 42  |
| 合 計  | 137  | 57   | 194 |

※平成22年12月31日現在



## 出前授業実施一覧

| ■ 一般科目教室  |          |                          |                                                                                   |                    |                                   |
|-----------|----------|--------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|--------------------|-----------------------------------|
| 年度        | 期日       | 出前授業先                    | 概要                                                                                | 担当教職員              | 対象者(参加者数)                         |
|           | 11月2日    | 河和田小学校                   | 断層があるのに地震がない                                                                      | 岡本拓夫               | 6年生児童                             |
| ■ 機械工学科   |          |                          |                                                                                   |                    |                                   |
| 期日        | 出前授業先    | 概要                       | 担当教職員                                                                             | 対象者(参加者数)          |                                   |
| 9月15日     | 大虫小学校    | 親子でのものづくり体験教室            | 田中嘉津彦、藤田克志、芳賀正和、吉田敏實、学生9名                                                         | 5年生およびその保護者(約110名) |                                   |
| 9月28日     | 進明中学校    | 進明小学校へロボット達がやってくる        | 井上清一、藤沢秀雄、学生6名                                                                    | 進明中学校全校生(約450名)    |                                   |
| 10月20日    | 岡本小学校    | 岡本小学校 ゴーゴー学校             | 上嶋晃智、加藤敏、松井栄樹、片岡裕一、田中嘉津彦                                                          |                    |                                   |
| 11月30日    | 小浜市西津小学校 | 流れを利用したおもちゃ作りを通して学ぶサイエンス | 藤田克志、村中貴幸、学生1名                                                                    | 小学校3年生(31名)        |                                   |
| ■ 電気電子工学科 |          |                          |                                                                                   |                    |                                   |
| 19年度      | 期日       | 出前授業先                    | 概要                                                                                | 担当教職員              | 対象者(参加者数)                         |
|           | 6月19日    | 武生第三中学校                  | 燃料電池を作ろう                                                                          | 新谷邦弘、佐藤匡、丸山晃生      | 第2学年理科選択生徒(30名)                   |
|           | 6月21日    | 武生第三中学校                  | 発電機を作ろう                                                                           | 新谷邦弘、三好正行          | 第2学年理科選択生徒(30名)                   |
|           | 6月26日    | 武生第三中学校                  | 超低温の世界へ                                                                           | 川本昂、山本幸男、大久保茂      | 第2学年理科選択生徒(30名)                   |
|           | 6月27日    | 東陽中学校                    | 超低温の世界へ                                                                           | 川本昂、河原林友美、学生1名     | 第2学年理科選択生徒(25名)                   |
|           | 7月3日     | 武生第三中学校                  | 発電機を作ろう                                                                           | 新谷邦弘、佐藤匡           | 第2学年理科選択生徒(30名)                   |
|           | 7月4日     | 東陽中学校                    | ソーラーカーの試乗会、ソーラーボートの製作                                                             | 川本昂、原田望            | 第2学年理科選択生徒(25名)                   |
|           | 7月5日     | 武生第三中学校                  | 超低温の世界へ                                                                           | 川本昂、荒川正和           | 第2学年理科選択生徒(30名)                   |
|           | 7月10日    | 進徳小学校                    | ホバークラフトの製作                                                                        | 川本昂                | 理科クラブ児童(12名)                      |
|           | 8月8日     | 進徳小学校                    | 紙ペリコプターの製作(1~3年)、液体要素を使った実験(4~6年)、太陽電池のしくみ・新エネルギーの解説、ソーラーカーの試乗会、おもちゃのソーラーボートコンテスト | 川本昂、学生2名           | 小学生1~3年(66名)、4~6年(101名)<br>※希望者のみ |
|           | 10月29日   | 豊小学校                     |                                                                                   | 川本昂                | 第5学年生徒(43名)                       |

| ■ 電気電子工学科 |                |             |                    |                               |                                    |
|-----------|----------------|-------------|--------------------|-------------------------------|------------------------------------|
| 年度        | 期日             | 出前授業先       | 概要                 | 担当教職員                         | 対象者(参加者数)                          |
|           | 12月1日          | きらめきみなと館    | 発光ダイオードを用いた工作教室    | 荒川正和、丸山晃生                     | 主に幼稚・小学生とその保護者、他、中学生～大学生・一般など(60名) |
|           | 12月4日          | 東陽中学校       | 雷とプラズマ発光「人工の雷」     | 川本昂                           | 第2学年理科選択生徒(25名)                    |
|           | 1月23日          | 東陽中学校       | 手作りモーターと手作り発電機     | 川本昂                           |                                    |
|           | 3月17日          | 和田小学校       | わくわく授業             | 川本昂                           | 第5学年(114名)                         |
| ■ 電子情報工学科 |                |             |                    |                               |                                    |
| 年度        | 期日             | 出前授業先       | 概要                 | 担当教職員                         | 対象者(参加者数)                          |
| 19年度      | 7月29日          | 勝山市地場産センター  | 夏休み工作(歯磨き口がシト製作)教室 | 斎藤徹、前川公男、清水幹郎、学生5名            | 小中学生と保護者(20組40名)                   |
|           | 7月24,25日<br>タ一 | 越前市生涯学習センター | アイボくんと遊びよう!        | 西仁司、学生7名                      | 越前市内小学生5～6年生(25名程度)                |
|           | 8月18,19日       | 福井県越前市サンドーム | 歯磨きロボット工作教室        | 斎藤徹、青山義弘、西仁司、堀井直弘、学生7名        | 小中学生と保護者(20組40名)                   |
|           | 11月27日,<br>28日 | 福井市中藤小学校体育馆 | 南極教室               | 前川公男                          | 4～6年生、教職員、保護者(約40名)                |
|           | 12月7日          | 小浜市田鳥小学校    | AIBOと遊びよう          | 西仁司、奥田篤志、学生4名                 | 小学3年～6年生(19名)                      |
|           | 12月15日         | 大野市森目小学校    | AIBOと遊びよう          | 西仁司、前川公男、学生5名                 | 全校生徒 保護者(30名)                      |
|           | 12月16日         | 越前町萩野小学校    | AIBOと遊びよう          | 西仁司、奥田篤志、学生5名                 | 小学4、5年生 保護者(30名)                   |
| ■ 物質工学科   |                |             |                    |                               |                                    |
| 年度        | 期日             | 出前授業先       | 概要                 | 担当教職員                         | 対象者(参加者数)                          |
|           | 6月10日          | 武生西小学校      | 武生西小学校4年生親子の集い     | 小泉貞之、上嶋晃智、西野純一、野村栄市、片岡裕一、学生2名 | 小学校4年生約60名、その保護者約60名、小学校教員4名(130名) |
|           | 7月11日          | 武生味真野小学校    | 武生味真野小学校 科学クラブ     | 小泉貞之、野村栄市，                    | 小学生約30名+教員1名                       |
|           | 8月22～23日       | 福井高専        | サイエンスパートナーシップ教育講座  | 高山勝己、吉村忠与志、野村栄市、片岡裕一、小泉貞之     | 武生2中10名、鰐江東陽中10名、教員2名              |
|           | 9月7日           | 清水中学校       | 体験ワークショップコーナー 電池と光 | 小泉貞之、上嶋晃智、野村栄市、学生2名           | 中学生約60名、教員3名                       |

| ■ 物質工学科   |                           |                                   |                                        |                                     |           |
|-----------|---------------------------|-----------------------------------|----------------------------------------|-------------------------------------|-----------|
| 年度        | 期日                        | 出前授業先                             | 概要                                     | 担当教職員                               | 対象者(参加者数) |
|           | 10月20日                    | 岡本小学校                             | 岡本小学校 ゴーー学校                            | 上嶋晃智, 加藤敏, 松井栄樹,<br>片岡裕一, 田中嘉津彦     |           |
|           | 11月11日                    | 東安居小学校                            | おもしろ理科実験                               | 吉村忠与志, 野村栄市, 片岡裕<br>一, 加藤敏          |           |
| ■ 環境都市工学科 |                           |                                   |                                        |                                     |           |
| 期日        | 出前授業先                     | 概要                                | 担当教職員                                  | 対象者(参加者数)                           |           |
| 19年度      | 7月5日<br>池田第三小学校           | 「角間郷の自慢を見つけよう」－きれいな水つてな<br>んだろう？－ | 奥村充司, 学生5名                             | 池田第三小学校3・4年生 (7名)                   |           |
|           | 7月28日<br>越前市家久浄化センター      | 「あそぼう！、まなぼう！エコバッックつくり」            | 奥村充司, 学生6名                             | 越前市内の小学生(50名)                       |           |
|           | 8月1日<br>北川・若狭歴史民族資料館      | 夏休み水生生物による簡易水質調査                  | 奥村充司, 学生6名                             | 小浜第二中学校, 上中学校<br>(30名)              |           |
|           | 8月6日<br>九頭竜川・鳴鹿大橋・鳴<br>鹿館 | 夏休み水生生物による簡易水質調査                  | 奥村充司, 学生6名                             | 松岡小学校・松岡中学校, 志比小学校, 永平<br>寺中学校(60名) |           |
|           | 11月28日<br>味真野小学校          | 煉瓦アーチをつくろう!!                      | 田安正茂, 学生1名                             | 科学クラブ (16名)                         |           |
|           |                           | 計                                 | 40 件                                   |                                     |           |
| ■ 機械工学科   |                           |                                   |                                        |                                     |           |
| 実施日       | 出前授業先                     | 概要                                | 担当教職員                                  | 対象者(参加者数)                           |           |
| 20年度      | 9月20日<br>越前市<br>大虫小学校     | 親子でおもちゃづくり体験                      | 田中嘉津彦, 藤田克志, 芳賀正和,<br>村中貴幸, 吉田敏實, 学生9名 | 小学校5年生どその保護者 140名                   |           |
|           | 10月15日<br>越前市<br>神山公民館    | おもちゃ(紙トンボ、バルーンカー)づくりの体験           | 藤田克志, 学生5名                             | 小学校1～3年生(ほか) 19名                    |           |
|           | 11月8日<br>福井市<br>六条小学校     | めざせ国技館！                           | 安丸尚樹, 学生3名                             | 小学生、保護者、教員 200名                     |           |
|           | 2月14日<br>神山小学校            | 親子でおもちゃづくり体験                      | 藤田克志, 芳賀正和, 学生9名                       | 小学校1年～6年どその保護者90名                   |           |
| ■ 電気電子工学科 |                           |                                   |                                        |                                     |           |
| 実施日       | 出前授業先                     | 概要                                | 担当教職員                                  | 対象者(参加者数)                           |           |
|           | 6月11日<br>東陽中学校            | ホバークラフトの製作                        | 川本昂                                    | 第2学年理科選択生徒 (18名)                    |           |
|           | 6月25日<br>東陽中学校            | 明るさの値段-電気エネルギーってどういっもの?-<br>(1)   | 山本幸男, 荒川正和                             | 第2学年理科選択生徒 (18名)                    |           |

| ■ 電 気 電 子 工 学 科 |        |                   |                                              |                                          |                               |
|-----------------|--------|-------------------|----------------------------------------------|------------------------------------------|-------------------------------|
| 年度              | 実 施 日  | 出前授業先             | 概 要                                          | 担当教職員                                    | 対象者(参加者数)                     |
| 20年度            | 7月2日   | 東陽中学校             | 明るさの値段-電気エネルギーってどういいうもの?-<br>(II)<br>科学不思議体験 | 山本幸男, 荒川正和, 河原林友美<br>川本昂, 学生14名          | 第2学年理科選択生徒 (18名)<br>小学校4年生72名 |
|                 | 9月25日  | 福井市東安居小学校         | 燃料電池の製作                                      | 新谷邦弘, 斎藤弘一                               | 第2学年理科選択生徒 (18名)              |
|                 | 11月12日 | 東陽中学校             | 発電機を作ろう                                      | 新谷邦弘                                     | 第2学年理科選択生徒 (18名)              |
|                 | 11月19日 | 東陽中学校             | 科学不思議体験                                      | 川本 昂                                     | 第2学年理科選択生徒 (18名)              |
|                 | 11月26日 | 東陽中学校             |                                              |                                          |                               |
|                 |        |                   |                                              |                                          |                               |
| ■ 電 子 情 報 工 学 科 |        |                   |                                              |                                          |                               |
| 実 施 日           | 出前授業先  | 概 要               | 担当教職員                                        | 対象者(参加者数)                                |                               |
| 20年度            | 8月6日   | 越前市生涯学習センター       | LEGOブロックでロボット作り                              | 西仁司, 奥田篤士                                | 越前市内の小学生 (15名)                |
|                 | 8月7日   | 越前市生涯学習センター       | LEGOブロックでロボット作り                              | 西仁司, 奥田篤士                                | 越前市内の小学生 (14名)                |
|                 | 9月24日  | 鯖江東小学校            | 南極教室                                         | 前川公男                                     | 小学校3~6年児童 (236名)              |
|                 | 10月26日 | 鯖江市学生活動拠点施設[らてんぼ] | 初心者向けゲームプログラミング講座                            | 蘆田昇                                      | 中学生 7名                        |
|                 | 11月21日 | 国高等学校             | 簡単なアニメーションを作成するプログラミング講座                     | 蘆田昇, 学生3名                                | 理科クラブの4年生~6年生32名              |
|                 | 11月28日 | 国高等学校             | 簡単なアニメーションを作成するプログラミング講座                     | 蘆田昇, 学生3名                                | 理科クラブの4年生~6年生32名              |
| ■ 物 質 工 学 科     |        |                   |                                              |                                          |                               |
| 実 施 日           | 出前授業先  | 概 要               | 担当教職員                                        | 対象者(参加者数)                                |                               |
| 20年度            | 7月4日   | オオタキ神社            | 和紙の里の歴史について                                  | 上島晃智                                     | 武生2中 1年生6名、教諭1名               |
|                 | 7月9日   | 東陽中学校 理科室教室       | 環境にやさしいものづくり「酸化と還元を利用したもとのづくり化学」             | 小泉貞之, 佐々和洋                               | 中学生20名、教諭1名                   |
|                 | 7月9日   | 越前市味真野小学校 理科室教室   | 液体窒素を用いた低温実験とものづくり科学                         | 小泉貞之, 佐々和洋, 野村栄市                         | 小学生(科学クラブ)20名                 |
|                 | 7月16日  | 東陽中学校 理科室教室       | 光とエネルギー、回折と分光のものづくり                          | 小泉貞之                                     | 中学生20名、教諭1名                   |
|                 | 7月24日  | 越前市南児童センター        | 液体窒素を用いた化学実験など                               | 川村敏之, 高山勝己, 加藤敏, 上島晃智, 吉村忠与志, 野村栄市, 片岡裕一 | 小学生40人                        |
|                 |        |                   |                                              |                                          |                               |

| ■ 物質工学科   |                            |                            |                            |                                                |                      |
|-----------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|------------------------------------------------|----------------------|
| 年度        | 実施日                        | 出前授業先                      | 概要                         | 担当教職員                                          | 対象者(参加者数)            |
| 20年度      | 7月29日<br>タ一                | 越前市国高児童センター                | 液体要素を用いた化学実験など             | 川村敏之, 高山勝己, 津田良弘, 上島晃智, 吉村忠与志, 西野潤; 野村栄市, 片岡裕一 | 小学生20人               |
|           | 7月30日<br>タ一                | 越前市味真野児童センター               | 液体要素を用いた低温実験とものづくり科学       | 川村敏之, 松井栄樹, 小泉貞之, 佐々和洋, 野村栄市, 片岡裕一             | 小学生15名、職員2名          |
|           | 8月1日                       | 越前市中央図書館<br>学習支援室          | 極低温の世界探検                   | 吉村忠與志, 上嶋晃智, 野村栄市, 片岡裕一                        | 小学生40名、保護者15名        |
|           | 8月9～10日<br>サンドーム           | 愉悦説おもしろフェスタ                | SPP 遺伝子技術に触れる生命の神祕について考えよう | 物質工学科全教職員, 5年学生30名                             | 中学生、保護者 2,000名程度     |
|           | 8月28日<br>福井高専              | あすなろ保育園                    | 「あつと驚く実験」講義                | 川村敏之, 高山勝己, 片岡裕一, 野村栄市                         | 中学生20名、教員2名          |
|           | 8月20日<br>越前市中央図書館<br>学習支援室 | ふれでみよう楽しい化学教室              | 吉村忠與志                      | 吉村忠與志                                          | 保育士35名               |
|           | 11月8日<br>福井市東安居小学校         | ふれあいフェスティバル「空気鏡とアイスクリーム作製」 | 津田良弘, 小泉貞之                 | 津田良弘, 小泉貞之, 松井栄樹, 佐々和洋, 野村栄市, 片岡裕一             | 小学生30名、中学生5名、保護者10名  |
|           | 11月9日<br>福井高専              | 福井県消防学校専科教育「燃焼分析実験」        | 吉村忠與志, 片岡裕一, 野村栄市          | 吉村忠與志, 片岡裕一, 野村栄市                              | 小学生100名、保護者80名、教諭10名 |
|           | 11月21日<br>福井市酒生小学校         | 福井サイエンス寺子屋「低温実験」           | 吉村忠與志, 津田良弘, 片岡裕一, 野村栄市    | 吉村忠與志, 津田良弘, 片岡裕一, 野村栄市                        | 小学生60名、保護者15名        |
| ■ 環境都市工学科 |                            |                            |                            |                                                |                      |
| 年度        | 実施日                        | 出前授業先                      | 概要                         | 担当教職員                                          | 対象者(参加者数)            |
| 20年度      | 6月18日<br>東陽中学校             | 「安全な飲み水とは？」                | 奥村充司, 辻子裕二                 | 第3学年理科選択生徒                                     |                      |
|           | 7月30日<br>小浜市北川・天郷寺橋・高塚橋    | 平成20年度北川水生生生物等による水質調査      | 奥村充司, 学生5名                 | 雲浜まちづくり委員会(大人6名、小学6年生14名)                      |                      |
|           | 9月6日<br>鯖江市環境教育支援センター      | 環境マップづくり                   | 辻子裕二, 学生2名                 | 4年～6年の児童20名                                    |                      |
|           | 10月22日<br>東陽中学校            | 地震が引き起こす液状化現象-エッキーを作ろう！    | 吉田雅穂, 阿部幸弘                 | 中学校2年生(理科選択生徒) 18名                             |                      |
|           | 10月29日<br>東陽中学校            | 川の水質を調べよう                  | 奥村充司, 田安正茂                 | 中学校2年生(理科選択生徒) 18名                             |                      |
|           | 11月26日<br>国高小学校            | 環境計測と環境マップづくり              | 辻子裕二, 学生2名                 | 小学校4～6年の児童(科学クラブ)30名+教諭2名                      |                      |
|           | 12月10日<br>国高小学校            | 水の旅                        | 奥村充司, 学生5名                 | 小学校4～6年の児童(科学クラブ)30名+教諭2名                      |                      |
|           | 12月17日<br>国高小学校            | 形が変わると強さが変わる               | 辻野和彦, 学生2名                 | 小学校4～6年の児童(科学クラブ)30名+教諭2名                      |                      |
|           |                            |                            | 計                          | 40 件                                           |                      |

| ■ 機械工学科 |                  |                 |                           |                                 |                                 |
|---------|------------------|-----------------|---------------------------|---------------------------------|---------------------------------|
| 年度      | 実施日              | 出前授業先           | 概要                        | 担当教職員                           | 対象者(参加者数)                       |
| 21年度    | 7月11日            | 大虫小学校           | 親子でおもちゃづくり体験              | 田中嘉津彦、藤田克志、芳賀正和、村中貴幸、吉田敏實、学生11人 | 小学校5年生とその保護者(120名)              |
|         | 8月12日            | 越前市社会福祉センター     | バルーンカーネーとホバークラフトの作製       | 藤田克志、亀山建太郎、金田直人、ほか学生6名          | 小学1～3年生(40名)                    |
|         | 10月3日            | 日野小学校           | 親子でおもちゃづくり体験              | 田中嘉津彦、村中貴幸、吉田敏實                 | 小学校5年生とその保護者                    |
|         | 10月25日           | 中河小学校           | 親子でおもちゃづくり体験              | 芳賀正和、学生4名                       | 小学生および保護者(40名)                  |
|         | 3月14日            | 鯖江市神明健康スポーツセンター | アイデアロボットの実演と操縦体験          | 安丸尚樹、藤沢秀雄、学生6名                  | 小学生、保護者、神明公民館関係者、地区子供会役員(約100名) |
|         | ■ 電気電子工学科        |                 |                           |                                 |                                 |
|         | 実施日              | 出前授業先           | 概要                        | 担当教職員                           | 対象者(参加者数)                       |
|         | 6月17日            | 東陽中学校           | カラフル燃料電池の実験               | 川本昂                             | 第2学年理科選択生徒(17名)                 |
|         | 9月5日             | 越廻中学校           | プラスマ発光と他の発光               | 川本昂、学生1名                        | 全年年生徒(33名)                      |
|         | 9月28日            | 東安居小学校          | 科学不思議体験                   | 川本昂、学生1名                        | 小学4年生(69名)                      |
|         | 11月18日           | 東陽中学校           | 太陽熱発電について                 | 川本昂                             | 第2学年理科選択生徒(17名)                 |
|         | 1月20日            | 東陽中学校           | 白熱電球、蛍光電球、LED電球の省エネ性の比較実験 | 川本昂                             | 第2学年理科選択生徒(17名)                 |
|         | 1月27日            | 東陽中学校           | ソーラーパネルの特性評価              | 川本昂                             | 第2学年理科選択生徒(17名)                 |
|         | ■ 電子情報工学科        |                 |                           |                                 |                                 |
|         | 実施日              | 出前授業先           | 概要                        | 担当教職員                           | 対象者(参加者数)                       |
|         | 8月6日             | 越前市生涯学習センター     | LEGOでロボットを作ろう             | 西仁司、奥田篤士                        | 越前市内の小学生(15名)                   |
|         | 8月7日             | 越前市生涯学習センター     | LEGOでロボットを作ろう             | 西仁司、奥田篤士                        | 越前市内の小学生(16名)                   |
|         | 8月29日            | 夢みらい館・さばえ       | レゴブロックでロボットを作ろう           | 西仁司、奥田篤士                        | 鮪江市内の中小学生(23名)                  |
|         | 10月29日           | 文殊小学校           | 南極教室                      | 前川公男                            | 3～6年生児童、保護者(100名)               |
|         | 11月8日            | 福井県生活学習館        | アイボくん操作体験                 | 西仁司、学生4名                        | 女性団体会員(11名)                     |
|         | 11月25日           | 服間小学校           | 南極教室                      | 前川公男                            | 4・6年生、教職員、保護者(45名)※             |
|         | 2月14日            | 清水南公民館          | LEGOブロックでロボット作り           | 西仁司、奥田篤士                        | 5年生は新型インフルエンザのため学年              |
|         | 2月23日            | 武生西幼稚園          | ロボットによる出前授業               | 西仁司、奥田篤士                        | 小学生、保護者、公民館職員(6名)               |
|         | 幼稚園児、保護者、職員(29名) |                 |                           |                                 |                                 |

| ■ 物質工学科   |        |             |                             |                                    |                        |
|-----------|--------|-------------|-----------------------------|------------------------------------|------------------------|
| 年度        | 実施日    | 出前授業先       | 概要                          | 担当教職員                              | 対象者(参加者数)              |
| 21年度      | 7月1日   | 神山公民館       | 身の回りのおもしろ科学 (化学)            | 津田良弘, 小泉貞之, 松井栄樹, 佐々和洋, 野村栄市, 片岡裕一 | 神山小学校 4年生 (27名)        |
|           | 7月5日   | 和田小学校       | 超低温の世界を体験                   | 吉村忠興志, 小泉貞之, 津田良弘, 西野純一, 佐々和洋, 野村栄 | 小学2年生とその保護者            |
|           | 7月22日  | 南中山公民館      | 超低温の世界を体験                   | 吉村忠興志, 加藤敏, 野村栄市, 片岡裕一             |                        |
|           | 8月4日   | 今立南部児童館     | 超低温の世界の体験とアルコールロケット         | 上島晃智, 西野純一, 佐々和洋, 野村栄市, 片岡裕一       | 小学1~3年生 (18名)          |
|           | 8月5日   | 国高公民館       | 超低温の世界を体験                   | 吉村忠興志, 野村栄市, 片岡裕一                  |                        |
|           | 8月12日  | 越前市社会福祉センター | 身の回りのおもしろ科学 (化学)            | 上島晃智, 小泉貞之, 津田良弘, 野村栄市, 片岡裕一       | 小学1~3年生 (35名)          |
|           | 8月18日  | 味真野児童センター   | 身の回りのおもしろ科学 (化学) と超低温の世界を体験 | 上島晃智, 小泉貞之, 津田良弘, 佐々和洋, 野村栄市, 片岡裕一 | 小学1~6年生 (18名)          |
|           | 8月22日  | 北日野公民館      | 身の回りのおもしろ科学 (化学) と超低温の世界を体験 | 上島晃智, 小泉貞之, 津田良弘, 野村栄市, 片岡裕一       |                        |
|           | 8月25日  | 大虫公民館       | 身の回りのおもしろ科学 (化学) と超低温の世界を体験 | 加藤敏, 高山勝己, 西野純一, 松井栄樹              | 小学1~3年生 (54名)          |
|           | 9月4日   | 清水中学校 (学園祭) | 超低温の世界を体験                   | 吉村忠興志, 上島晃智, 津田良弘, 片岡裕一            | 学園祭での希望者の中学1~3年生 (60名) |
|           | 9月16日  | 味真野小学校      | 超低温の世界を体験                   | 小泉貞之, 上島晃智, 川村敏之, 野村栄市             | 理科クラブ (20名)            |
|           | 10月28日 | 東陽中学校       | 酸化還元反応を用いた身近な化学反応           | 小泉貞之, 佐々和洋                         | 第2学年理科選択生徒 (17名)       |
|           | 11月4日  | 東陽中学校       | バイオマスエネルギーとしてのバイオエタノール      | 吉村忠興志, 片岡裕一, 学生2名                  | 第2学年理科選択生徒 (16名)       |
|           | 3月30日  | 北新庄公民館      | 身の回りのおもしろ科学 (化学)            | 小泉貞之, 野村栄市, 片岡裕一                   | 小学1~3年生 (7名)           |
| ■ 環境都市工学科 |        |             |                             |                                    |                        |
|           | 実施日    | 出前授業先       | 概要                          | 担当教職員                              | 対象者(参加者数)              |
|           | 12月2日  | 東陽中学校 (理科室) | 生き物のかたちの不思議から構造を学ぶ          | 阿部孝弘, 奥村充司                         | 2年生理科選択生徒 (14名)        |
|           | 2月10日  | 東陽中学校 (理科室) | 地球を測るぞ                      | 辻子裕二, 阿部孝弘, 学生1名                   | 2年生理科選択生徒 (14名)        |
|           |        |             |                             | 計 35 件                             |                        |

| ■ 一般科目教室  |                  |                          |                        |                                            |                   |
|-----------|------------------|--------------------------|------------------------|--------------------------------------------|-------------------|
| 年度        | 実施日              | 出前授業先                    | 概要                     | 担当教職員                                      | 対象者(参加者数)         |
|           | 9月15日            | ハツ杉千年の森                  | 天体の観望と星のお話             | 岡本拓夫, 吉田三郎, 学生2名                           | 今立地区小学生 約20名      |
|           | 10月7日            | 武生第一中学校                  | 宇宙のはなし                 | 加藤清考                                       | 中学3年生 48人         |
| ■ 機械工学科   |                  |                          |                        |                                            |                   |
| 年度        | 実施日              | 出前授業先                    | 概要                     | 担当教職員                                      | 対象者(参加者数)         |
| 22年度      | 7月31日            | 福井高専メディア示一<br>ル          | 越前市ロボットコンテスト講習会        | 亀山健太郎, 西仁司(Ei)                             | 越前市内の中学生19人       |
|           | 10月31日           | 清明小学校                    | おもちゃづくり体験              | 加藤寛隆, 田中嘉津彦, 村中貴幸, 岡田将人, 吉田敏實, 藤田祐介, 本科生6名 | 小学4年生、保護者180人     |
|           | 10月31日           | 中河小学校                    | 親子でおもちゃづくり体験           | 藤田克志, 専攻科生2名, 本科生4名                        | 小学1~6年生とその保護者 59人 |
| ■ 電気電子工学科 |                  |                          |                        |                                            |                   |
| 年度        | 実施日              | 出前授業先                    | 概要                     | 担当教職員                                      | 対象者(参加者数)         |
|           | 10月23日<br>10月24日 | 福井県児童科学館                 | 青少年のための科学の祭典福井大会2010出展 | 川本昂                                        | 県内小中学生<br>70名     |
| ■ 電子情報工学科 |                  |                          |                        |                                            |                   |
| 年度        | 実施日              | 出前授業先                    | 概要                     | 担当教職員                                      | 対象者(参加者数)         |
|           | 8月6日             | 越前市生涯学習センター              | LEGOでロボットを作ろう          | 西仁司, 奥田篤士                                  | 小学生16名            |
|           | 10月30日           | 武生東小学校<br>8/4TEL 武生東小PTA | ロボット操作体験教室             | 西仁司                                        | 小学生20~25名         |
|           | 10月30日           | 越前市武生東児童館                | AIBOと遊ぼう               | 西仁司, 学生5名                                  | 小学生およびその保護者25名    |

| ■ 物質工学科   |         |             |                              |                                          |                 |
|-----------|---------|-------------|------------------------------|------------------------------------------|-----------------|
| 年度        | 実施日     | 出前授業先       | 概要                           | 担当教職員                                    | 対象者(参加者数)       |
| 22年度      | 7月21日   | 王子保児童センター   | 越前市男女共同参画センター出前講座「わくわくサイエンス」 | 高山勝己ほか、                                  | 小学1～3年生35人      |
|           | 7月30日   | 武生東児童センター   | 超低温の科学                       | 吉村忠興志、上島晃智、津田良弘、高山勝己、佐々和洋、野村栄市、片岡裕一      | 小学1～6年生50人      |
|           | 8月4日    | 南中山児童館      | 超低温の科学                       | 吉村忠興志、上島晃智、野村栄市、片岡裕一                     | 小学1～3年生25人      |
|           | 8月11日   | 北日野児童館      | 超低温の科学                       | 吉村忠興志、上島晃智、津田良弘、西野純一、佐々和洋、野村栄市、片岡裕一      | 小学1～3年生30人      |
|           | 8月17日   | 越前市生涯学習センター | 超低温の科学                       | 吉村忠興志、津田良弘、加藤敏、野村栄一、片岡裕一                 | 小学1～6年生約30人     |
|           | 8月24日   | 神山保育園       | 超低温の科学                       | 吉村忠興志、小泉貞之、津田良弘、常光幸美、川村敏之、野村栄一、片岡裕一      | 小学1～3年生約42人     |
|           | 8月26日   | 味間野児童センター   | 超低温の科学                       | 吉村忠興志、小泉貞之、西野純一、野村栄市                     | 小学1～6年生30人      |
|           | 8月31日   | 国高児童センター    | 超低温の世界                       | 吉村忠興志、上島晃智、津田良弘、西野純一、松井栄樹、野村栄市、片岡裕一      | 小学1～3年生40人      |
|           | 9月3日    | 福井市清水中学校    | 超低温の世界                       | 吉村忠興志、上島晃智、津田良弘、西野純一、野村栄市、野村栄市、片岡裕一      | 中学1～3年生60人      |
|           | 9月11日   | 鳴鹿公民館       | 超低温の世界                       | 吉村忠興志、上島晃智、津田良弘、松井栄樹、川村敏之、佐々和洋、野村栄市、片岡裕一 | 小学1～3年生50人      |
|           | 10月2日   | 順化小学校       | 身の回りのおもしろ科学（化学）と超低温の世界       | 吉村忠興志、小泉貞之、高山勝己、野村栄市、片岡裕一                | 小学1～3年生と保護者 36人 |
|           | 10月30日  | 東郷小学校       | 身の回りのおもしろ科学（化学）と超低温の世界       | 吉村忠興志、上島晃智、高山勝己、野村栄市、片岡裕一                | 小学5年生と保護者 35人   |
|           | 12月6日   | 社中学校        | バイオエタノールの生成と活用実験             | 高山勝己、吉村忠興志                               | 中学3年生30名        |
| ■ 環境都市工学科 |         |             |                              |                                          |                 |
| 実施日       | 出前授業先   | 概要          | 担当教職員                        | 対象者(参加者数)                                |                 |
| 10月7日     | 武生第一中学校 | 環境のはなし      | 奥村充司                         | 中学3年生 48人                                |                 |
|           |         | 計           | 22 件                         |                                          |                 |

公開講座実施内訳

| 年度   | 実施日                 | 講座名                            | 受講対象者／募集定員                          | 受講者数 |
|------|---------------------|--------------------------------|-------------------------------------|------|
|      | 7月29日               | やってみよう ソーラーカー手作り教室             | 小学校高学年～中学校3年生<br>20名                | 35名  |
|      | 7月28, 29日           | 楽しい電子回路入門 ～マイコンでロボットを動かしてみよう！～ | 中学生<br>15名                          | 15名  |
|      | 8月4, 5日             | おもちゃづくりから学ぶサイエンス               | 中学生<br>20名                          | 2名   |
|      | 8月6, 7日             | 『プリッジコンテスト 2007』～橋をつくってみよう～    | 中学生<br>15名                          | 2名   |
|      | 8月19日               | 電子工作教室 「FMワイヤレスマイクの製作」         | 中学生<br>10名                          | 10名  |
|      | 8月25日               | 化学を楽しまる講座                      | 一般および学生(化学知識に興味のある方)<br>20名         | 1名   |
| 19年度 | 9月8日                | 身の周りの電池のサイエンスを学ぼう              | 中学生<br>10名                          | 2名   |
|      | 9月30日, 10月6, 7, 13日 | 基本情報技術者試験に向けて                  | 高校生以上(秋季試験申込者)<br>10名               |      |
|      | 10月1, 2, 3日         | 品質管理検定に向けたExcelによる品質管理入門       | 一般および学生<br>(Excelで品質管理を上達したい方)20名   | 10名  |
|      | 10月6, 7日            | 英検合格をめざして（3級）                  | 中学生<br>20名                          | 6名   |
|      | 10月6, 7日            | 英検合格をめざして（準2級）                 | 中学生（英検3級取得者）<br>社会人（英語学習を再開したい方）20名 | 1名   |
|      | 12月15, 16日          | 英文法基礎講座                        | 中学3年生<br>20名                        | 6名   |
|      |                     |                                | 12件                                 |      |

公開講座実施内訳

| 年度   | 実施日                            | 講座名                             | 受講対象者／募集定員                                    | 受講者数 |
|------|--------------------------------|---------------------------------|-----------------------------------------------|------|
|      | 6月28日(土) 8月2日(土)               | 「化学」はじめの一歩                      | 化学に興味がある中学3年生以上の初学者<br>20名                    | 3名   |
|      | 7月26日(土) 7月27日(日)              | 『楽しい電子回路入門』－マイコンでロボットを動かしてみよう！－ | 中学生<br>12名                                    | 9名   |
|      | 7月27日(日)                       | 夏休みの自由研究講座「ちからとかたち」             | 小学生高学年<br>10名                                 | 6名   |
|      | 7月27日(日)                       | やってみよう ソーラーカー手作り教室              | 小学生高学年・中学生<br>20名                             | 20名  |
|      | 8月1日(金)<br>8月22日(金)<br>9月5日(金) | 8月8日(金)<br>8月29日(金)<br>9月12日(金) | 技術士第一次試験を突破しよう！！<br>技術士第一次試験の受験を考えている人<br>15名 |      |
| 20年度 | 8月2日(土)<br>8月3日(日)             | 小学生たためのプログラミング                  | 小学生高学年<br>10名                                 | 2名   |
|      | 8月7日(木)                        | 遊びは学び－You・遊・ものづくり教室－            | 中学生<br>15名                                    | 13名  |
|      | 8月11日(月)                       | 電子顕微鏡でミクロな世界を見てみよう              | 中学生<br>10名                                    | 5名   |
|      | 8月16日(土)                       | 忠先生の化学教室                        | 中学生<br>10名                                    | 6名   |
|      | 8月17日(日)                       | 電子工作教室「FMラジオを組み立てよう」            | 小学生・中学生<br>10名                                | 10名  |
|      | 10月4日(土)<br>10月5日(日)           | 英検準2級合格をめざして                    | 中学生(英検3級取得者が望ましい)<br>社会人(英語学習を再開した方)<br>20名   | 4名   |
|      | 12月13日(土)<br>12月14日(日)         | 英文法基礎講座                         | 中学3年生<br>20名                                  | 2名   |
|      |                                |                                 | 12件                                           |      |

公開講座実施内訳

| 年度   | 実施日                      | 講座名                             | 受講対象者／募集定員                                   | 受講者数 |
|------|--------------------------|---------------------------------|----------------------------------------------|------|
|      | 7月25日                    | 小さな大工さん講座 「木造住宅模型をつくろう！」        | 小学生高学年、中学生<br>8名                             | 6名   |
|      | 7月26日                    | やってみよう ソーラーカー手作り教室              | 小学生高学年、中学生<br>20名                            | 20名  |
|      | 7月26日                    | 夏休みの自由研究講座 「ちからとかたち」            | 小学生高学年<br>10名                                | 10名  |
|      | 7月31日                    | 電子顕微鏡でミクロな世界を見てみよう              | 中学生<br>12名                                   | 12名  |
|      | 8月1日                     | おもちゃづくりから学ぶサイエンス                | 中学生<br>20名                                   | 12名  |
| 21年度 | 8月1日， 2日                 | 『楽しい電子回路入門』－マイコンでロボットを動かしてみよう！－ | 中学生<br>6名                                    | 8名   |
|      | 8月16日                    | 電子工作教室「FMラジオを組み立てよう」            | 小学生高学年、中学生<br>10名                            | 9名   |
|      | 8月21日                    | 化学を楽しむ講座                        | 一般及び学生（高校生以上）<br>20名                         | 4名   |
|      | 8月22日                    | 蛍光体の科学—電磁波と材料の不思議な関係—           | 小学生高学年以上<br>6名                               | 2名   |
|      | 8月29日                    | ふるさと福井のかんきょうを測る                 | 小学生高学年、中学生<br>20名                            | 16名  |
|      | 9月19日                    | 英検準2級合格をめざして                    | 中学生（英検3級取得者が望ましい），<br>社会人（英語学習を再開した方）<br>20名 | 5名   |
|      | 10月3日， 4日                | 英検準2級合格をめざして                    | 小学4年生～中学2年生<br>10名                           | 7名   |
|      | 10月10日                   | 初めての簡単プログラミング                   | 小学4年生～中学2年生<br>10名                           | 7名   |
|      | 12月12日， 13日， 19日，<br>20日 | 英文法基礎講座                         | 中学3年生<br>20名                                 | 11名  |
|      |                          |                                 | 13件                                          |      |

公開講座実施内訳

| 年度    | 実施日                               | 講座名                                 | 受講対象者／募集定員              | 受講者数 |
|-------|-----------------------------------|-------------------------------------|-------------------------|------|
|       | 5月16日（日）                          | 防災マップ作成講座①                          | 一般                      | 1名   |
|       | 5月29日（土）                          | 危険物取扱者資格試験乙種第4類受験講座①                | 中学生以上                   | 1名   |
|       | 5月30日（日）                          | 危険物取扱者資格試験乙種第4類受験講座②                | 中学生以上                   |      |
|       | 6月20日（日）                          | 防災マップ作成講座②                          | 一般                      | 4名   |
|       | 7月18日（日）                          | 防災マップ作成講座③                          | 一般                      |      |
|       | 7月24日（土）                          | 小さな大工さん講座<br>「木造住宅模型をつくろう！！」        | 小学校4～6年生<br>中学生         | 12名  |
|       | 7月25日（日）                          | 夏休みの自由研究講座<br>「ちからとかたち」             | 小学校4～6年生<br>中学生         | 10名  |
|       | 7月30日（金）                          | 電子顕微鏡でミクロな世界を見てみよう                  | 中学生                     | 8名   |
|       | 7月31日（土）                          | 手作り風車を作つてみよう                        | 中学生                     | 3名   |
| 2.2年度 | 7月31日（土），8月1日（日）                  | 『楽しい電子回路入門』<br>一マイコンでロボットを動かしてみよう！一 | 中学生                     | 6名   |
|       | 8月1日（日）                           | モータ制御を通して学ぶロボットのしくみ                 | 中学生                     |      |
|       | 8月1日（日）                           | やつてみよう ソーラーカー手作り教室                  | 小学校4～6年生<br>中学生         | 20名  |
|       | 8月15日（日）                          | 電子工作教室「FMラジオを組み立てよう」                | 小学校4～6年生<br>中学生         | 10名  |
|       | 8月21日（土），22日（日）                   | 初めての簡単プログラミング                       | 小学校4～6年生<br>中学生         | 10名  |
|       | 9月11日（土）                          | オリジナル乗（しおり）をつくろう<br>「銅箔の合成とチタンの着色」  | 小学生5～6年生<br>中学生         | 10名  |
|       | 9月11日（土），12日（日）                   | やさしい微生物実験講座                         | 中学生                     | 2名   |
|       | 9月25日（土），26日（日），11月6日（土）          | 英検準2級合格をめざして                        | 中学生以上<br>(英検3級取得者が望ましい) | 5名   |
|       | 10月2日（土）                          | 危険物取扱者資格試験乙種第4類受験講座③                | 中学生以上                   |      |
|       | 10月3日（日）                          | 危険物取扱者資格試験乙種第4類受験講座④                | 中学生以上                   | 3名   |
|       | 12月11日（土），12日（日），12月18日（土），19日（日） | 英文法基礎講座                             | 中学校3年生                  | 21名  |
|       | 計                                 |                                     | 20件                     |      |

## 公開授業実施一覧

| 年度   | 実施教員                         | 授業科目         | 実施日         | 立会教員                                    |
|------|------------------------------|--------------|-------------|-----------------------------------------|
| 21年度 | 中谷 実伸                        | 基礎解析B        | 平成21年12月14日 | 坪川 武弘, 山本 裕之, 荒川 正和, 西 仁司, 長水 壽寛, 宮田 一郎 |
|      | 森 芳周                         | 倫理社会         | 平成21年12月14日 | 小泉 貞之                                   |
|      | 小泉 貞之                        | 分析化学 I       | 平成21年12月14日 | 江本 晃美                                   |
|      | 森 貞                          | 英語 II        | 平成21年12月14日 | 原口 治                                    |
|      | 米田 知晃                        | 情報処理 I       | 平成21年12月15日 | 石栗 慎一, 新谷 邦弘, 西 仁司, 中谷 実伸, 丸山 晃生        |
|      | 齊藤 徹                         | プログラミング応用    | 平成21年12月15日 | 荒川 正和                                   |
|      | 石栗 慎一                        | コンピュータ科学入門   | 平成21年12月15日 | 米田 知晃                                   |
|      | 藤田 克志・江本 晃美・<br>(非常勤講師)高麗 孝弘 | デザイン工学       | 平成21年12月15日 | 阿部 孝弘, 辻野 和彦                            |
|      | 西 仁司                         | 計算機構成        | 平成21年12月16日 | 坪川 武弘                                   |
|      | 平井 恵子                        | プログラミング基礎    | 平成21年12月16日 | 西野 純一, 津田 良弘                            |
|      | 宮本 友紀                        | 英語 I         | 平成21年12月16日 | 柳原 祐治                                   |
|      | 荒川 正和・米田 知晃・河原林 友美           | 電子創造工学       | 平成21年12月16日 | 大久保 茂                                   |
|      | 加藤 敏                         | 化学工学 I       | 平成21年12月16日 | 津田 良弘                                   |
|      | 荻野 繁春                        | 歴史           | 平成21年12月16日 | 朝倉 相一                                   |
|      | 蘆田 昇                         | オペレーティングシステム | 平成21年12月17日 | 奥田 篤士                                   |
|      | 岡本 拓夫                        | 物理(実験)       | 平成21年12月17日 | 石栗 慎一                                   |
|      | 西野 純一                        | ものづくり科学      | 平成21年12月17日 | 佐々 和洋                                   |
|      | 奥村 充司                        | 環境衛生         | 平成21年12月17日 | 坪川 武弘                                   |
|      | 米田 知晃                        | ものづくり科学      | 平成21年12月17日 | 川本 昂                                    |
|      | 阿部 孝弘                        | ものづくり科学      | 平成21年12月17日 | 吉田 雅穂                                   |
|      | 芳賀 正和                        | 熱機関          | 平成21年12月17日 | 藤田 克志                                   |
|      | 朝倉 相一                        | 数理統計学        | 平成21年12月17日 | 廣部 英一                                   |
|      | 新谷 邦弘                        | 電気回路 I       | 平成21年12月17日 | 米田 知晃                                   |
|      | 藤田 克志・芳賀 正和                  | ものづくり科学      | 平成21年12月17日 | 岡田 将人                                   |
|      | 西 仁司                         | ものづくり科学      | 平成21年12月17日 | 金田 直人                                   |
|      | 吉田 雅穂                        | 構造力学 I       | 平成21年12月18日 | 村中 貴幸, 奥村 充司, 辻子 裕二, 長水 壽寛, 辻野 和彦       |
|      | 坪川 武弘                        | 解析III        | 平成21年12月18日 | 柳原 祐治                                   |
|      | 藤田 卓郎                        | コミュニケーション I  | 平成21年12月18日 | 宮本 友紀                                   |
|      | 長水 壽寛                        | 基礎解析A        | 平成21年12月18日 | 亀山 建太郎                                  |
|      | 荒川 正和                        | 電気工学 I       | 平成21年12月18日 | 米田 知晃                                   |
|      | 前多 信博                        | 計測工学 I       | 平成21年12月18日 | 米田 知晃                                   |
|      | 青山 義弘                        | 計算機構成論 I     | 平成21年12月18日 | 西 仁司                                    |
|      | 新谷 邦弘                        | 電気機器         | 平成21年12月18日 | 河原林 友美                                  |
|      | 加藤 省三                        | コンピュータ科学入門   | 平成21年12月18日 | 平井 恵子                                   |
|      | 荒川 正和                        | 電気電子工学実験III  | 平成21年12月18日 | 佐藤 匡                                    |
|      | 奥田 篤士                        | コンピュータ科学入門   | 平成21年12月22日 | 加藤 省三                                   |
|      | 亀山 建太郎                       | 自動制御         | 平成22年1月14日  | 佐藤 匡, 村中 貴幸, 坪川 武弘, 河原林 友美, 芳賀 正和       |
|      | 加藤 敏                         | 化学工学II       | 平成22年1月19日  | 西野 純一, 小泉 貞之, 芳賀 正和, 丸山 晃生, 津田 良弘       |

## 公開授業実施一覧

| 年度   | 実施教員                    | 授業科目          | 実施日        | 立会教員                                     |
|------|-------------------------|---------------|------------|------------------------------------------|
| 22年度 | 坪川 武弘                   | 解析III         | 平成22年6月28日 | 江本 晃美                                    |
|      | 辻野 和彦                   | 測量学           | 平成22年6月28日 | 江本 晃美                                    |
|      | 西野 純一                   | 物理化学 I        | 平成22年6月28日 | 加藤 敏                                     |
|      | 吉田 雅穂                   | 構造力学II        | 平成22年6月29日 | 田安 正茂, 江本 晃美                             |
|      | 中谷 実伸                   | 基礎解析A         | 平成22年6月29日 | 森 芳周                                     |
|      | 吉村 忠與志                  | 情報化学          | 平成22年6月29日 | 佐々 和洋                                    |
|      | 横井 三朗                   | 基礎解析A         | 平成22年6月29日 | 柳原 祐治, 坪川 武弘                             |
|      | 岡田 将人                   | 機械工作実習        | 平成22年6月29日 | 村中 貴幸, 丸山 晃生                             |
|      | 小寺 光雄                   | 英語V           | 平成22年6月29日 | 中村 吉秀                                    |
|      | 間瀬 実郎                   | 建築計画 I        | 平成22年6月29日 | 江本 晃美                                    |
|      | 小泉 貞之・佐々 和洋             | 物質工学実験 I      | 平成22年6月29日 | 西野 純一                                    |
|      | 近藤 基和                   | 基礎解析B         | 平成22年6月29日 | 廣重 準四郎                                   |
|      | 間瀬 実郎・江本 晃美・坪川 茂        | 環境都市工学設計製図 I  | 平成22年6月30日 | 辻野 和彦                                    |
|      | 西野 純一                   | 無機化学          | 平成22年6月30日 | 小泉 貞之                                    |
|      | 大久保 茂                   | 電気回路演習        | 平成22年6月30日 | 荒川 正和                                    |
|      | 加藤 清考                   | 工学基礎物理 I (3M) | 平成22年6月30日 | 藤田 克志                                    |
|      | 加藤 清考                   | 工学基礎物理 I (3B) | 平成22年6月30日 | 池田 昌弘                                    |
|      | 辻野 和彦                   | 測量学           | 平成22年7月1日  | 阿部 孝弘, 奥村 充司, 坪川 武弘, 岡田 将人, 江本 晃美, 吉田 雅穂 |
|      | 小泉 貞之                   | 放射線概論         | 平成22年7月1日  | 高山 勝己                                    |
|      | 近藤 基和                   | 基礎解析B         | 平成22年7月1日  | 朝倉 相一                                    |
|      | 吉田 三郎                   | 英語II          | 平成22年7月1日  | 柳原 祐治                                    |
|      | 村中 貴幸                   | 材料力学II        | 平成22年7月1日  | 山本 幸男                                    |
|      | 荒川 正和                   | 電気電子工学実験 II   | 平成22年7月1日  | 佐藤 匡                                     |
|      | 西 仁司                    | 数値計算          | 平成22年7月1日  | 下條 雅史, 蘆田 昇                              |
|      | 吉田 三郎                   | 英語II          | 平成22年7月2日  | 荻野 繁春                                    |
|      | 平井 恵子・佐々 和洋             | 卒業研究          | 平成22年7月2日  | 松井 栄樹                                    |
|      | 高久 有一                   | 電気磁気学II       | 平成22年7月2日  | 西 仁司                                     |
|      | 丸山 晃生                   | 情報処理システム論I    | 平成22年7月2日  | 村中 貴幸, 大久保 茂                             |
|      | 石栗 慎一                   | 電気機器          | 平成22年7月2日  | 荒川 正和                                    |
|      | 前田 安信                   | 国語表現          | 平成22年7月2日  | 山本 裕之                                    |
|      | 川本昂・村中貴幸・青山義弘・小泉貞之・間瀬実郎 | 創造デザイン演習      | 平成22年7月2日  | 米田 知晃                                    |
|      | 藤田 克志                   | 流れ学II         | 平成22年7月2日  | 加藤 清考                                    |
|      | 池田 昌弘                   | 工学基礎物理 I      | 平成22年7月2日  | 加藤 清考                                    |
|      | 辻野 和彦                   | 測量学           | 平成22年7月5日  | 阿部 孝弘                                    |
|      | 河原林 友美                  | 電子回路 I        | 平成22年7月5日  | 米田 知晃                                    |
|      | 前多 信博                   | 計測工学 I        | 平成22年7月6日  | 河原林 友美                                   |
|      | 奥田 篤士                   | コンピュータ科学入門    | 平成22年7月6日  | 加藤 省三                                    |
|      | 村中 貴幸                   | 知能機械演習        | 平成22年7月12日 | 加藤 寛敬                                    |
|      | 大久保 茂                   | 電気回路IV        | 平成22年7月12日 | 川本 昂                                     |
|      | 田安 正茂・江本 晃美             | 環境都市工学実験実習    | 平成22年7月16日 | 間瀬 実郎                                    |

※平成22年12月31日現在

## 教員の派遣一覧 — 平成16年度以降 —

### ■海外先進教育実践支援プログラム

| 年度             | 氏名    | 学科等     | 渡航期間                     | 渡航先国名   | 研究題目                 |
|----------------|-------|---------|--------------------------|---------|----------------------|
| 平成16<br>(2004) | 常光 幸美 | 物質工学科   | H17.3. 30<br>～H18. 3. 29 | 連合王国    | めつきプロセスによる金属ナノ構造材料創製 |
|                | 吉田 雅穂 | 環境都市工学科 | H17.3. 25<br>～H18. 3. 24 | アメリカ合衆国 | 安全なものづくりのための力学教育法の構築 |

### ■国際研究集会派遣研究員

| 年度             | 氏名     | 学科等   | 渡航期間                       | 渡航先国名   | 研究集会名          |
|----------------|--------|-------|----------------------------|---------|----------------|
| 平成17<br>(2005) | 吉村 忠興志 | 物質工学科 | H17.12. 15<br>～H17. 12. 20 | アメリカ合衆国 | 2005環太平洋国際化学会議 |

### ■独立行政法人国立高等専門学校機構内地研究員

| 年度             | 氏名    | 学科等     | 渡航期間                     | 派遣先大学名          | 研究題目                             |
|----------------|-------|---------|--------------------------|-----------------|----------------------------------|
| 平成18<br>(2006) | 岡田 将人 | 機械工学科   | H18.5. 1<br>～H19. 2. 28  | 金沢大学大学院         | CBN(立方晶窒化ホウ素)工具を用いたハーデミリングに関する研究 |
|                | 田安 正茂 | 環境都市工学科 | H18.5. 1<br>～H19. 2. 28  | 長岡技術科学大学<br>大学院 | 人工構造物に作用する流体力の数値計算法の開発およびその現地検証  |
| 平成22<br>(2010) | 金田 直人 | 機械工学科   | H22. 5. 1<br>～H23. 2. 28 | 金沢大学大学院         | 合織仮燃加工における撃トルク発生のメカニズムに関する研究     |

### ■独立行政法人国立高等専門学校機構在外研究員

| 年度             | 氏名    | 学科等     | 渡航期間                    | 渡航先国名                | 取組名称                            |
|----------------|-------|---------|-------------------------|----------------------|---------------------------------|
| 平成19<br>(2007) | 丸山 晃生 | 電気電子工学科 | H20.3. 30<br>～H21. 3. 1 | オーストラリア国立大学<br>(ANU) | 非古典論理に対する自動推論システムの構築とその高専教育への展開 |

※平成22年12月31日現在

## 自己点検・評価委員会委員名簿

|       |         |                      |
|-------|---------|----------------------|
| 委 員 長 | 池 田 大 祐 | 校 長                  |
| 委 員   | 安 丸 尚 樹 | 副校長（教務主事）            |
| 委 員   | 上 島 晃 智 | 副校長（学生主事）            |
| 委 員   | 島 田 茂   | 副校長（寮務主事）            |
| 委 員   | 田 中 嘉津彦 | 副校長（企画室長）            |
| 委 員   | 阿 部 孝 弘 | 校長補佐（専攻科長）・JABEE 委員長 |
| 委 員   | 加 藤 寛 敬 | 機械工学科長・教育システム評価委員長   |
| 委 員   | 前 多 信 博 | 電気電子工学科長             |
| 委 員   | 蘆 田 昇   | 電子情報工学科長             |
| 委 員   | 津 田 良 弘 | 物質工学科長               |
| 委 員   | 廣 部 英 一 | 環境都市工学科長             |
| 委 員   | 山 本 裕 之 | 一般科目教室（自然科学系）主任      |
| 委 員   | 前 田 安 信 | 一般科目教室（人文社会科学系）主任    |
| 委 員   | 小 寺 光 雄 | 図書館長                 |
| 委 員   | 坪 川 武 弘 | 創造教育開発センター長          |
| 委 員   | 加 藤 省 三 | 総合情報処理センター長          |
| 委 員   | 山 田 幹 雄 | 地域連携テクノセンター長         |
| 委 員   | 前 川 公 男 | 教育研究支援センター長          |
| 委 員   | 武 田 良 正 | 事務部長                 |

平成23年3月発行

編 集 福井工業高等専門学校自己点検・評価委員会

発行者 独立行政法人 国立高等専門学校機構  
福井工業高等専門学校  
〒916-8507 福井県鯖江市下司町  
TEL 0778-62-1111 (代)  
FAX 0778-62-2597 (総務課)  
URL <http://www.fukui-nct.ac.jp>